# 平成17年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

# 

- 熊谷都市計画事業籠原中央第二土地区画整理事業地内遺跡発掘調査報告書-

2 0 0 6

埼玉県熊谷市教育委員会

# 平成17年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

拾 六 間 後 遺 跡

一熊谷都市計画事業籠原中央第二土地区画整理事業地内遺跡発掘調査報告書一

2 0 0 6

埼玉県熊谷市教育委員会



調査区 (A区) 遠景 (北から)



調査区 (A区) 遠景 (西から)

平成17年10月1日、熊谷市、大里町、妻沼町の一市二町が合併して、新「熊谷市」が誕生いたしました。

新「熊谷市」は、南北約20km、東西約14kmにわたり、面積は137.03km。人口は19万人を越えることとなり、県北最大の都市として生まれ変わりました。

新市は、関東平野を縦横に流れる荒川と利根川の2大河川が最も近接する流域 に位置し、平坦な地形に肥沃な大地と豊かな自然が広がっております。

こうした自然環境のもと、新市内には先人たちによって多くの文化財が営々と築かれてきました。これらの文化財は、郷土の発展やその過程を物語る証しであるとともに、私たちの子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。私たちは、こうした文化遺産を継承し、次世代へと伝え、さらに豊かな熊谷市形成のための礎としていかなければならないと考えております。

さて、熊谷市では市民が暮らしやすく、生活環境の豊かさを実感できる土地利用を図ることを目的に土地区画整理事業を進めております。JR高崎線籠原駅南口に広がる籠原中央第二土地区画整理事業もその一つであります。事業地内には事前の試掘調査により、奈良・平安時代から近世にかけての遺構が確認されました。遺跡の重要性を鑑みて、関係部局と保存に向けて協議を行ってまいりましたが、土地区画整理事業上やむを得ず計画等の変更ができない街路築造工事に関しては、記録保存の措置を講ずることとなりました。

本書は、昭和63年度に発掘調査を行った拾六間後遺跡について報告するものであります。遺跡からは主に奈良・平安時代の集落跡が発見され、集落跡が小規模ながらもほぼ絶えることなく営まれていたことがわかりました。この成果は、近年深谷市で発見された古代の役所跡と推測される幡羅遺跡を中心とする当地域の様相を明らかにする上で大変貴重なものといえます。

本書は、新市として初めて刊行する埋蔵文化財発掘調査報告書となります。本書が埋蔵文化財保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広くご活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書刊行に至るまで、文化財保護法の趣旨を尊重され、ご理解ご協力を賜りました熊谷市都市整備部都市計画課、土地区画整理西部事務所、並びに地元関係者には厚くお礼申しあげます。

平成18年3月

熊谷市教育委員会教育長 野原 晃

# 例 言

- 1 本書は、埼玉県熊谷市新堀新田字拾六間後457-2番地他に所在する拾六間後遺跡(埼玉県遺跡番号 59-059)の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、熊谷都市計画事業籠原中央第二土地区画整理事業に伴う事前記録保存のための発掘調査であり、熊谷市教育委員会が実施した。
- 3 本事業の組織は、第 I 章 3 のとおりである。
- 4 発掘調査期間は、昭和63年7月1日から10月22日までである。 整理・報告書作成期間は、平成17年4月1日から平成18年3月31日までである。
- 5 発掘調査は、熊谷市教育委員会金子正之が行い、本書の執筆・編集は、松田 哲が行った。
- 6 発掘調査における写真撮影は金子が、遺物の写真撮影は松田が行った。
- 7 出土品の整理及び図版の作成は、稲葉真弓、岩瀬悦子、木村のぶ子、松尾伊津恵の協力を得て、松田が行った。陶磁器については秋本太郎、石器の石質鑑定については村松 篤の両氏からご教示を得た。
- 8 本書にかかる資料は、熊谷市教育委員会が保管している。
- 9 本書の作成にあたり、下記の方々及び機関等からご教示、ご協力を賜った。記して感謝申し上げます。(敬称略、五十音順)

青木克尚 秋本太郎 出縄康行 小林 高 鈴木敏昭 知久裕昭 永井智教 村松 篤 大里郡市町文化財担当者会 埼玉県教育局生涯学習文化財課 埼玉県立埋蔵文化財センター (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団

# 凡例

本書における挿図指示は、次のとおりである。

1 遺構挿図の縮尺は、次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。

調査区全測図… 1 / 600 住居跡・土坑・集石… 1 / 60 掘立柱建物跡・溝跡… 1 / 80 溝跡断面図… 1 / 40 火葬跡… 1 / 20

2 遺構挿図中のスクリーントーン等は、次のとおりである。

= 地 山 = 焼 土 = 炭化物 = 骨片・骨粉

- 3 遺構挿図中、断面に添えてある数値は標高を示している。
- 4 遺物挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。 土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・瓦・陶磁器・かわらけ・縄文土器…1/4 鉄・銅製品・土製品…1/3 古銭…1/2 石器・石製品…1/3・1/4
- 5 遺物実測図の表現方法は、以下のとおりである。

土師器・陶磁器・かわらけ・土製品・石製品・縄文土器・石器断面:白抜き

須恵器断面:黒塗り 灰釉・緑釉陶器断面:

鉄製品断面: 瓦断面:

須恵器底部調整 回転糸切り へ

回転へラ削り

回転ヘラナデ

- 6 遺物拓影図のうち、向かって左に外面、右に内面を示した。
- 7 遺物観察表の表現方法は、以下のとおりである。

法量の単位はcm、gである。() が付されるものは推定値、現存値を表す。

胎土は、土器に含まれる鉱物等を以下の記号で示した。

A…白色粒子 B…黒色粒子 C…赤色粒子 D…褐色粒子 E…赤褐色粒子 F…白色針状物質 G…長石 H…石英 I…白雲母 J…黒雲母 K…角閃石 L…片岩 M…砂粒 N…礫

- 8 写真図版の遺物縮尺は、すべて任意である。
- 9 土層及び土器の色調は、『新版標準土色帖第14版』(小山正忠・竹原秀雄編著、農林水産省農林水産 技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色標監修、日本色研事業株式会社発行 1994) を参 考にした。

# 目 次

| 口絵  |   |
|---|---|
| 序   |   |
| 例言  |   |
| 凡例  |   |
| 目 次   |   |
|   | 0.0   |
| I 発掘調査の概要1  | 2 掘立柱建物跡39  |
| 1 調査に至る経過1  | 3 溝 跡41   |
| 2 発掘調査・報告書作成の経過1  | 4 土 坑46   |
| 3 発掘調査、整理・報告書刊行の組織 ・・2  | 5 集 石55   |
| Ⅱ 遺跡の立地と環境3   | 6 火葬跡57   |
| Ⅲ 遺跡の概要9  | 7 ピット57   |
| 1 調査の方法9  | 8 遺構外出土遺物58                                       |
| 2 検出された遺構と遺物9   | V 調査のまとめ ······69                                 |
| Ⅳ 遺構と遺物 ・・・・・・・15   |   |
| 1 住居跡15   |   |
|   |   |
| 插図  | 目次  |
| 1十四   |   |
| 第1図 埼玉県の地形図3  | 第15図 第5号住居跡28                                     |
| 第 2 図 周辺遺跡分布図 · · · · · · · 5   | 第16図 第5号住居跡出土遺物 · · · · · · · · 29                |
| 第 3 図 調査地点位置図10   | 第17図 第6号住居跡・出土遺物 ・・・・・・・31                        |
| 第 4 図 調査区 (A区) 全測図 ······13   | 第18図 第7号住居跡32                                     |
| 第 5 図 第 1 号住居跡15  | 第19図 第7号住居跡遺物出土状況 ······33                        |
| 第 6 図 第 1 号住居跡出土遺物16  | 第20図 第7号住居跡出土遺物 (1) ·····34                       |
| 第7図 第2号住居跡・遺物出土状況18   | 第21図 第7号住居跡出土遺物 (2) ·····35                       |
| 第8図 第2号住居跡出土遺物 (1) ·····19  | 第22図 第8号住居跡37                                     |
| 第 9 図 第 2 号住居跡出土遺物 (2) ·····20  | 第23図 第8号住居跡出土遺物 · · · · · · · · 38                |
| 第10図 第3号住居跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·   | 第24図 第1・2号掘立柱建物跡・出土遺物 40                          |
| 第10図 第3号住居跡遺物出土状況 · · · · · · 23  | 第25図 第1·2号溝跡 ·······42                            |
|   | 第26図 第3~5号溝跡・出土遺物・・・・・・43                         |
|   | 第27図 第6・7号溝跡・出土遺物・・・・・・・44                        |
| <ul><li>第13図 第4号住居跡 · · · · · · · · · · · · · · · 26</li><li>第14図 第4号住居跡出土遺物 · · · · · · · · · 27</li></ul> | 第28図 第1~7号土坑 ·······47                            |
|   | 毎20区 毎1~(毎1切 ************************************ |

| 第29図 | 第8~12号土坑50                 | 第35図 遺構外出土遺物(1)59        |
|------|----------------------------|--------------------------|
| 第30図 | 第13~16号土坑 · · · · · · · 52 | 第36図 遺構外出土遺物(2)61        |
| 第31図 | 土坑出土遺物 (1)53               | 第37図 遺構外出土遺物 (3)62       |
| 第32図 | 土坑(2)・ピット出土遺物 ・・・・・54      | 第38図 遺構外出土遺物(4)63        |
| 第33図 | 第 1 号集石 · · · · · · 56     | 第39図 遺構外出土遺物 (5)64       |
| 第34図 | 第1号火葬跡56                   | 第40図 遺構外出土遺物 (6)65       |
|      | <b>插</b> 去                 | ·目次                      |
|      | 1中4                        |                          |
| 第1表  | 周辺遺跡一覧表6                   | 第11表 第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表 41 |
| 第2表  | 周辺古墳群一覧表7                  | 第12表 第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表 41 |
| 第3表  | 第1号住居跡出土遺物観察表17            | 第13表 第5号溝跡出土遺物観察表45      |
| 第4表  | 第2号住居跡出土遺物観察表21            | 第14表 第6号溝跡出土遺物観察表45      |
| 第5表  | 第3号住居跡出土遺物観察表25            | 第15表 土坑一覧表46             |
| 第6表  | 第4号住居跡出土遺物観察表26            | 第16表 土坑出土遺物観察表54         |
| 第7表  | 第5号住居跡出土遺物観察表30            | 第17表 ピット出土遺物観察表57        |
| 第8表  | 第6号住居跡出土遺物観察表31            | 第18表 ピット計測表58            |
| 第9表  | 第7号住居跡出土遺物観察表35            | 第19表 遺構外出土遺物観察表65        |
| 第10表 | 第8号住居跡出土遺物観察表39            |                          |
|      | 図版                         | 目次                       |
|      |                            |                          |
| 図版1  | 調査区(A区)全景(真上から)            | 第3号住居跡カマド                |
| 遺構   |                            | 第4号住居跡                   |
| 図版 2 | 第1号住居跡                     | 第4号住居跡 土器出土状況            |
|      | 第1号住居跡カマド                  | 第5号住居跡カマド                |
|      | 第1号住居跡 土器出土状況              | 図版4 第5号住居跡               |
|      | 第1号住居跡 鉄製品(刀子)出土状況         | 第6号住居跡・第1号土坑             |
|      | 第1号住居跡 鉄滓出土状況              | 第7号住居跡                   |
|      | 第1号住居跡 石製品出土状況             | 第7号住居跡 土器出土状況            |
|      | 第2号住居跡                     | 第8号住居跡                   |
|      | 第2号住居跡 遺物出土状況 (1)          | 第8号住居跡 土器出土状況            |
| 図版 3 | 第2号住居跡 遺物出土状況 (2)          | 第1号溝跡                    |
|      | 第2号住居跡 遺物出土状況 (3)          | 図版 5 第 2 号溝跡             |
|      | 第2号住居跡 土器出土状況              | 第3・4号溝跡                  |
|      | 第3号住居跡                     | 第5号溝跡                    |

|      | 第6号溝跡    |                    | 図版11 | 第4号住居跡  | 第14図 3・4・9・10・12・      |
|------|----------|--------------------|------|---------|------------------------|
|      | 第7号溝跡    |                    |      |         | 13.15                  |
|      | 第2号土坑 礫  | <b>検出状況</b>        |      | 第5号住居跡  | 第16図 2                 |
|      | 第7号土坑    |                    | 図版12 | 第5号住居跡  | 第16図 3・4・6・26・28・29    |
| 図版6  | 第7号土坑 土  | :器出土状況(1)          |      | 第6号住居跡  | 第17図1                  |
|      | 第7号土坑 土  | 器出土状況(2)           |      | 第7号住居跡  | 第20図1・4                |
|      | 第7号土坑 土  | 器出土状況(3)           | 図版13 | 第7号住居跡  | 第20図 5・7・32・33         |
|      | 第8号土坑    |                    |      |         | 第21図51・52              |
|      | 第8号土坑 磔  | <b>美検出状況</b>       |      | 第8号住居跡  | 第23図 4・5・6・7           |
|      | 第9・10号土均 | π                  | 図版14 | 第8号住居跡  | 第23図18・19・20・22・27     |
|      | 第9・10号土均 | 亢 遺物出土状況           |      | 第7号土坑   | 第31図1・3                |
|      | 第9号土坑 鉓  | 1製品出土状況            |      | 第13号土坑  | 第32図3                  |
| 図版 7 | 第10号土坑 砀 | <b>滋器出土状</b> 況     | 図版15 | 第13号土坑  | 第32図4                  |
|      | 第10号土坑 翁 | <b>同製品(煙管)出土状況</b> |      | 第14号土坑  | 第32図 1                 |
|      | 第10号土坑   | 古銭出土状況             |      | ピット35 第 | 第32図 1                 |
|      | 第11号土坑   |                    |      | 遺構外 第36 | 6図13・14・57底面           |
|      | 第12号土坑   |                    |      | 第39     | )図113                  |
|      | 第12号土坑 磁 | 樂検出状況              |      | 第40     | )図119                  |
|      | 第13号土坑   |                    | 図版16 | 第1号住居跡  | 第6図6・7                 |
|      | 第14号土坑 二 | 上器出土状況             |      | 第2号住居跡  | 第8図8・9・10・11・12・       |
| 図版 8 | 第15号土坑 硝 | 樂検出状況              |      |         | 13.14                  |
|      | 第16号土坑 硝 | 樂検出状況              |      | 第3号住居跡  | 第12図13・14・15・16・       |
|      | 第1号集石    |                    |      |         | 17.18.19               |
|      | 第1号火葬跡   |                    |      | 第5号住居跡  | 第16図15・16・17・18・       |
|      | 第1号火葬跡   | 炭化物検出状況            |      |         | 19.20.21.22            |
|      | ピット35 土器 | 器出土状況              |      |         | 第20図27・28・29・30・31     |
|      | ピット38~48 |                    | 図版17 |         | 建物跡 第24図 2・3           |
|      | 作業風景     |                    |      |         | 建物跡 第24図 1             |
| 遺物   |          |                    |      |         | 第31図1・2・3              |
| 土師器  | ・須恵器・灰釉陶 | 国器・緑釉陶器            |      | 第5号土坑   |                        |
| 図版 9 |          | 第6 図 5・8・9・12      |      | 第7号土坑   |                        |
|      | 第2号住居跡   | 第8図1・2・4           |      | ピット31 第 |                        |
|      |          | 第9図17              |      | 遺構外 第37 | 7図59·62·63·67·69·72·   |
| 図版10 |          | 第9図18・19・20・21・22  |      | •       | 73.75.76.78.79         |
|      | 第3号住居跡   | 第12図21・23暗文        |      |         | 8図80·81·85·87·88·89·90 |
|      | 第4号住居跡   | 第14図 1             | 図版18 | 遺構外 第38 | 8図93·94·96·98          |

第39図100・103・105・109・110 石製品

第2号住居跡 第8 図15・16

第5号住居跡 第16図23・24・25

遺構外 第39図114・115・116・117・118

土製品

図版18 第3号住居跡 第12図27

遺構外 第40図129

銅製品

図版18 第9号土坑 第31図7

第10号土坑 第31図7・8

鉄製品·鉄滓

図版19 第1号住居跡 第6 図13・14

第5号住居跡 第16図34

第8号住居跡 第23図30

第9号土坑 第31図6

遺構外 第40図130・131・132・133

図版19 第1号住居跡 第6図15

第2号住居跡 第9図24

第4号住居跡 第14図19

第5号住居跡 第16図35・36

遺構外 第40図134

陶磁器

図版20 第9号土坑 第31図1・2・3・4・5

第10号土坑 第31図1・2・3・4・5・6

遺構外 第40図137

縄文土器

図版20 第7号住居跡 第21図59

遺構外 第35図1・2・3・4・5

縄文石器

図版20 第9号土坑 第31図8

遺構外 第35図6・7・8・9・10・11

# Ⅰ 発掘調査の概要

### 1 調査に至る経過

熊谷市土地区画整理西部事務所長より、昭和62年9月29日付けで籠原中央第二土地区画整理事業地内における昭和63年度施行予定区域の埋蔵文化財の所在及び試掘に関する依頼書が提出された。これを受け、熊谷市教育委員会では、昭和63年2月初旬に事業地内における遺跡の範囲確認調査を実施したところ、奈良・平安時代から近世にかけての集落跡が分布することが確認された。この結果を踏まえ、熊谷市教育委員会教育長より昭和63年2月22日付けで熊谷市土地区画整理西部事務所長あてに次のように回答した。

区画整理事業地内には、埋蔵文化財包蔵地(拾六間後遺跡)が所在する。当該地は開発計画予定地から除外し、現状保存することが望ましい。やむを得ず現状変更する場合には、文化財保護法第57条の3の規定により事前に文化庁長官へ埋蔵文化財発掘通知を提出し、記録保存のための発掘調査を実施すること。なお、発掘調査を実施する場合には、事前に当教育委員会及び埼玉県教育委員会と協議すること。その後、保存について協議を重ねたが工事計画の変更は不可能であると判断されたため、再度遺跡の詳細な範囲確認調査を昭和63年4月下旬に実施し、遺構の確認された箇所のみ記録保存の措置を講ずることとなった。文化財保護法第57条の3の規定に基づく埋蔵文化財発掘の通知は、熊谷市長より昭和63年6月21日付け熊教社発第362号で文化庁長官あてに提出された。文化財保護法第98条の2第1項の規定に基づく発掘調査に関わる熊谷市教育委員会からの通知は、昭和63年6月21日付け熊教社発第363号で提出された。そして、文化庁からの指示通知は、平成元年1月18日付け63委保記第2-4764号であった。

# 2 発掘調査・報告書作成の経過

#### (1) 発掘調査

発掘調査は、昭和63年7月1日から10月22日まで行われた。調査面積は2,400m2である。

まず、7月初旬から重機による表土除去及び作業員による遺構確認作業を行った。そして、7月下旬から9月中旬にかけて遺構の発掘及び土層断面図の作成、遺物の取り上げ、写真撮影などの作業を順次行っていった。9月下旬からは遺構平面図を作成し、10月中旬には調査区の航空写真撮影を行い、現場におけるすべての作業を終了した。

### (2) 整理・報告書作成

整理・報告書作成作業は、平成17年4月から平成18年3月まで実施した。第1四半期は、遺物の洗浄・注記・接合・復元作業等を行い、併行して遺構の図面整理を行った。第2四半期は、遺物の実測・トレース、遺構のトレースを開始し、第3四半期には遺構・遺物の版組を作成した。第4四半期に入ると、遺物の写真撮影を行い、終了したものから順次写真図版の割付け・編集作業、原稿執筆を行った。

そして、印刷業者選定の後、報告書の印刷に入り、校正を行い、3月末日に報告書を刊行した。

# 3 発掘調査、整理・報告書刊行の組織

主体者 熊谷市教育委員会

### (1) 発掘調査

昭和63年度

教育長

関根幸夫

教育次長

岡田 詮

社会教育課長

高田普通

社会教育課長補佐

小林武夫

社会教育課振興係長

北俊明

主査

森田博明

主任

米澤ひろみ

主任

金子正之

主事

権田宣行

### (2) 整理·報告書刊行

平成17年度

教育長

飯塚誠一郎 (平成17年12月22日まで)

野 原 晃 (平成17年12月23日より)

教育次長

増田和己

社会教育課長

長島泰久

社会教育課担当副参事

岩本克昌

社会教育課長補佐

並木博雄(平成17年9月30日まで)

社会教育課副課長

岩 上 精 純 (平成17年10月1日より)

社会教育課文化財保護係主幹兼係長 金子正之

. 12, 11, ~

主査

寺社下 博

...

吉野 健

主任

松田 哲

主事

松村 聡

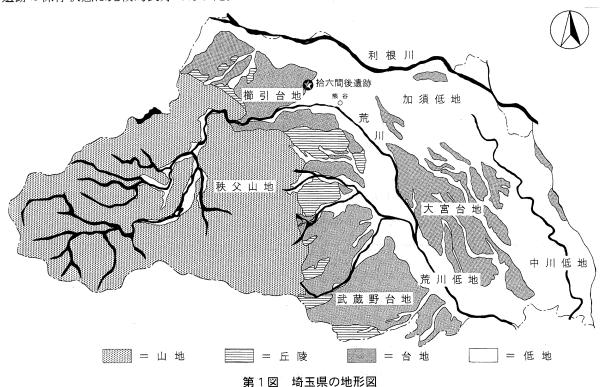
# Ⅱ 遺跡の立地と環境

熊谷市は埼玉県北部に位置する県北最大の市である。平成17年10月1日には、北側に位置する妻沼町、南東に位置する大里町と合併し、新「熊谷市」として発足したところである。熊谷市は北側で群馬県との境を利根川が、南側では旧熊谷市と旧大里町との境を荒川がそれぞれ西から南東方向に向って流れており、両河川が最も近接する地域である。地形的には、市の西側に櫛引台地、荒川を挟んで南側には江南台地、北側及び東側には妻沼低地が広がっているが、市の大半は妻沼低地上にある(第1図)。

櫛引台地は、洪積世に形成された荒川扇状地の左岸一帯の総称で、寄居町の波久礼付近を扇頂として 東は熊谷市西部の三ヶ尻付近まで、北東方向へはJR高崎線籠原駅から北へ約2kmの距離にある西別府 付近にまで延びている。標高は約36~54mで、妻沼低地に向って緩やかに下っていく。また、三ヶ尻 や西別府地区では、台地裾にかつて湧水地が多数あったという。

櫛引台地の東側には、沖積世に荒川の乱流により新たに形成された新荒川扇状地が広がっている。新 荒川扇状地は、熊谷市の南西に位置する旧川本町(現在、深谷市)の菅沼付近を扇頂として妻沼低地へ と広がっており、自然堤防や後背湿地が発達している。また、三ヶ尻地区の荒川に面した櫛引台地南東端には、丘陵地である観音山(標高81m、第3紀層の残丘)があり、台地上からの比高差は約25m、沖積地からの比高差は約35mを測る。

今回報告する拾六間後遺跡は、標高約40mの櫛引台地東端縁辺部に立地している。熊谷市西部の新堀新田地区に所在し、すぐ西側には深谷市が隣接する。遺跡はJR高崎線籠原駅南口から約1.2kmの距離にあるが、この辺り一帯は関東造盆地運動による地盤の沈降及び河川の氾濫等の影響を受け、ローム層までは厚い表土層に覆われており、現地表面から関東ローム層までは深い所で約1.5mを測る。そのため、遺跡の保存状態は比較的良好であった。



次に拾六間後遺跡周辺の歴史的環境について概観する。

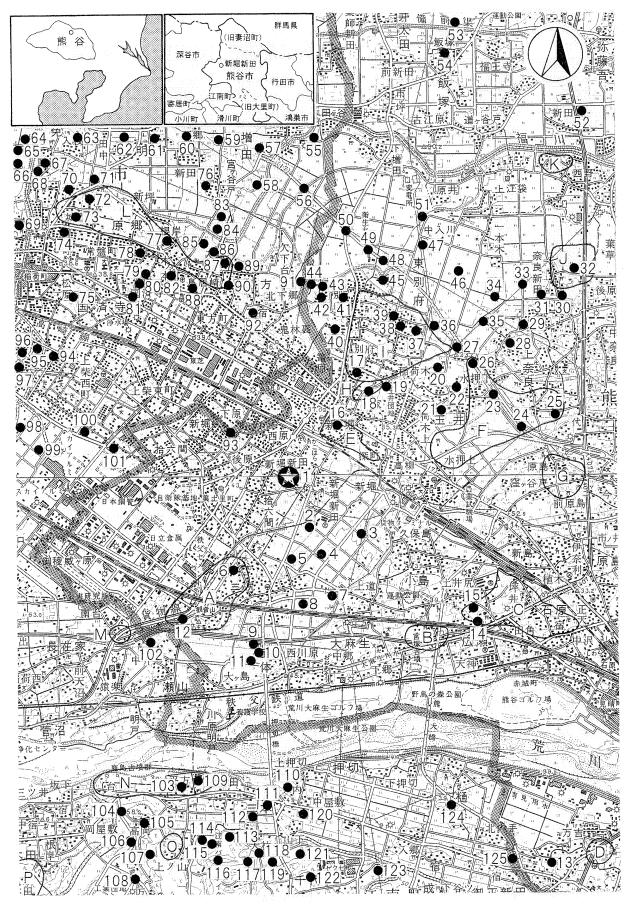
旧石器時代は、本遺跡の北約1kmに所在する籠原裏遺跡(16)から出土した黒耀石の尖頭器が唯一の事例である。その他には、荒川右岸の江南台地上に立地する江南町西原遺跡(116)以外にみられない。縄文時代は早期段階まで溯る。荒川右岸では多数遺跡がみられるが、本遺跡周辺では櫛引台地北端に位置する深谷市東方城跡(89)において早期の尖頭器が検出されているのみである。前期になると遺跡数も次第に増えはじめる。台地上では三ヶ尻遺跡(6)、低地上では寺東遺跡(36)などで集落跡が確認されている。中期は遺跡数が非常に多くなり、特に中期後半、加曽利臣式期のものが多い。前期同様、台地及び低地上からも集落跡が確認されているが、特に櫛引台地北東端及び台地下の妻沼低地自然堤防上に集中する。隣接する深谷市でも集落跡が多数確認されているが、自然堤防上にあるものが多い。後期になると遺跡数は減少するが、中期同様、櫛引台地北東端及び台地下の自然堤防上に立地する。深谷市内においても台地縁辺部及び台地下の自然堤防上から遺跡が確認されている。晩期はさらに遺跡数が減少する。地図中には示せなかったが、市内では近年、市東部の低地上に立地する諏訪木遺跡で集落跡が確認されたが、その他にはみられない。深谷市では低地上にいくつかの遺跡が認められる。上敷免遺跡(63)では、晩期でも終末の浮線文土器片が多数検出されている。遺構からの検出ではなかったが、次代へのつながりがみてとれる資料である。

弥生時代については、東日本初期弥生土器を語る上で非常に重要な資料が出土している。遺跡は、縄 文時代中期以降集落が営まれている櫛引台地北東端部及び台地下の自然堤防上に集中している。

特筆すべき事項としては、自然堤防上に位置する横間栗遺跡(49)から前期末~中期前半の再葬墓が13基確認されたことが挙げられる。再葬墓一括資料は、1999年3月に埼玉県指定になっている。横間栗遺跡の南東に位置する関下遺跡(48)では、弥生時代中期中頃の竪穴住居跡が確認され、南側に隣接する石田遺跡(45)からも同時期の遺構と遺物が検出されており、集落跡が広がっているのかもしれない。また地図中には示せなかったが、市東部では東日本でも最古段階の環壕集落である池上遺跡やその墓域とされる行田市小敷田遺跡などがある。深谷市では自然堤防上にいくつか遺跡がみられ、上敷免遺跡では横間栗遺跡と同時期の再葬墓が確認されている。また包含層からではあるが、県内では初の遠賀川式土器の壺の胴部片も出土している。

中期後半以降は、市東部では北島遺跡、前中西遺跡などがみられるが、西部では確認例が少なく、深谷市では明戸東遺跡(59)など後期の遺跡が自然堤防上にいくつか点在するだけである。

古墳時代になると、自然堤防上への進出がより活発化する。前期は本遺跡周辺では確認例がやや少ないが、一本木前遺跡(34)では、90数軒という膨大な数の住居跡の他に、4基の方形周溝墓等も確認されている。特筆すべき事項としては、2号方形周溝墓の主体部からヒスイ製の勾玉や緑色凝灰岩製の管玉、人歯等が検出されたことが挙げられる。なお、住居跡群と周溝墓群には若干の時期差が存在し、集落跡が古く、周溝墓群が新しいことが判明している。深谷市では、東川端遺跡(58)をはじめとして自然堤防上で集落跡、方形周溝墓等が確認されている。中期は、本遺跡周辺では5世紀末の古墳として市の指定史跡になっている横塚山古墳(J:奈良古墳群)があるのみである。B種横刷毛の埴輪を持つ帆立貝式前方後円墳であるが、後円部は一部欠損している。市北東部では、北島遺跡、常光院東遺跡中条古墳群周辺などで確認例がみられる。後期になると遺跡数が爆発的に増加する。集落跡は大規模になり、



第2図 周辺遺跡分布図

| 10.           | 遺跡名          | 時 代  | No. | 遺跡名  | 時 代                     |
|---------------|--------------|--|-----|--|-------------------------|
| 熊             | 谷 市          |  | 63  |  | 縄文中、弥生中・後、古墳後、奈良·平安     |
| 1             | 拾六間後遺跡       | 古墳後、奈良・平安、中・近世   |     | No.142遺跡   | 古墳後、奈良・平安               |
| 2             | 樋ノ上遺跡        | 縄文前・中、古墳後、奈良・平安、中・近世   |     | 皿沼西遺跡  | 古墳前、平安                  |
| 3             | 東遺跡          | 平安、中世  |     | No.145遺跡   | 古墳後、奈良・平安               |
| 4             | 黒沢館跡         | 中世   |     | 皿沼城跡   | 中世                      |
| 5.            | 若松遺跡         | 中·近世   |     | No.180遺跡   | 弥生中、古墳後、奈良・平安           |
| 3             | 三ヶ尻遺跡        | 縄文前~後、弥生中、古墳後、奈良・平安、中世   |     | 深谷城跡   | 古墳前、平安、中・近世             |
| 7             | 庚申塚遺跡        | 近世   |     | 城西遺跡   | 奈良•平安                   |
| 3             | 松原遺跡         | 中·近世   | 71  | The second secon | 縄文晩、古墳後、奈良・平安、中・近世      |
| )             | 社裏北遺跡        | THE THE STATE OF T |     | 伝幡羅館跡  | 中世                      |
|               | 社裏遺跡         | 中世   |     | No.194遺跡   | 古墳後                     |
| 1             | 社裏南遺跡        | 中世   |     | No.195遺跡   | 古墳後                     |
| 2             | 森遺跡          | 古墳後  |     | No.250遺跡   | 口頃後<br>  奈良·平安          |
| 3             | 万吉西浦遺跡       | 縄文中、古墳、平安、近世   |     | 宮ヶ谷戸遺跡   |                         |
| 4             | 不二ノ腰遺跡       | 奈良·平安  |     |  | 縄文中、弥生中・後、古墳後、奈良・平安、中・) |
| 5             | 高根遺跡         | 縄文前、古墳後、平安、中・近世  | 78  | 根岸遺跡<br>常磐町東遺跡   | 縄文中·後、古墳後、奈良·平安、中·近世    |
| <u></u> 3     | <b>籠原裏遺跡</b> | 旧石器、縄文前・中、古墳後、平安、中・近世  | -   |  | 縄文前・中、古墳後               |
| 7             | 別府三丁目遺跡      |  |     | No.199遺跡   | 縄文中、古墳後、奈良・平安           |
| 3             | 在家遺跡         | 古墳後、奈良・平安  |     | No.198遺跡   | 平安                      |
|               | 五反畑遺跡        | 中世   |     | 庁鼻和城跡<br>N. 8888   | 中世                      |
| 9<br>)        |              | 平世   平世   平安末~中世   平安末~中世   平安末~中世   平安末~中世   平安末~中世   平世   平世   平世   平世   平世   平世   平世  | 82  |  | 古墳後                     |
|               | 玉井陣屋跡        |  |     | No.249遺跡   | 奈良·平安                   |
| 1             | 稲荷木上遺跡       | 古墳後  |     | No.189遺跡   | 奈良·平安                   |
| 2             | 水押下遺跡        | 古墳後  | 85  | No.190遺跡   | 古墳後、奈良·平安               |
| 3             | 下河原中遺跡       | 奈良·平安  |     | 城下遺跡   | 縄文中·後、古墳後、平安、中·近世       |
| 4_            | 下河原上遺跡       | 近世   | 87  | 杉町遺跡   | 縄文中、古墳後、奈良·平安           |
| 5             | 本代遺跡         | 古墳後、近世   |     | No.202遺跡   | 縄文中、古墳後、奈良·平安           |
| 3_            | 新ヶ谷戸遺跡       | 古墳後、奈良·平安  |     | 東方城跡   | 縄文早・後、中世                |
| 7             | 稲荷東遺跡        | 古墳後、奈良・平安  | 90  | No.203遺跡   | 奈良·平安、中世                |
|               | 奈良氏館跡        | 平安末~中世   | 91  | ( ) A 71-74-74-74-74-74-74-74-74-74-74-74-74-74-   | 古墳後、奈良・平安               |
|               |              | 古墳後、奈良·平安  |     | No.204遺跡   | 縄文中·後、古墳後、奈良·平安         |
|               | 東通遺跡         | 古墳後  |     | No.205遺跡   | 古墳前                     |
| L             | 西通遺跡         | 古墳後  | 94  | No.88遺跡  | 古墳後、奈良·平安               |
| 2             | 横塚遺跡         | 古墳前、平安   |     | No.87遺跡  | 縄文後                     |
| 3             | 中耕地遺跡        | 縄文中、古墳前・後、奈良・平安  | 96  | 桜ヶ丘組石遺跡  | 縄文後                     |
| 4             | 一本木前遺跡       | 古墳前·後、奈良·平安、中·近世   | 97  | No.208遺跡   | 縄文中、古墳前・後、平安            |
| 5_            | 天神下遺跡        | 古墳前·後、奈良·平安  | 98  | No.93遺跡  | 縄文中·後、古墳後、奈良·平安         |
| 3             | 寺東遺跡         | 縄文前~後  | 99  | No.94遺跡  | 縄文中·後                   |
| 7             | 別府氏館跡        | 平安末~中世   | 100 | No.207遺跡   | 縄文中                     |
| 3             | 別府城跡         | 平安、中世  | 101 | No.206遺跡   | 縄文中                     |
| )             | 埋鳥遺跡         | 縄文中、奈良·平安  | 102 | 大門遺跡   | 奈良•平安                   |
| )             | 大竹遺跡         | 古墳後、奈良·平安  | 103 | 鹿島平方裏遺跡  | 古墳後、奈良・平安               |
|               | 西別府館跡        | 平安末~中世   |     | 山之越遺跡  | 縄文後                     |
| 2             | 西別府廃寺        | 古墳後、奈良·平安、中·近世   |     | 舟山遺跡   | 縄文早~後、中世                |
| 3             | 西方遺跡         | 奈良·平安、中·近世   | 3 1 | 竹ノ花遺跡  | 縄文早·前、奈良·平安             |
| 1             | 西別府祭祀遺跡      | 古墳後、奈良·平安、中·近世   |     | 荷鞍ヶ谷戸遺跡  |                         |
| ,             | 石田遺跡         | 縄文中·後、弥生中、古墳前  |     | 諦光寺廃寺  | 奈良·平安                   |
| ;             | 別府条里遺跡       | 奈良•平安  | 江   | 南町   |                         |
| ,             | 深町遺跡         | 縄文中·後、古墳前·後、奈良·平安  |     | 新田裏遺跡  | 古墳後、奈良·平安               |
| 3             | 関下遺跡         | 縄文中、弥生中、古墳後  |     | 堀ノ内遺跡  | 古墳後、奈良・平安、中・近世          |
| )             | 横間栗遺跡        | 縄文後、弥生前·中、古墳前·中、奈良·平安、近世   |     |  | 古墳後、奈良・平安、中・近世          |
| -             | 根絡遺跡         | 縄文中、古墳前・後、奈良・平安  |     | 大林遺跡   | 古墳後、奈良・平安               |
|               | 入川遺跡         | 縄文後、古墳前・後  |     | 富士山遺跡  | 超文早~後、弥生後、古墳前、奈良        |
|               |              | 古墳前・中  |     | 姥ヶ沢遺跡  |                         |
|               |              | 弥生中、古墳後、奈良·平安  |     |  | 縄文早~後、弥生後、古墳前・後         |
|               | 飯塚遺跡         | 弥生中、古墳後、奈良・平安  |     | <u>姥ヶ沢埴輪窯跡</u><br>西原遺跡   | 古墳後                     |
| 1             | 谷市           |  |     |  | 旧石器、縄文前~後、奈良・平安         |
|               | 前遺跡          |  |     | 北方遺跡   | 縄文早                     |
| _             |              | 古墳前、奈良・平安、中世   |     | 権現坂埴輪窯跡  | 古墳後                     |
|               | ~            | 縄文晩、弥生中、古墳前・後、奈良・平安  |     | 権現坂遺跡  | 縄文前・中、古墳中・後             |
|               |              | 縄文後·晩、古墳後  |     | 中屋敷遺跡  | 古墳後、奈良・平安、中・近世          |
|               | 東川端遺跡        | 古墳前・後、奈良・平安  |     | 宮下遺跡   | 縄文早、古墳後、奈良・平安、中・近世      |
| $\rightarrow$ |              |  |     | 東原遺跡   | 縄文早~中、中世                |
| +             |              |  |     | 上前原遺跡  | 縄文早~後                   |
|               |              |  |     | 宮前遺跡   | 古墳後、奈良·平安、中·近世          |
|               | 本郷前東遺跡       | 縄文後、古墳後、奈良・平安  | 105 | 宿遺跡  | 古墳後、奈良・平安、中・近世          |

第2表 周辺古墳群一覧表

| No. | 遺跡名    | 時代  | No. | 遺跡名    | 一 代   |
|-----|--------|-----|-----|--------|-------|
| 熊   | 谷市     |     | I   | 別府古墳群  | 古墳後   |
| Α   | 三ヶ尻古墳群 | 古墳後 | J   | 奈良古墳群  | 古墳中~末 |
| В   | 広瀬古墳群  | 古墳末 | K   | 上江袋古墳群 | 古墳後   |
| С   | 石原古墳群  | 古墳後 | 深   | 谷 市    |       |
| D   | 村岡古墳群  | 古墳後 | L   | 木の本古墳群 | 古墳後   |
| Е   | 籠原裏古墳群 | 古墳末 | M   | 長在家古墳群 | 古墳末   |
| F   | 玉井古墳群  | 古墳後 | N   | 鹿島古墳群  | 古墳後~末 |
| G   | 原島古墳群  | 古墳後 | 0   | 清水山古墳群 | 古墳後   |
| Н   | 在家古墳群  | 古墳末 | Р   | 上大塚古墳群 | 古墳後   |

自然堤防上にも多数営まれるようになる。そして、これらの集落跡は奈良・平安時代へと継続して営まれるものが多い。古墳は群として形成され、多数の古墳群が台地及び自然堤防上に築造されている。荒川左岸の櫛引台地上には、三ヶ尻古墳群(A)、籠原裏古墳群(E)、在家古墳群(H)、別府古墳群(I)、深谷市(旧川本町)長在家古墳群(M)、自然堤防上には、広瀬古墳群(B)、石原古墳群(C)、玉井古墳群(F)、原島古墳群(G)、(旧妻沼町)上江袋古墳群(K)、深谷市木の本古墳群(L)などがあり、荒川右岸の台地上でも埼玉県指定史跡である深谷市(旧川本町)鹿島古墳群(N)をはじめとして多数の古墳群が築造されている。また、古墳群の他にも江南町蛯ヶ沢埴輪窯跡(115)、権現坂埴輪窯跡(118)など埴輪の窯跡もみられるようになる。古墳群は、概ね6世紀から7世紀ないし8世紀初頭にかけて築造されたが、埴輪をまったく持たない末期の古墳群としては、籠原裏古墳群、在家古墳群、玉井古墳群、広瀬古墳群などがある。

市内の古墳群で特筆すべきことは、籠原裏古墳群では墳形が八角形を呈する古墳時代末期の八角墳が 検出されたことや、地図中には示せなかったが、市中央部にある肥塚古墳群では埋葬施設に荒川水系の 石材である河原石を使用した古墳と利根川水系の角閃石安山岩を使用した古墳が混在すること、また、 広瀬古墳群中の宮塚古墳は、上円下方墳という特異な形態をしていること(昭和38年に国指定史跡)な どが挙げられる。特に籠原裏古墳群は、後述する深谷市幡羅遺跡(91)や熊谷市西別府廃寺(42)、西 別府祭祀遺跡(44)などといった郡衙及び郡衙と関連があると思われる遺跡と時期的・地理的に近い関 係にあり、注目に値する古墳群といえる。

律令体制の始まる奈良・平安時代は、本遺跡周辺一帯は武蔵国幡羅郡に属する。幡羅郡は上秦、下秦、 広沢、荏原、幡羅、那珂、霜見、余部の八郷からなる中郡であり、熊谷市北部から西部にかけてと深谷 市東部を含む一帯が該当すると考えられている。深谷市幡羅遺跡では、平成13年に郡衙の正倉と推定さ れる大型建物群が確認され、幡羅郡衙推定地として確認調査が開始されている。その結果、これまでに 20数棟の大型正倉建物群や区画大溝などが確認されている。郡庁や館、厨などの施設は未確認であるが、 熊谷市西別府廃寺や西別府祭祀遺跡も含めてこの地域一帯は、当時の中心地だったことが徐々に明らか になってきている。

集落跡は前述のとおり、古墳時代後期以降引き続き営まれる遺跡が多く、かつ規模の大きいものが多い。また本遺跡周辺の集落跡から出土する須恵器は、武蔵国四大窯跡の1つである寄居町末野窯跡産のものを多く含む傾向にあり、鳩山町南比企窯跡産を主体とする市内東部の遺跡とは様相が異なっている。 集落跡以外で注目すべき遺跡としては、前述の西別府廃寺と西別府祭祀遺跡がある。両遺跡は、櫛引台地北東端の市内北西部西別府地区に所在する。西別府廃寺は、8世紀初頭に創建された県内でも古い 寺院跡であり、平成2・4年に行われた発掘調査では、瓦溜り状遺構、基壇跡、溝跡等が検出されている。出土した瓦には9世紀後半まで下るものもみられ、寺院は平安時代まで存続していたと考えられている。西別府祭祀遺跡は、西別府廃寺の北西部の台地縁辺部に位置し、湯殿神社周辺に位置する。神社裏の湧水部分からは、土師器、須恵器の他に馬形、櫛形、勾玉形、剣形、有線円板等の滑石製模造品が多数検出され、これらの遺物は水辺での祭祀に用いられたと考えられている。平成4年度におこなわれた発掘調査では、古墳時代末から平安時代でも末期に位置づけられる土器群が多数検出されており、平安時代の終わり頃まで祭祀遺跡として存続していたものと思われる。

西別府廃寺及び西別府祭祀遺跡と深谷市幡羅遺跡は、時間的・空間的に密接な関係にあったことは明白であり、今後実施される確認調査によって詳細がさらに判明してくるものと思われる。

平安時代末から中世にかけては、武蔵七党やその他在地武士団の館跡がみられるようになるが、その実態は不明なものが多い。東別府地区にある別府城跡(38)は、別府氏の居館で現在も土塁と空堀が一部残っている。また、拾六間後遺跡の南に位置する三ヶ尻地区では、中世の遺跡や遺構が比較的多く確認されている。中でも黒沢館跡(4)は、発掘調査の結果、出隅を持ち全周する堀と土塁、虎口跡等が検出され、渡辺崋山が記した文献『訪 延録(ほうへいろく)』所収の「黒沢屋敷」と発掘調査成果が一致するという大変貴重な例である。そして、拾六間後遺跡の南東に所在する樋ノ上遺跡(2)や、さらにその南側に位置する若松遺跡(5)、社裏北遺跡(9)、社裏遺跡(10)、社裏南遺跡(11)では、埋葬跡が多数検出されている。深谷市では、皿沼城跡(67)、深谷城跡(69)、庁鼻和城跡(81)、東方城跡など城跡が多数確認されている。

近世については、今回報告する拾六間後遺跡の他にも櫛引台地北東縁辺部に立地する西方遺跡(43)において墓地群が確認されている。拾六間後遺跡及び西方遺跡をはじめとしていくつか例がみられるが、中世同様、不明な点が多いというのが実状である。

# Ⅲ 遺跡の概要

# 1 調査の方法

発掘調査は、まず遺構確認面まで重機で掘削し、その後人力による手掘り作業を行っていった。そして、各調査区内に一辺5mのグリッド方式を用いて全体を網羅できる様にし、調査区北西隅をA-1として南へA・B・C…、東へ1・2・3…とし、Aラインは西から東へA-1・A-2・A-3…と呼称した。Bライン以南もAラインと同様に呼称し、グリッド設定を行った。

手掘り作業終了後は、遺構ごとに実測、遺物の取り上げ、写真撮影等の作業を順次行っていった。なお、実測作業を行うにあたってはグリッド交点に設定した杭を基準に水糸による1m間隔のメッシュを張り、簡易遣り方による方法で行った。

# 2 検出された遺構と遺物

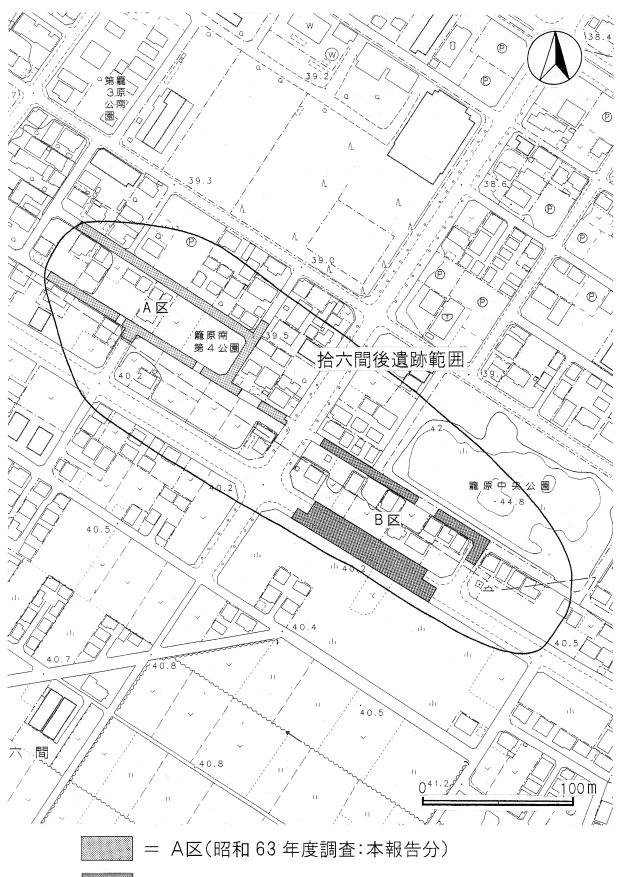
今回報告するのは遺跡範囲北西部にあたるA区についてである(第3図)。当初、拾六間後遺跡は今回報告する昭和63年度調査区(A区)のみでその遺跡名がつけられていた。そして、A区東側に位置するB区はかつて「堂西遺跡」と呼ばれ、旧拾六間後遺跡(A区)とは別の遺跡として登録されていた。

「堂西遺跡」は平成元年度に調査が実施されたが、旧拾六間後遺跡(A区)と同じく区画整理に伴う事前調査として発掘調査が行われた。両遺跡を別々の遺跡とした理由については、事前に行った試掘調査で両遺跡のほぼ中央を南北に走る道路部分から遺構の検出がみられなかったに因る。しかし、平成16年度に市内全域の遺跡地図の見直しを行った際、両遺跡の内容について検討を行った結果、二つの遺跡が同一のものであると判断されたことから「堂西遺跡」(B区)を含める形で新たに拾六間後遺跡として周知化されることとなった。今回報告するのは旧拾六間後遺跡であったA区についてであり、以前「堂西遺跡」と呼ばれたB区については、次年度以降に報告書を刊行する予定である。

A区で検出された遺構は、住居跡8軒、掘立柱建物跡2棟、溝跡7条、土坑16基、集石1基、火葬跡1基、ピット群である(第4図)。遺跡の主体となるのは奈良・平安時代の集落跡である。すべての遺構において時代及び時期を問わず重複関係はみられず、第2区における遺構の検出数が多い。

住居跡はすべて第 2 区からの検出である。主に北東端の $O\sim Q-26\sim 29$  グリッド、中央からやや北西寄りの $F\cdot G-12\sim 14$  グリッド、北西端の $A\sim C-5\sim 8$  グリッドの3 箇所に集中して位置している。全形を検出できたものはないが、カマドはすべて東壁にあり、平面プランは長方形のものが多い。時期は8世紀末から10世紀前半とやや幅がみられるが、小規模ながらもほぼ途切れることなく集落が営まれていたことが確認された。また、各住居跡からは時期を特定し得る遺物が多数検出された。遺物は須恵器、土師器、灰釉陶器、土製品、鉄製品、石製品などがある。このうち、2 号住居跡からは市内及び周辺ではあまり確認されていない10 世紀前半の土器がまとまって検出されており、一括遺物として良好な資料を得ることができた。

掘立柱建物跡も第2区からの検出である。2棟ともやや不揃いな感は否めないが、柱筋がほぼ通ることから掘立柱建物跡として報告した。ともに住居跡に隣接して位置するが、調査区の都合上、規模等は不明である。いずれもほぼ真北方向を向いている。帰属時期は出土遺物及び周辺の住居跡とほぼ同じ軸であることから、住居跡とほぼ同時期と思われる。



= B区(平成元年度調査)

第3図 調査地点位置図

溝跡は第2区から2条(6・7号溝)、第3区から2条(1・2号溝)、第4区から3条(3~5号溝)が検出された。調査区の都合上、いずれも規模等は不明である。5号溝からは須恵器甕、6号溝からは土師器甕が検出されたが、これらが伴うものかどうかは不明であり、出土遺物のない溝跡も含めて帰属時期は不明と言わざるを得ない。なお、6号溝は土坑になる可能性もある。

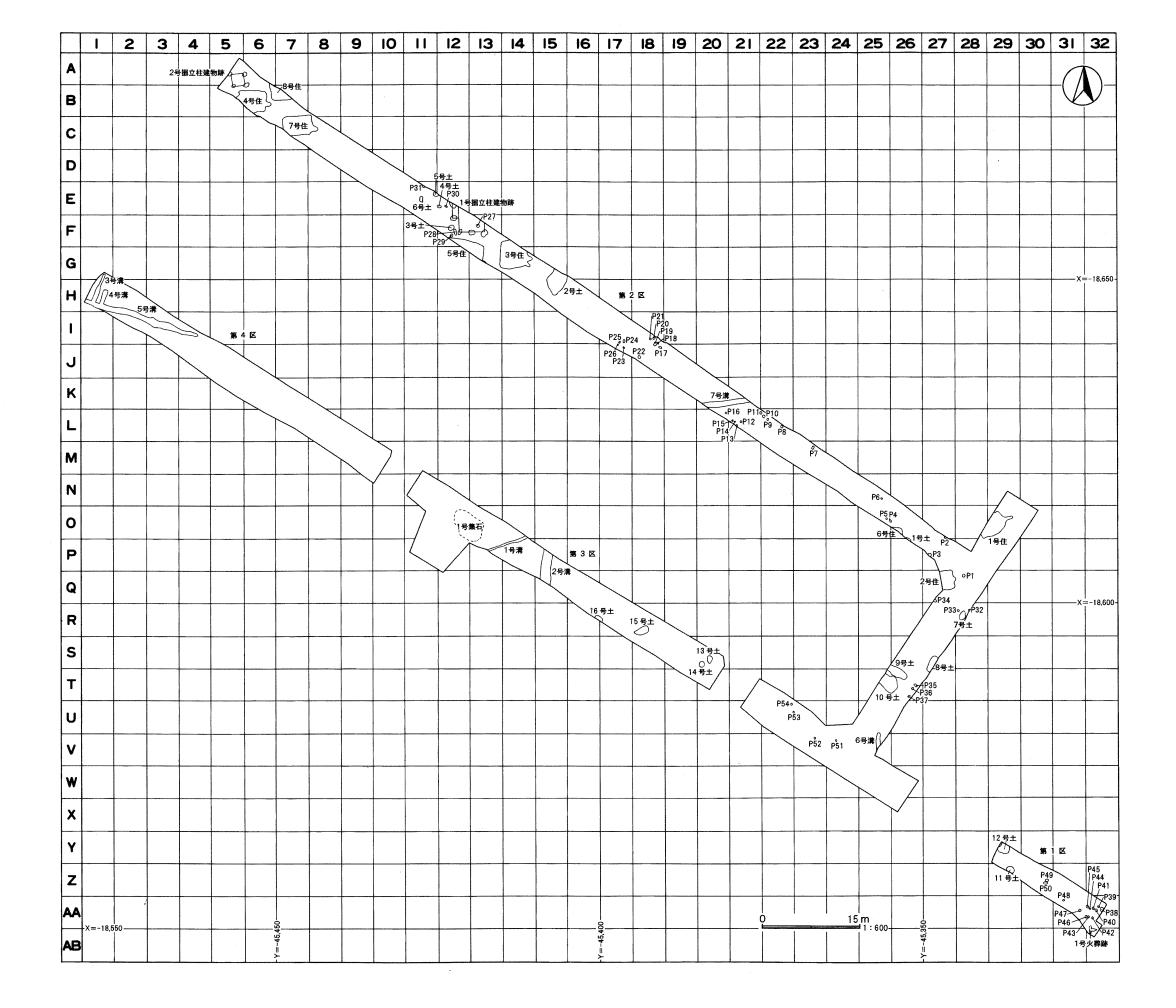
土坑は全区を通して16基検出された。第1区からは2基(11·12号土)、第2区からは10基(1~10号土)、第3区からは4基(13~16号土)が検出された。第4区からは検出されていない。平面プランは円形、楕円形等様々である。帰属時期については不明確なものもあるが、概して奈良・平安時代のものが多い。なお、帰属時期の不明な土坑は覆土に多量の礫を含む傾向がみられた。性格及び用途は不明である。3~6号土坑は1号掘立柱建物跡の東側に隣接して位置しており、建物跡と関連する可能性がある。7号土坑からは8世紀中頃の土器がまとまって検出され、今回報告する中では最も古い遺構である。9・10号土坑からは近世の陶磁器をはじめとして多数の遺物が検出されたが、いずれも破片であり、廃棄遺構と思われる。陶磁器片の他に鉄製品や銅製品、古銭なども検出された。13号土坑からは10世紀前半の土器がややまとまって検出され、2号住居跡同様、一括遺物として良好な資料である。

集石は第3区北西端付近から検出された。掘り方はなく、確認面上面の暗褐色土内に広がっていた。 礫はすべて河原石であり、自然石である。礫は小さいものも含めると5.7m×3.8mの楕円形を呈する範囲内に広がっていたが、中心部ではやや大きめの礫が列状をなしていた。本遺構の性格及び用途は不明である。また、出土遺物がないため、帰属時期についてもはっきりしない。

火葬跡は第1区南東端から検出された。覆土に焼土や炭化物を多量含み、燃焼部西壁は焼土化していた。また底面からは炭化物や骨片、骨粉が検出された。棺座となる自然石はみられなかった。

ピットは第1・2区から検出された。第3・4区からは確認されていない。全区を通して検出された数は54基である。概して集中して分布する傾向にあるが、規則的に並ぶものはみられない。出土遺物が少ないため帰属時期は不明なものが多いが、第2区検出のピットの大半は奈良・平安時代の遺構周辺に位置することから同時代のものの可能性が高い。

遺構外出土遺物は図示可能なものだけでも138点と多い。時代及び時期を問わず、第2区からの検出が圧倒的に多く、中でも東側の〇~S-26~28グリッドからの検出が目立つ。遺物は縄文時代中期、奈良・平安時代、近世のものが検出されている。縄文時代は遺物のみの検出であり、遺構は検出されていない。遺物は土器、石器がある。奈良・平安時代の遺物は、須恵器、土師器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、土製品、鉄製品、石製品などがあり、遺構外出土遺物のほとんどを占める。遺構からは検出されなかった緑釉陶器が破片ではあるが一点検出された。近世の遺物は陶磁器、かわらけがある。なお、第1・3区からも土器片が若干検出されたが、図示可能なものはみられなかった。



第4図 調査区(A区)全測図

#### 遺構と遺物 $\mathbb{V}$

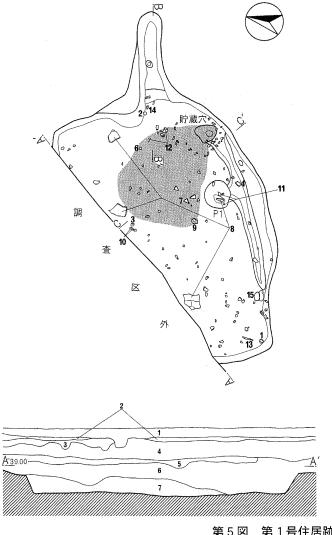
# 住居跡

### 第1号住居跡(第5図)

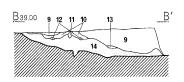
第2区〇-28・29グリッドに位置する。住居跡のほぼ中央から北壁及び西壁の大半が調査区外にあ る。他の遺構との重複関係はみられない。

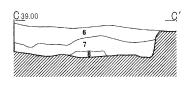
規模は確認できた範囲では長軸4.17m、短軸2.83mを測るが、短軸はさらに広がって推定で3.30m前 後になると思われる。平面プランは南東隅が丸みを帯びているが、ほぼ長方形を呈する。主軸方向は  $N-72^{\circ}-E$ を指す。確認面からの深さは最大0.43mを測る。床面はやや凹凸がみられたが、ほぼ平坦 であった。覆土は三層(6~8層)からなる。全層に焼土粒やローム粒・ブロックを含み、上層の6層 にのみ炭化物もみられた。また、床面中央からカマド前にかけては焼土がまとまって検出された。ほぼ レンズ状に堆積していたことから、自然堆積と考えられる。

カマドは東壁ほぼ中央に位置する。壁外へは1.48m張り出す。袖部は明確でないが、北壁のみ掘り残 し気味にやや前にせり出していたことから、南壁も本来は北壁と同じくやや前にせりだしていたと思わ れる。袖石はみられない。幅は焚口部が推定0.55m、燃焼部と煙道部の境は0.54m、煙道部先端部は



第5図 第1号住居跡

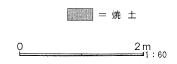


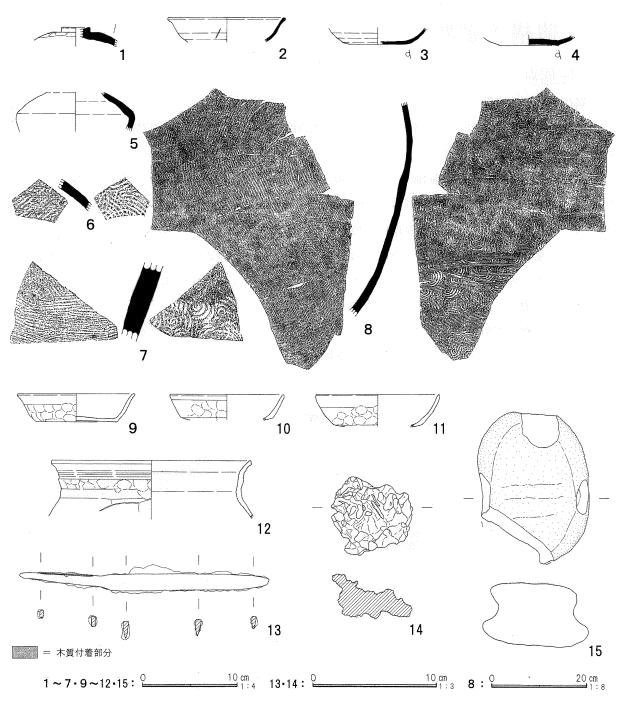


#### 第1号住居跡

土層説明 (AA'BB'CC')

- 2 灰褐色土:砂質。酸化鉄多量含む。
- 3 灰褐色土: 2層より暗い。
- 4 黒褐色土
- 5 褐色土
- 6 暗褐色土:焼土粒、炭化物、ローム粒含む。
- 黒褐色土:ローム粒・ブロック含む。
- 8 黒褐色土:焼土粒、ローム粒・ブロック含む。
- 9 暗褐色土:焼土粒、ローム粒少量含む。
- 10 褐色土
- 11 暗褐色土
- 12 赤褐色土: 焼土。
- 13 黄褐色土
- 14 暗褐色土: 焼土粒・ブロック多量、炭化物少量含む。





第6図 第1号住居跡出土遺物

0.30mを測る。焚口部から燃焼部まではほぼ平坦であり、燃焼部と煙道部の境には高低差0.10mの緩い段が設けられていた。煙道部は燃焼部の段から先端に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部底面ほぼ中央にはピットが設けられていた。径0.10m前後、深さ0.09mを測る。カマドの覆土に天井部崩落土は確認できず、混入物を含む層( $9\cdot14$ 層)と含まない層( $10\cdot11\cdot13$ 層)の他に焼土層(12層)が若干確認されたにとどまる。混入物を含む層のうち、最下層の14層は、焼土粒・ブロックを多量含んでいた。カマド南脇には貯蔵穴が設けられていた。径0.30m前後の不整円形を呈する。深さは不明である。

壁溝は南壁沿いにのみ確認された。壁からやや離れて走っており、東側では貯蔵穴に接続している。

第3表 第1号住居跡出土遺物観察表

|    | 1  |        |       |                   |           |      | T  |        | tile to                     |
|----|--|--------|-------|-------------------|-----------|------|----|--------|-----------------------------|
| 番号 | 器 種  | 口径     | 器高    | 底径                | 胎土        | 色 調  | 焼成 | 残存率    | 備考                          |
| 1  | 須恵器 蓋  | -      | (2.0) | (4.9)             | ABHILM    | 淡黄色  | C  | 天井部15% | 末野産。                        |
| 2  | 須恵器 坏  | (12.4) | (2.6) | -                 | ABHIL     | 灰色   | А  | 口~体15% | 末野産。                        |
| 3  | 須恵器 坏  | -      | (1.8) | (6.6)             | ABHJL     | 黄灰色  | В  | 体~底30% | 末野産。                        |
| 4  | 須恵器 坏  | -      | (1.0) | (6.2)             | ABHL      | 灰色   | Α  | 底部45%  | 末野産。                        |
| 5  | 須恵器小型壺   | -      | (4.2) | -                 | AB        | 灰色   | Α  | 胴部40%  | 産地不明。外面自然釉付着。遺構外No.55と同一個体。 |
| 6  | 須恵器 甕  | -      | -     | -                 | ABHL      | 灰色   | В  | 肩部片    | 末野産。外面自然釉付着。                |
| 7  | 須恵器 甕  | -      | -     | -                 | ABHLN     | 灰色   | В  | 胴下部片   | 末野産。                        |
| 8  | 須恵器 甕  | -      | -     | 5.10 <sup>2</sup> | ABHL      | 灰色   | В  | 胴部片    | 末野産。                        |
| 9  | 土師器 坏  | 12.4   | 3.1   | 8.4               | ABGHIKM   | 明赤褐色 | В  | 65%    |                             |
| 10 | 土師器 坏  | (12.0) | (2.7) | (9.6)             | BHIJ      | 橙色   | В  | 20%    |                             |
| 11 | 土師器 坏  | (13.0) | (3.4) | (9.2)             | ABEHK     | 橙色   | В  | 25%    |                             |
| 12 | 土師器 甕  | (21.0) | (6.2) | -                 | ABCGHIJMN | 明赤褐色 | В  | 口~胴30% |                             |
| 13 | 刀 子 最大長19.6cm、最大幅1.35cm、最大厚0.45cm。重量30.6g。ほぼ完形。柄部木質付着。                   |        |       |                   |           |      |    |        |                             |
| 14 |  |        |       |                   |           |      |    |        |                             |
| 15 | 不明石製品 最大長(15.6)cm、最大幅11.4cm、最大厚6.5cm。重量1,390g。中粒砂岩。一部欠。両側面窪み、外面敲打痕?有。被熱。 |        |       |                   |           |      |    |        |                             |

幅は0.20m前後、床面からの深さは0.05mを測る。

ピットは南壁沿いから1つ検出された。南壁中央からやや東寄りに位置し、壁溝に接続している。径 0.45m前後、深さは不明である。用途は不明であるが、その位置からみて柱穴とは考えづらい。

出土遺物 (第6図) は、須恵器蓋 (1)、坏 (2~4)、小型壺 (5)、甕 (6~8)、土師器坏 (9~11)、甕 (12)、刀子 (13)、鉄滓 (14)、不明石製品 (15) がある。 5 は覆土から、その他は床面直上からの検出であり、床直出土遺物は住居跡のほぼ全面から検出された。

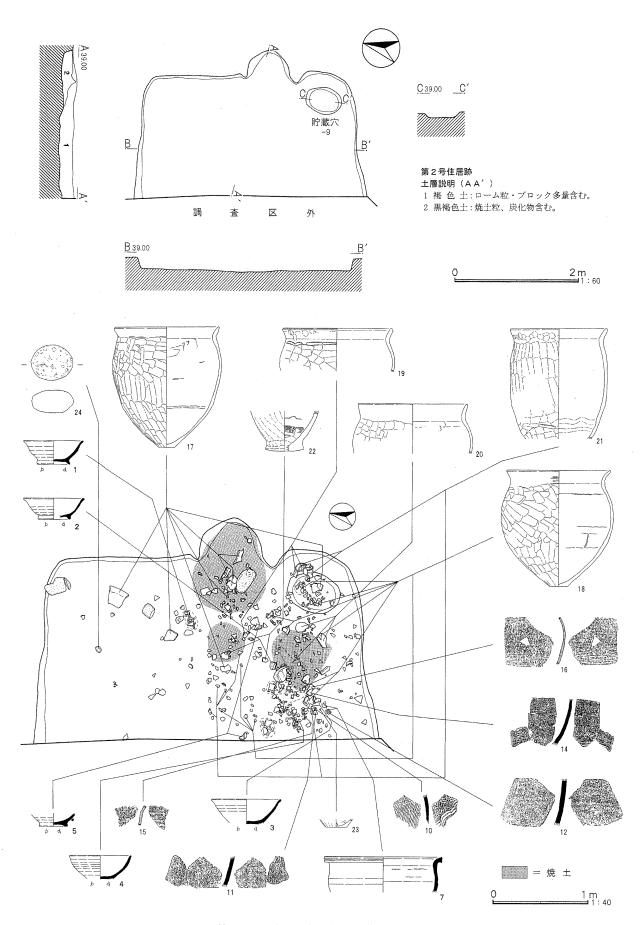
類恵器はほとんど末野産である。蓋(1)は、つまみを含む天井部のみの検出である。径からみて坏蓋か。坏(2~4)は口縁部が外反し、体部は内湾する。底部は回転糸切り痕を残す。全形を知りうるものはないが、口径12.5cm、底径6.5cm前後を測るものが主体となるか。5の小型壺は、遺構外出土遺物第36図55と同一個体である。本住居跡に伴わない可能性も考えられる。外面には自然釉が付着している。6~8は甕の破片。6は肩部片、7は胴下部片、8は大型甕の胴部中段から下部にかけての破片である。いずれも外面に叩き目、内面には青海波文がみられた。6のみ外面に自然釉が付着している。土師器坏(9~11)は口縁部横ナデ、体部外面には指頭圧痕がみられた。底部は9が平底、10・11は残存しないが、やや丸底に近いタイプと思われる。いずれも底部調整はヘラ削りである。甕(12)は口縁部から胴上部にかけての部位のみ検出された。口縁部は「コ」の字状を呈し、外面には指頭圧痕がみられた。13は鉄製品・刀子。ほぼ完形品であり、柄部には木質が一部付着していた。長さ19.6cmと大型の部類に入る。14は鉄滓。欠損箇所はみられない。15は不明石製品としたが、両側面に窪みを持ち、外面には三条の敵打したような痕跡がみられ、ほぼ全面被熱していたことから、鉄滓の存在とからめて鉄製品製作工程において使用された道具であろうか。下端を欠く。石質は中粒砂岩である。

これらの遺物から本住居跡の帰属する時期は、9世紀中頃から後半にかけての時期と思われる。

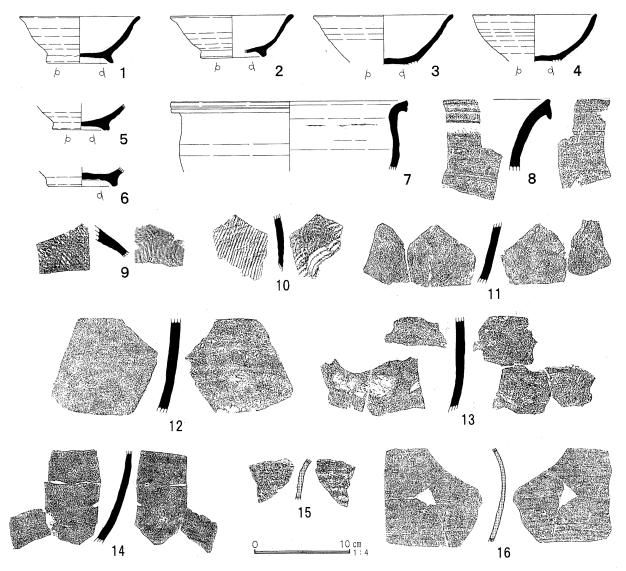
### 第2号住居跡(第7図)

第2区P・Q-27・28グリッドに位置する。他の遺構との重複関係はみられない。

住居跡の西側半分が調査区外にあるため東西の規模は不明であるが、南北は3.67mを測る。平面プランは、1号住居跡と同じく長方形を呈すると思われる。主軸方向はN-75°-Eを指す。確認面からの深



第7図 第2号住居跡・遺物出土状況



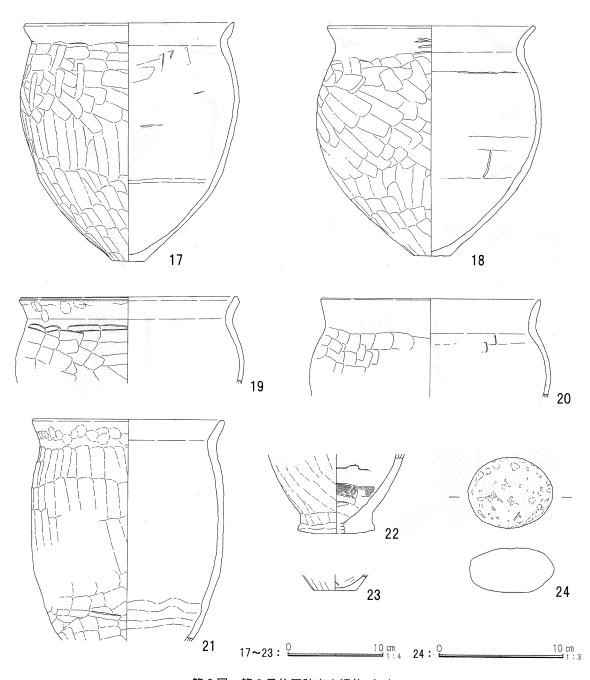
第8図 第2号住居跡出土遺物(1)

さは最大0.22mと比較的浅い。床面はやや凹凸がみられたが、ほぼ平坦であった。覆土はカマドを除けば褐色土(1層)一層のみである。ローム粒・ブロックを多量含んでおり、人為的な埋め戻しの可能性がある。また、カマド前及び南側床面からは遺物に混じって焼土がまとまって検出された。

カマドは東壁中央からやや南寄りに位置する。壁外への張り出しは0.37mと短く、煙道部を確認面の都合から欠いてしまった可能性がある。袖部は明確ではないが、両脇の壁が掘り残し気味にやや前にせり出していた。袖石はみられない。幅は焚口部が0.78m、燃焼部は0.60m、先端は0.18mを測る。焚口部から燃焼部はほぼ平坦である。先端は鋭角に立ち上がる。カマドの覆土に天井部崩落土は確認できず、焼土粒や炭化物を含む黒褐色土(2層)が確認されたにとどまる。

カマド南脇には貯蔵穴が設けられていた。長軸0.55m、短軸0.43m、床面からの深さは0.07mと浅く、 平面プランは楕円形を呈する。ピット及び壁溝は確認されなかった。

出土遺物 (第8・9図) は、須恵器高台付椀 (1~6)、鉢 (7)、甕 (8~14)、灰釉陶器長頸瓶 (15・16)、土師器甕 (17~23)、軽石 (24) がある。いずれも床面からやや浮いた状態での検出であ



第9図 第2号住居跡出土遺物(2)

### る。遺物は主にカマド内及びその周辺と南側からの検出が多い(第7図下)。

須恵器供膳具は、高台付椀( $1\sim6$ )のみ検出された。このうち、 $3\cdot6$  は末野産であるが、その他は酸化焔焼成によるものであり、産地がはっきりしない。その器形や調整技法などから須恵器としたが、ロクロ土師器ともいえるような中間的な様相を呈しており、焼きが甘い。口径13cm前後、器高5cm程、底径7cm程を測り、口縁部は外反、体部は内湾し、「ハ」の字に開く短い高台が付くものが主体となるが、4のみ口縁部が外反しないで体部の内湾からそのまま立ち上がっている。底部はすべて回転糸切り痕を残す。7は鉢。口縁部から胴上部にかけての破片である。口径に最大径を持つ。内面には輪積痕がみられた。甕( $8\sim14$ )はすべて破片での検出である。 $9\cdot10$ 以外は内外面ともにナデ調整による。

第4表 第2号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 器 種                               | 口径     | 器高     | 底径    | 胎土       | 色 調       | 焼成 | 残存率    | 備考                        |
|----|-----------------------------------|--------|--------|-------|----------|-----------|----|--------|---------------------------|
| 1  | 須恵器高台椀                            | (12.6) | 5.0    | 7.0   | ABEJKM   | にぶい橙色     | C  | 50%    | 産地不明。酸化焔焼成。               |
| 2  | 須恵器高台椀                            | (12.9) | 4.6    | 7.0   | ABDGHJMN | にぶい橙色     | С  | 80%    | 産地不明。酸化焰焼成。               |
| 3  | 須恵器高台椀                            | (14.6) | (5.3)  | -     | ABDL     | 灰色        | В  | 口~体40% | 末野産。                      |
| 4  | 須恵器高台椀                            | (13.0) | (5.0)  |       | ABGHJMN  | にぶい褐色     | С  | 口~体40% | 産地不明。酸化焔焼成。               |
| 5  | 須恵器高台椀                            | -      | (2.8)  | 6.0   | ABCDHMN  | にぶい褐色     | С  | 体~高100 | 産地不明。酸化焔焼成。               |
| 6  | 須恵器高台椀                            | -      | (2.0)  | (7.4) | ABEGM    | 灰黄色       | С  | 高台部25% | 末野産。                      |
| 7  | 須恵器 鉢                             | (24.8) | (7.4)  | 7     | ABL      | 灰色        | В  | 口~胴25% | 末野産。                      |
| 8  | 須恵器 甕                             | ~      | -      | -     | ABHL     | 黄灰色       | В  | 口縁部片   | 末野産。                      |
| 9  | 須恵器 甕                             | -      | -      | -     | ABL      | 黄灰色       | В  | 肩部片    | 末野産。                      |
| 10 | 須恵器 甕                             | -      | -      | -     | ABL      | 灰色        | В  | 胴上部片   | 末野産。                      |
| 11 | 須恵器 甕                             | -      | -      | -     | ABHL     | 褐灰色       | В  | 胴下部片   | 末野産。                      |
| 12 | 須恵器 甕                             | -      | -      | -     | ABDHL    | 外:浅黄 内:黄灰 | В  | 胴下部片   | 末野産。                      |
| 13 | 須恵器 甕                             | -      | -      | Wa .  | ABDH     | 外:灰黄褐 内:灰 | В  | 胴下部片   | 末野産。                      |
| 14 | 須恵器 甕                             | 3      | 1      | -     | ABHL     | 灰黄色       | Α  | 胴下部片   | 末野産。外面自然釉付着。              |
| 15 | 灰釉長頸瓶                             | -      | -      |       | AB       | 灰黄色       | А  | 頸部片    | 産地不明。内外面灰オリーブ色釉薬。         |
| 16 | 灰釉長頸瓶                             | -      | 1.     | -     | ABN      | 灰白色       | В  | 胴部片    | 猿投〜三河産か。外面上部オリーブ黄色釉薬。     |
| 17 | 土師器 甕                             | 22.0   | 25.5   | 3.4   | ABCGHIJM | 明赤褐色      | В  | 70%    |                           |
| 18 | 土師器 甕                             | 21.8   | 24.6   | 3.8   | ABEGHJKM | にぶい褐色     | Α  | 70%    |                           |
| 19 | 土師器 甕                             | 22.8   | (9.3)  | -     | ABEGIJKM | にぶい橙色     | В  | 口~胴70% |                           |
| 20 | 土師器 甕                             | (23.0) | (10.4) | -     | ABCHJKN  | 橙色        | В  | 口~胴40% | s conference story to the |
| 21 | 土師器 甕                             | (20.2) | (23.6) |       | ABDEGM   | にぶい褐色     | В  | 口~胴40% | 外面調整不明瞭。                  |
| 22 | 土師器 甕                             | -      | (8.5)  | (8.1) | ABEHJKN  | 外:褐 内:黒褐  | В  | 胴~底30% | 外面調整不明瞭。                  |
| 23 | 土師器 甕                             | -      | (1.7)  | (4.5) | ABCHIKM  | にぶい赤褐色    | В  | 底部60%  |                           |
| 24 | 4 軽 石 最大径6.7cm、最大厚3.5cm。重量90g。完形。 |        |        |       |          |           |    |        |                           |

7~14はすべて末野産であるが、他の出土遺物との時期関係をみると流れ込みの可能性が高い。15・16は灰釉陶器長頸瓶。15は頸部片、16は胴部片である。他の出土遺物との時期関係からみて黒笹90号窯式併行以降のものと思われる。15は産地不明であるが、胎土が暗い灰色を呈し、やや粗い。内外面には灰オリーブ色の釉薬が施釉されている。16は胎土が白っぽく、細かい。産地は猿投から三河方面か。外面上部にはオリーブ黄色を呈する釉薬がみられた。土師器甕(17~23)は、すべて口縁部の「コ」の字が崩れ、器壁が厚手となる。いずれも口縁部が短く、「く」の字状を呈するが、17~20は胴部以下がつまった倒卵形を呈するの対し、21のみ胴部の張りが弱く、筒状を呈している。また21と22は胴部外面の調整が他に比べて不明瞭であった。17・18・21の胴部内面には輪積痕、18の口縁部外面にはへラによる刻み、19・21の口縁部外面には指頭圧痕がみられた。24は軽石。完形品。なお、図は掲載しなかったが、北東隅及びカマド前から被熱した大型の自然石が二点検出された。用途は不明である。

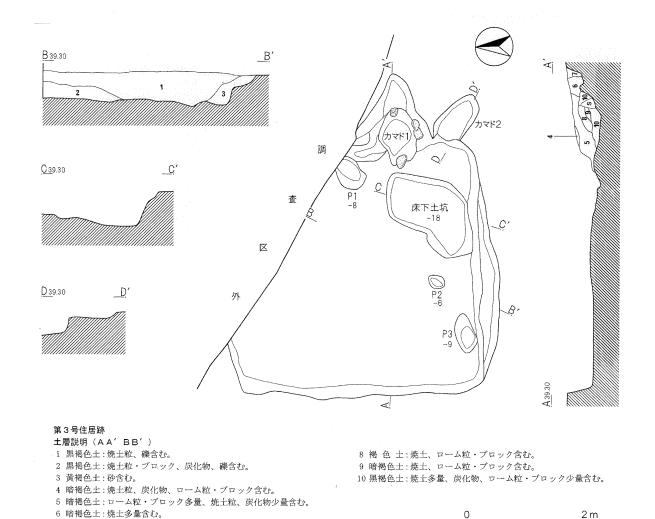
これらの遺物から本住居跡の帰属する時期は、10世紀前半頃と思われる。

#### 第3号住居跡(第10図)

第2区 $F \cdot G - 13 \cdot 14$ グリッドに位置する。北東隅付近及び北壁を含む北側大半が調査区外にある。他の遺構との重複関係はみられない。

規模は確認できた範囲では長軸4.28m、短軸4.11mを測り、ほぼ正方形を呈すると思われる。主軸方向はN-91°-Eを指す。確認面からの深さは最大0.44mを測る。床面はやや凹凸がみられた。覆土は三層( $1\sim3$ 層)からなる。混入物を含む黒褐色土( $1\cdot2$ 層)が主体となり、壁際で砂質の黄褐色土(3層)が確認された。ほぼレンズ状に堆積していたことから、自然堆積と考えられる。

カマドは東壁に二つ設けられていた。カマド1は東壁中央からやや南寄りに位置する。壁外への張り

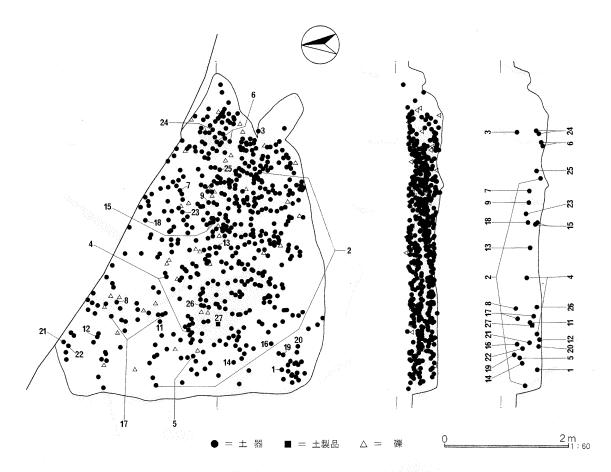


### 第10図 第3号住居跡

7 暗褐色土:焼土少量含む。

出しは1.07mを測る。袖部は明確でないが、両脇の壁がやや前にせり出していた。また、原位置を保ってないが、袖石に使用されたと思われる礫が数点検出された。幅は焚口部が0.64m、燃焼部は0.61m、煙道部の幅は燃焼部との境で0.35m、煙道部先端で0.12mを測る。焚口部から燃焼部にかけては長軸0.93m、短軸0.61m、床面からの深さ0.08mの浅い土坑状を呈し、燃焼部と煙道部の境には高低差0.22mの段が設けられていた。煙道部は燃焼部との段からいったん窪み、先端で鋭角に立ち上がる。覆土に天井部崩落土は確認できず、混入物を含む暗褐色土ないし褐色土(4~9層)がややランダムな層位で確認され、最下層の黒褐色を呈する10層では焼土を多量含んでいた。カマド2は南東隅に位置する。壁外への張り出しは0.81mを測る。煙道部のみの検出である。袖部及び袖石はみられない。幅は壁際で0.48m、先端で0.28mを測る。床面との高低差が0.22mあり、先端に向かってやや下りながら緩やかに立ち上がる。その様相からみて、カマド1との新旧関係はカマド2の方が古い。

ピットは三つ検出された。ピット1はカマド1の北脇、ピット2・3は南壁沿いから検出された。いずれも床面からの深さが浅い。ピット1は貯蔵穴になる可能性がある。ピット2・3はその深さ及び位置からみて、柱穴とは考えづらい。また、床下土坑と思われる掘り込みがカマド前から一つ検出された。長軸1.78m、短軸0.98m、床面からの深さは最大0.18mを測り、いびつな楕円形を呈する。その位置か

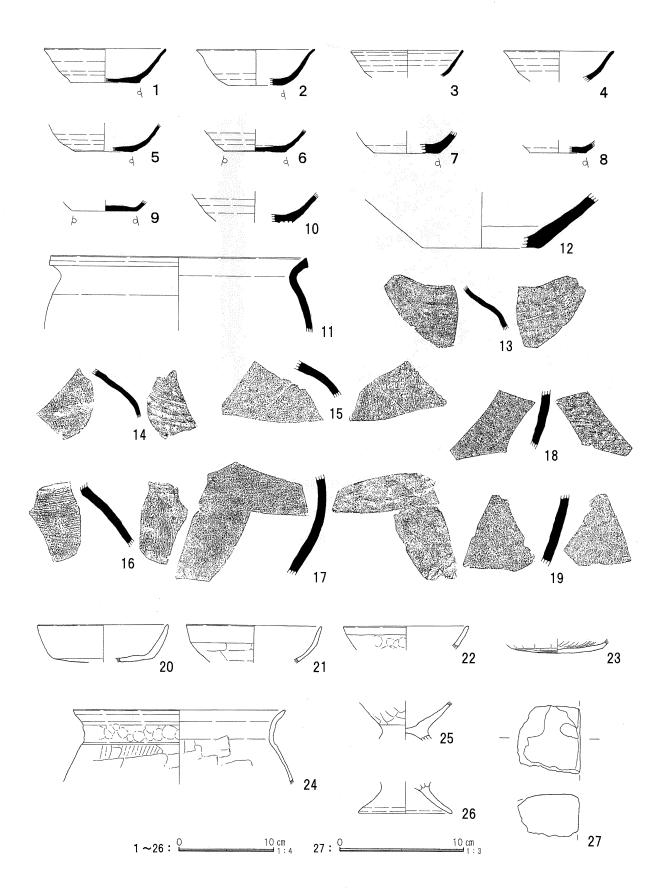


第11図 第3号住居跡遺物出土状況

らみて掘り方の可能性も考えられる。また、南壁では確認面から0.09mの深さで段が形成されており、 テラス状を呈していた。幅は最大0.22mを測る。壁溝は確認されなかった。

出土遺物(第12図)は、須恵器坏( $1\sim9$ )、高台付椀(10)、鉢(11)、甕( $12\sim19$ )、土師器坏( $20\sim23$ )、甕(24)、台付甕( $25\cdot26$ )、不明土製品(27)がある。遺物は住居跡のほぼ全面及び全層から検出されたが、いずれも破片での検出である(第11図)。

須恵器は末野産がほとんどを占めるが、4・9・16は南比企産である。坏(1~9)は口径12cm前後、器高4cm弱、底径6cm前後のものが主体となる。口縁部は外反するもの(2・4)とほぼ直線的なもの(1・3)があるが、体部はともに内湾する。底部は回転糸切り痕を残す。高台付椀(10)は体部片一点のみである。11は鉢。口縁部から胴上部にかけての破片である。胴部がやや膨らむ。12~19は養。すべて破片である。12は底部。鉢の可能性もある。13~16は肩部片、17~19は胴下部片である。15・17の外面には自然釉が付着していた。17・19は同一個体である。土師器坏(20~23)は、口縁部から体部にかけて器形にバラエティがある。底部はいずれも丸底であるが、平底に近い。20・22は口縁部から体部が内湾しながら立ち上がる。20は摩滅が顕著であり、調整は不明である。21は口縁部と体部の境に稜を有する。調整は口縁部が21・22ともに横ナデであるが、体部は21が横位のヘラ削り、22は指頭圧痕がみられた。23は底部片。内面に放射状暗文が施されている。甕(24)は口縁部から胴上部にかけてのみ検出された。口縁部は「コ」の字状を呈し、外面には指頭圧痕がみられた。25・26



第12図 第3号住居跡出土遺物

第5表 第3号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 器 種    | 口径     | 器高       | 底径     | 胎土          | 色 調            | 焼成     | 残存率    | 備考                      |
|----|--------|--------|----------|--------|-------------|----------------|--------|--------|-------------------------|
| 1  | 須恵器 坏  | (12.8) | 3,6      | (7.4)  | AEHJL       | 褐灰色            | В      | 25%    | 末野産。                    |
| 2  | 須恵器 坏  | (12.4) | 3.8      | (5.8)  | ABL         | 灰色             | В      | 20%    | 末野産。                    |
| 3  | 須恵器 坏  | (11.8) | (2.9)    | š -    | ABHL        | 灰色             | В      | 口~体20% | 末野産。                    |
| 4  | 須恵器 坏  | (11.6) | (3.3)    | -      | ABFHIN      | にぶい赤褐色         | A      | 口~体25% | 南比企産。                   |
| 5  | 須恵器 坏  | -      | (3.1)    | (6.0)  | ABCHJN      | にぶい赤褐色         | В      | 体~底20% | 末野産?                    |
| 6  | 須恵器 坏  | -      | (2.4)    | 6.6    | ABHILN      | 灰白色            | С      | 体~底60% | 末野産。                    |
| 7  | 須恵器 坏  | -      | (2.4)    | (6.8)  | ABGIJL      | 黄褐色            | В      | 体~底25% | 末野産。                    |
| 8  | 須恵器 坏  | -      | (1.4)    | (6.0)  | ABGHL       | 灰白色            | В      | 底部30%  | 末野産。                    |
| 9  | 須恵器 坏  | -      | (1.2)    | 6.6    | ABDFHN      | 暗オリーブ灰色        | A      | 底部80%  | 南比企産。                   |
| 10 | 須恵器高台棒 | j -    | (3.3)    | -      | BEGIJN      | 灰黄色            | С      | 体部25%  | 末野産。                    |
| 11 | 須恵器 鉢  | (27.2) | (7.8)    | -      | ABHL        | 灰色             | Α      | 口~胴15% | 末野産。                    |
| 12 | 須恵器 甕  | -      | (5.9)    | (12.2) | ABHL        | 灰色             | В      | 底部20%  | 末野産。                    |
| 13 | 須恵器 甕  | -      | -        | -      | ABL         | 灰色             | Α      | 肩部片    | 末野産。                    |
| 14 | 須恵器 甕  | -      | -        |        | ABLN        | 灰色             | В      | 肩部片    | 末野産。                    |
| 15 | 須恵器 甕  | -      | -        | -      | ABDL        | 灰黄色            | В      | 肩部片    | 末野産。外面自然釉付着。            |
| 16 | 須恵器 甕  | -      |          |        | ABDFN       | 黄灰色            | В      | 肩部片    | 南比企産。                   |
| 17 | 須恵器 甕  | -      | -        | -      | ABDHL       | 灰色             | Α      | 胴下部片   | 末野産。外面自然釉付着。No.19と同一個体。 |
| 18 | 須恵器 甕  | -      | -        |        | AH          | 灰色             | A      | 胴下部片   | 末野産。                    |
| 19 | 須恵器 甕  | -      | -        | - 3    | ABEL        | 灰色             | А      | 胴下部片   | 末野産。No.17と同一個体。         |
| 20 | 土師器 坏  | (13.8) | (4.0)    | (10.6) | AEHJM       | にぶい褐色          | С      | 20%    | 内外面磨耗顕著、調整不明。           |
| 21 | 土師器 坏  | (14.2) | (4.0)    | -      | ABIJKM      | 橙色             | В      | 口~体30% |                         |
| 22 | 土師器 坏  | (13.2) | (2.5)    |        | BGHJM       | 橙色             | В      | 口縁部20% | 100                     |
| 23 | 土師器 坏  | -      | (1.5)    | (9.6)  | ABGIJM      | 橙色             | В      | 底部55%  | 内面放射状暗文有。               |
| 24 | 土師器 甕  | (22.2) | (7.9)    |        | ABCJKMN     | 明赤褐色           | В      | 口~胴20% |                         |
| 25 | 土師器台付到 | Ę -    | (4.2)    | -      | ABCGIJM     | にぶい赤褐色         | В      | 接合部40% |                         |
| 26 | 土師器台付到 |        | (3.4)    | (9.8)  | ABEGHKM     | にぶい赤褐色         | В      | 台部30%  | 1447.1                  |
| 27 | 不明土製品  | 最大長    | (5.3)cm、 | 最大幅    | (4.9)cm、最大厚 | (3.35)cm。重量(79 | 0.0)g. | 大半欠。二百 | 面平ら。                    |

は台付甕。25は接合部、26は台部である。27は不明土製品。大半を欠く。角錐状を呈しており、残存する二面は平らである。胎土が粗く、焼きが甘い。用途は不明である。

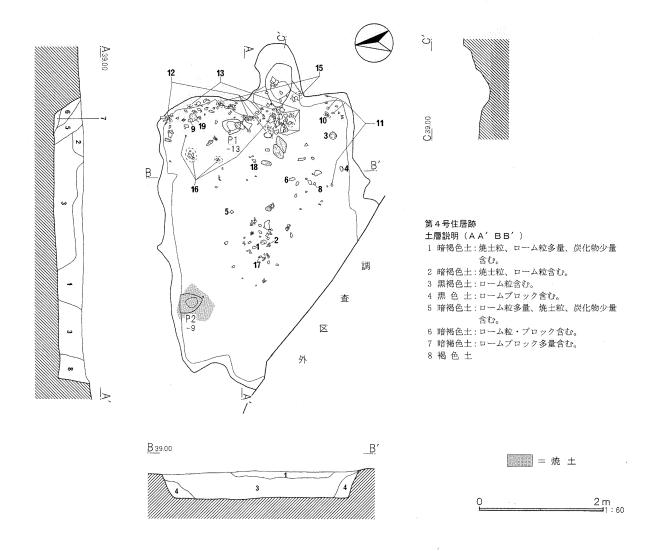
これらの遺物から本住居跡の帰属する時期は、9世紀前半から中頃にかけての時期と思われる。

### 第4号住居跡(第13図)

第2区B $-5\cdot6$ グリッドに位置する。南東隅付近が調査区外にある。他の遺構との重複関係はない。 規模は確認できた範囲では長軸4.68m、短軸3.42mを測り、いびつな長方形を呈する。主軸方向は N-94°-Eを指す。確認面からの深さは最大0.47mを測る。床面はほぼ平坦であった。覆土はややランダムであるが、ほぼレンズ状を呈することから自然堆積と思われる。ほとんどの層に混入物を含む。

カマドは東壁中央からやや南寄りに位置する。壁外へは0.88m張り出す。袖部は明確でないが、両脇の壁がやや前にせり出していた。袖石はみられない。幅は焚口部が0.64m、燃焼部と煙道部の境で0.43m、煙道部先端は0.30mを測る。焚口部から燃焼部にかけては長軸0.71m、短軸0.42m、床面からの深さ0.11mの土坑状を呈し、燃焼部と煙道部の境には高低差0.13mの段が設けられていた。煙道部は先端に向かって緩やかに上り、鋭角に立ち上がる。カマドの覆土は図示できなかったが、天井部崩落土は確認できず、焼土粒や炭化物を含む暗褐色土が確認されたにとどまる。

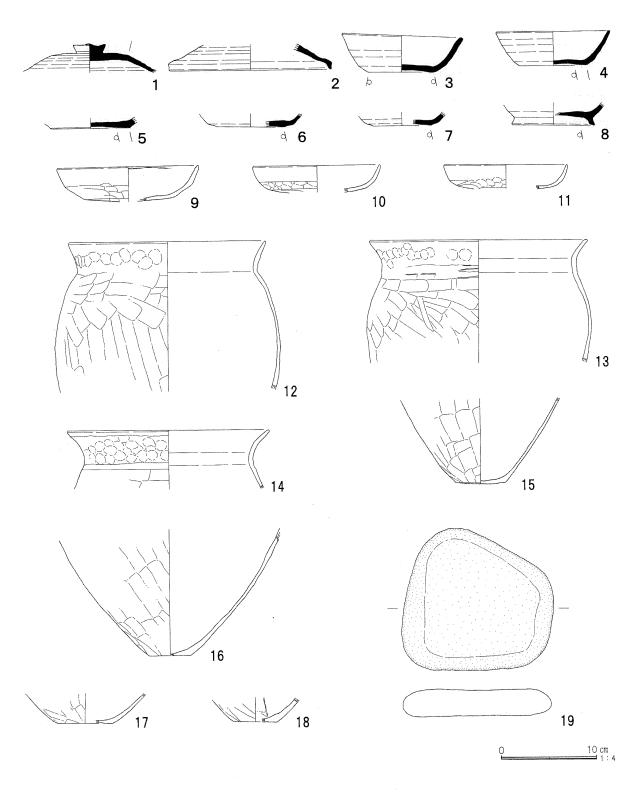
ピットは二つ検出された。ピット1はカマド北脇、ピット2は北壁沿いでも北西隅に近い箇所から検出された。ピット1はカマド脇にあることから、貯蔵穴の可能性もある。径0.25m前後で楕円形を呈する。床面からの深さは0.13mと浅い。ピット2は径0.35m前後、床面からの深さは0.09mを測る。上面からは焼土が検出され、その位置も含めて柱穴とは考えづらい。壁溝は確認されなかった。



第13図 第4号住居跡

### 第6表 第4号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 器 種   | į  | 口径     | 器高     | 底径    | 胎土      | 色調        | 焼成 | 残存率    | 備考             |
|----|---|----|--------|--------|-------|---------|-----------|----|--------|----------------|
| 1  | 須恵器   | 蓋  | . 7    | (3.1)  | (8.0) | ABHL    | 灰色        | В  | 天井部35% | 末野産。           |
| 2  | 須恵器   | 蓋  | (17.0) | (2.8)  | -     | ABGL    | 黄灰色       | В  | 口縁部15% | 末野産。           |
| 3  | 須恵器   | 坏  | 12.7   | 4.1    | 7.0   | АВНЈМ   | にぶい黄橙色    | В  | 100%   | 末野産。           |
| 4  | 須恵器   | 坏  | (12.2) | 3.6    | (7.2) | ABDGHIM | 暗灰黄色      | В  | 35%    | 末野産。           |
| 5  |   | 坏  | -      | (1.1)  | (8.2) | ABFHI   | 灰白色       | В  | 底部30%  | 南比企産。          |
| 6  | 須恵器   | 坏  | -      | (1.4)  | (7.2) | ABDH    | にぶい黄橙色    | В  | 底部30%  | 産地不明。外面アバタ状剥離。 |
| 7  | 須恵器   | 坏  | -      | (1.4)  | (6.2) | ABCIL   | 褐灰色       | В  | 底部25%  | 末野産。           |
| 8  | 須恵器高電   | 分椀 | -      | (2.4)  | (8.6) | ABCHL   | 暗灰色       | В  | 高台部50% | 末野産。           |
| 9  | 土師器   | 坏  | (14.8) | (3.7)  | (9.2) | ВНЈ     | 橙色        | В  | 40%    |                |
| 10 |   | 坏  | (13.4) | (2.9)  | -     | ВЕНЈК   | にぶい赤褐色    | В  | 40%    |                |
| 11 |   | 坏  | (13.0) | (2.6)  | -     | ВНЈМ    | 橙色        | В  | 25%    |                |
| 12 | 土師器   | 甕  | 20.6   | (16.0) | -     | ABEGHJK | 赤褐色       | В  | 口~胴50% |                |
| 13 |   | 甕  | (22.8) | (13.1) | -     | АВНЈМ   | 橙色        | В  | 口~胴30% |                |
| 14 |   | 甕  | (21.4) | (6.2)  | -     | ABCHIK  | 橙色        | В  | 口~胴30% |                |
| 15 |   | 甕  | -      | (9.1)  | 5.2   | ABEHJK  | にぶい褐色     | В  | 胴~底50% |                |
| 16 | 土師器   | 甕  | -      | (13.5) | (4.3) | ABCIKM  | 赤褐色       | В  | 胴~底25% |                |
| 17 | 土師器   | 甕  | -      | (3.3)  | (5.8) | ABHIJN  | 外:褐 内:明赤褐 | В  | 底部30%  |                |
| 18 |   | 甕  | -      | (2.6)  | (4.6) | ABCGHJM | 灰褐色       | В  | 底部30%  |                |
| 19 | 9 不明石製品 最大長15.1cm、最大幅15.6cm、最大厚2.9cm。重量1,255g。粘板岩。完形。 |    |        |        |       |         |           |    |        |                |



第14図 第4号住居跡出土遺物

出土遺物 (第14図) は、須恵器蓋  $(1\cdot 2)$ 、坏  $(3\sim 7)$ 、高台付椀 (8)、土師器坏  $(9\sim 11)$ 、 養  $(12\sim 18)$ 、台石と思われる石製品 (19) がある。 $7\cdot 14$ は覆土から、その他は床面直上から検出された。床直出土遺物は、主にカマド及びその周辺と住居跡ほぼ中央からまとまって検出された。

須恵器は供膳具のみである。産地は末野産がほとんどを占めるが、5のみ南比企産であり、6は産地

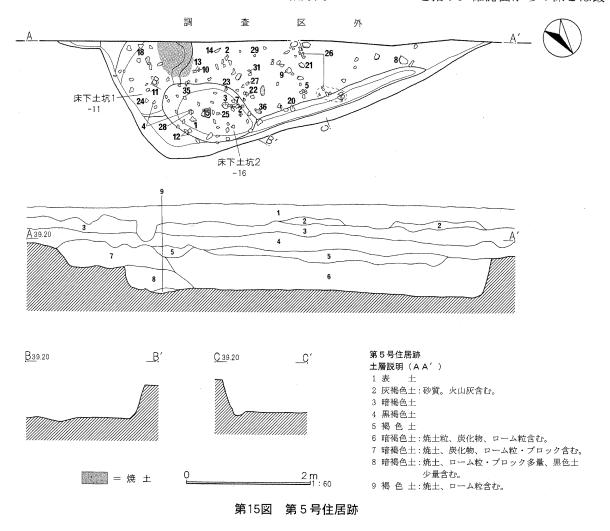
不明である。蓋(1・2)は二点検出された。ともに径からみて椀蓋か。坏(3~7)は全形を知りうるものは少ないが、口径12.5cm、器高 4 cm、底径7.5cm前後のものが主体となる。いずれも器壁が厚く、口縁部は外反が弱いかほぼ直線的であり、体部は内湾する。底部は回転糸切り痕を残すものと回転糸切り後外周をへうで削るものの二者がある。高台付椀(8)は高台部のみの検出である。底部は回転糸切り痕を残す。土師器坏(9~11)は、口縁部と体部の境に稜を有する器高の高いもの(9)と口縁部から体部にかけて内湾しながら立ち上がる器高の低いもの( $10\cdot11$ )がある。いずれも底部は平底に近い。甕( $12\sim18$ )は、口縁部が「く」の字状を呈するもの( $12\cdot14$ )と「コ」の字に近いもの(13)がみられた。いずれも口縁部外面に指頭圧痕があり、13にはへうによる刻みと輪積痕もみられた。 $16\sim18$ は底部片。19は扁平な形状をしており、台石であろうか。完形品。粘板岩。

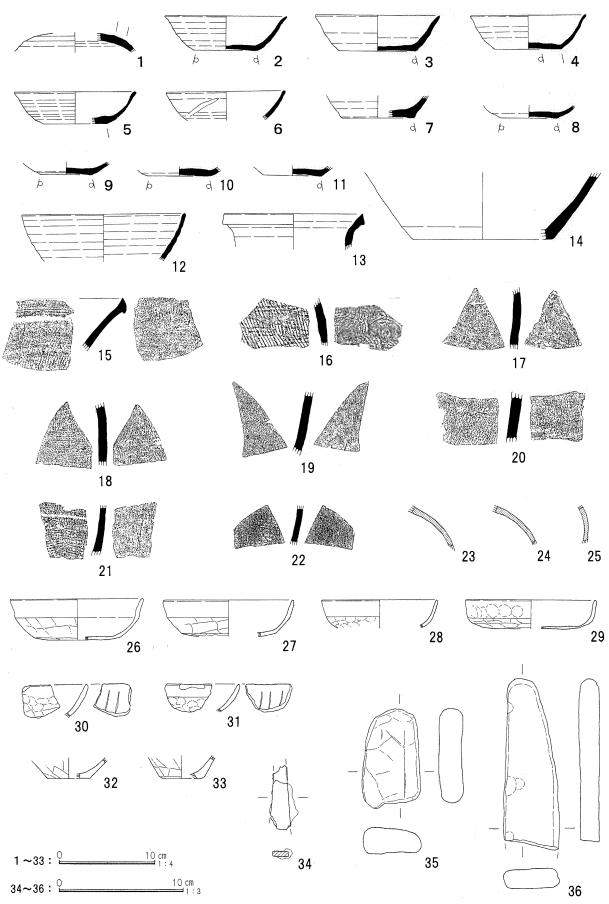
これらの遺物から本住居跡の帰属する時期は、8世紀末を中心とした時期と思われる。

### 第5号住居跡(第15図)

第2区F・G-12・13グリッドに位置する。検出できたのは、カマド北側のごく一部と北東隅から 北壁にかけてのみであり、大半が調査区外にある。

規模は不明であるが、北壁は検出できた範囲で5.50mを測る。平面プランはカマドの位置をもとに他の住居跡を参考にすれば、長方形になろうか。主軸方向は $N-104^\circ-E$ を指す。確認面からの深さは最





第16図 第5号住居跡出土遺物

第7表 第5号住居跡出土遺物観察表

| 番号  | 器 乖  | <u> </u> | 口径       | 器高           | 底径     | 胎土         | 色調             | 焼成  | 残存率     | 備考   |
|-----|------|----------|----------|--------------|--------|------------|----------------|-----|---------|--|
| 1   | 須恵器  | 蓋        | -        | (2.1)        | (8.4)  | ABEGLN     | 灰オリーブ色         | C   | 天井部15%  | 末野産。   |
| 2   | 須恵器  | 坏        | (12.8)   | 3.65         | 6.4    | ABEIJL     | 灰白色            | C   | 40%     | 末野産。   |
| 3   | 須恵器  | 坏        | (13.0)   | 3.8          | (8.0)  | ABHIL      | 灰白色            | С   | 40%     | 末野産。   |
| 4   | 須恵器  | 坏        | (12.2)   | 3.6          | (7.0)  | ABFH       | 灰黄色            | В   | 30%     | 南比企産。  |
| 5   | 須恵器  | 坏        | (12.8)   | 3.4          | (6.6)  | ABEF       | 灰色             | А   | 30%     | 南比企産。  |
| 6   | 須恵器  | 坏        | (12.4)   | (3.1)        | -,,,   | ACF        | 灰色             | В   | 口~体20%  | 南比企産。外面ヘラ刻み有。  |
| 7   | 須恵器  | 坏        | -        | (2.4)        | (7.8)  | ADIL       | にぶい黄褐色         | В   | 体~底45%  | 末野産。   |
| 8   | 須恵器  | 坏        | -        | (1.4)        | 6.0    | ABDHIJL    | にぶい黄橙色         | В   | 底部60%   | 末野産。   |
| 9   | 須恵器  | 坏        | -        | (1.4)        | 5.6    | ABHL       | 灰色             | В   | 底部90%   | 末野産。   |
| 10  | 須恵器  | 坏        | -        | (1.0)        | 6.4    | ABGHL      | 灰黄色            | В   | 底部90%   | 末野産。   |
| 11  | 須恵器  | 坏        | -        | (1.1)        | (6.0)  | ABHL       | 灰色             | A   | 底部50%   | 南比企産。  |
| 12  | 須恵器  | 椀        | (17.2)   | (5.1)        |        | ABH        | 灰色             | В   | 口~体15%  | 末野産?   |
| 13  | 須恵器  | 壺        | (14.4)   | (3.8)        | -      | ABEL       | 灰色             | A   | 口縁部20%  | 末野産。   |
| 14  | 須恵器  | 甕        | -        | (7.1)        | (14.6) | ABFGJ      | 灰黄褐色           | В   | 胴~底30%  | 南比企産。  |
| 15. | 須恵器  | 甕        | -        | -            | -      | ABHL       | 灰白色            | В   | 口縁部片    | 末野産。   |
| 16  | 須恵器  | 甕        | -        | -            | -      | ABDGL      | 灰色             | В   | 胴上部片    | 末野産。   |
| 17  | 須恵器  | 甕        | -        | -            | -      | ABH        | 灰色             | В   | 胴部片     | 末野産。外面上部自然釉付着。   |
| 18  | 須恵器  | 甕        | -        | _            | -      | AB         | 灰黄色            | В   | 胴部片     | 末野産。外面自然釉付着。   |
| 19  | 須恵器  | 甕        | § -      | -            | -      | ÄFH        | 暗青灰色           | A   | 胴下部片    | 南比企産。  |
| 20  | 須恵器  | 甕        | <u> </u> |              | -      | ABGL       | 青灰色            | Α   | 胴下部片    | 末野産。   |
| 21  | 須恵器  | 甕        | -        | <del>-</del> | -      | ABEGH      | 灰色             | В   | 胴下部片    | 末野産。   |
| 22  | 須恵器  | 甕        | - T      | 3.5          | -      | ABEF       | 灰色             | Α   | 胴下部片    | 末野産。   |
| 23  | 灰釉長頸 | 頁瓶       | -        | -            | -      | AB         | 外:灰オリーブ 内:灰    | A   | 肩部片     | 産地不明。外面灰刺ーブ色釉薬。No.24・25同一個体。   |
| 24  | 灰釉長頸 | 頁瓶       | -        | -            | -      | AB         | 外:灰オリーブ 内:灰    | Α   | 肩部片     | 産地不明。外面灰オリーブ色釉薬。No.23・25同一個体。  |
| 25  | 灰釉長頸 | 頁瓶       | -        | -            | -      | ABG        | 外:灰オリーブ 内:灰    | A   | 胴上部片    | 産地不明。外面灰剂-ブ色釉薬。No.24・25同一個体。   |
| 26  | 土師器  | 坏        | (14.0)   | 4.4          | (9.0)  | ABCHJK     | 橙色             | В   | 30%     | 外面やや磨耗。  |
| 27  | 土師器  | 坏        | (13.7)   | (3,9)        | (9.9)  | ADHK       | 褐色             | В   | 15%     | 386 - A.S.   |
| 28  | 土師器  | 坏        | (12.2)   | (3.0)        |        | ABKN       | 橙色             | В   | 口~体30%  | and the same of th |
| 29  | 土師器  | 坏        | (13.8)   | 3.1          | (10.2) | ВНЈ        | 明赤褐色           | В   | 25%     |  |
| 30  | 土師器  | 坏        | -        | -            | -      | BGHJK      | 明赤褐色           | В   | 口縁部片    | 内面放射状暗文有。  |
| 31  | 土師器  | 坏        | 100      | -            | 1      | ABGH       | 赤褐色            | В   | 口縁部片    | 内面放射状暗文有。  |
| 32  | 土師器  | 甕        | -        | (2.2)        | (4.5)  | ABEHIJM    | 暗赤褐色           | В   | 底部30%   |  |
| 33  | 土師器  | 甕        | -        | (2.4)        | (4.8)  | АВСНЈМ     | にぶい褐色          | В   | 底部40%   |  |
| 34  | 不明鉄製 | 製品       |          |              |        |            | (0.45)cm。重量(10 |     |         |  |
| 35  | 砥 7  | ī?       |          |              |        |            |                |     |         | 面平滑、右側面顕著。   |
| 36  | 砥 7  | ī?.      | 最大長(     | (13.0)cm     | 、最大的   | B4.4cm、最大厚 | 1.6cm。重量160 g  | 。砂岩 | 計。下端欠。全 | 面平滑。   |

大0.62mを測る。床面は西側に向かってやや下る傾向にあるが、ほぼ平坦であった。覆土はカマド付近を除くと焼土粒や炭化物、ローム粒を含む暗褐色土ほぼ一層 (6層)である。レンズ状に堆積していたことから自然堆積と考えられる。

カマドは東壁に位置する。北側のごく一部が検出されただけであるため、詳細は不明であるが、確認できた範囲では、壁外へ0.63m張り出す。カマド覆土に天井部崩落土は確認されず、住居跡の覆土同様、焼土や炭化物、ローム粒・ブロックなどを含む暗褐色土(7層)が確認されたにすぎない。

壁溝は北壁のほぼ中央でのみ確認された。幅0.20m前後、深さは0.06m程である。北東隅では床下土坑と思われる掘り込みが二つ重複して検出された。床下土坑1は、確認できた範囲では長軸1.22m、短軸1.05mの瓢箪状を呈し、床面からの深さは0.11mを測る。北側では床下土坑2と重複している。また、南西部上面の調査区との境では焼土がまとまって検出されたが、これはカマドからの流出と思われる。床下土坑2は長軸1.52m、短軸0.95mの楕円形状を呈し、床面からの深さは0.16mである。1・2ともに掘り方の可能性も考えられる。ピット、貯蔵穴は確認されなかった。

出土遺物 (第16図) は須恵器蓋 (1)、坏 (2~11)、椀 (12)、壺 (13)、甕 (14~22)、灰釉陶器

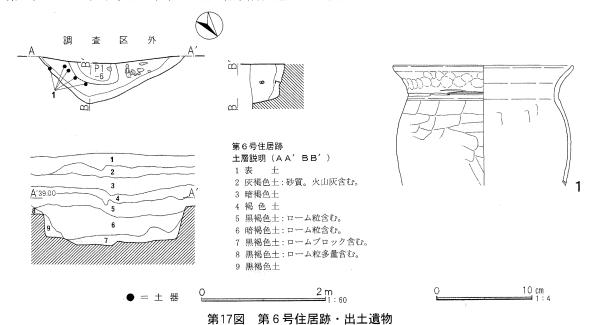
長頸瓶 (23~25)、土師器坏 (26~31)、甕 (32・33)、不明鉄製品 (34)、砥石と思われる石製品 (35・36) がある。遺物は検出できた住居跡の範囲内ほぼ全面及び全層から出土したが、概して北東隅 及びその周辺からの検出が多く、かつ破片での検出が多い。

須恵器は末野産の他に南比企産も若干みられる。蓋(1)は一点のみ検出された。径からみて坏蓋か。 坏(2~11)は口径12.5cm、器高3.5cm前後を測るが、底径は7.5cm前後のものと6 cm前後のものがみられた。また、口縁部がやや外反するものとほぼ直線的なものがみられ、体部も内湾するものとほぼ直線的なものがある。底部は4・5以外回転糸切り痕を残す。椀(12)は口縁部が外反せず、内湾しながら立ち上がる。高台が付くかは不明である。13は壺。口縁部のみの検出である。甕(14~22)は叩き調整のもの(15・16・19~22)とナデ調整のもの(14・17・18)がある。17・18の外面には自然釉が付着している。23~25は灰釉陶器長頸瓶。すべて同一個体である。他の出土遺物との時期関係からみて流れ込みの可能性が高い。産地は不明であるが、胎土は灰色でやや細かい。外面には暗オリーブ色の釉薬が施釉されている。土師器坏(26~31)は、口縁部と体部の境に稜を有する器高の高いもの(26・27)と口縁部から体部にかけて内湾しながら立ち上がる器高の低いもの(28・29)がある。底部はすべて平底に近い。また内面に放射状暗文を有する口縁部片(30・31)が二点検出された。甕(32・33)は底部のみの検出である。34は不明鉄製品。大半を欠く。35・36は全面平滑であることから砥石であろうか。35は特に右側面が顕著であった。石質は35がチャート、36が砂岩である。36は下端を欠く。

これらの遺物から本住居跡の帰属する時期は、8世紀末から9世紀初頭にかけての時期と思われる。

#### 第6号住居跡(第17図)

第2区〇-26グリッドに位置する。北東隅付近のみの検出であり、大半は調査区外にある。他の遺構



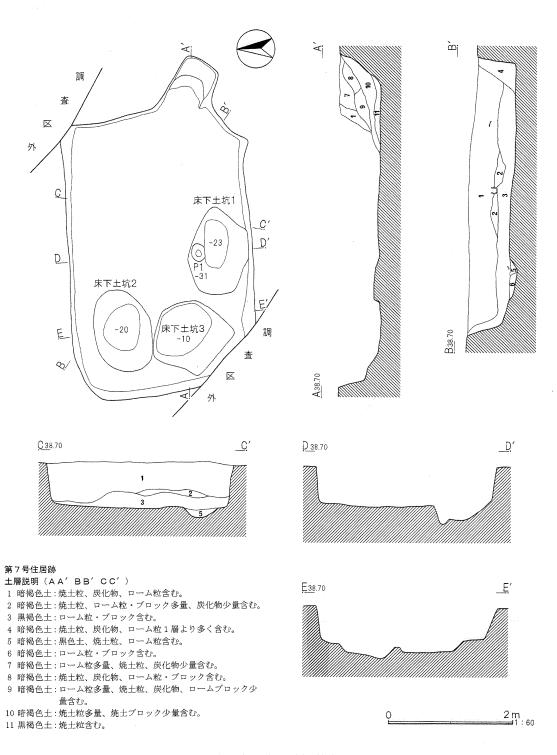
第8表 第6号住居跡出土遺物観察表

| 番号 | 器 種   | 口径     | 器高     | 底径 | 胎土     | 色 調 | 焼成 | 残存率    | 備 | 考 |
|----|-------|--------|--------|----|--------|-----|----|--------|---|---|
| 1  | 土師器 甕 | (19.2) | (12.7) | -  | ABEIKM | 橙色  | В  | 口~胴30% |   |   |

との重複関係はみられないが、本住居跡の東側には1号土坑が隣接して位置している。新旧関係及び関連があるかは不明である。

規模及び平面プランは不明であるが、南北軸方向はN-73°-Eを指すと思われる。確認面からの深さは最大0.53mを測る。床面はやや凹凸がみられたが、ほぼ平坦であった。覆土は黒褐色土を主体とし、ローム粒・ブロックを含む傾向にあった。レンズ状に堆積していたことから自然堆積と考えられる。

カマド、壁溝などは確認されなかったが、調査区との境付近からピットが1つ検出された。調査区境



第18図 第7号住居跡

での東西幅は0.74mを測り、床面からの深さは0.06mと浅い。平面プランは不整楕円形を呈すると思われる。その位置から貯蔵穴の可能性も考えられる。

出土遺物(第17図)は、土師器甕(1)一点のみである。北東隅から検出された。胴下部以下を欠く。 口縁部は「コ」の字が不完全であり、「く」の字状を呈する。外面には指頭圧痕やヘラによる刻みがみ られた。なお、この他にもピット1西側床面から自然石が数点まとまって検出された。編物石の可能性 が高いが、行方不明のため図示不可能であった。

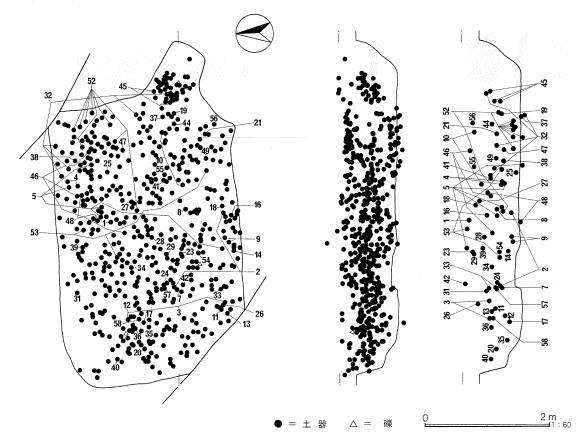
出土遺物から本住居跡の帰属する時期は、8世紀末頃を中心とした時期と思われる。

## 第7号住居跡(第18図)

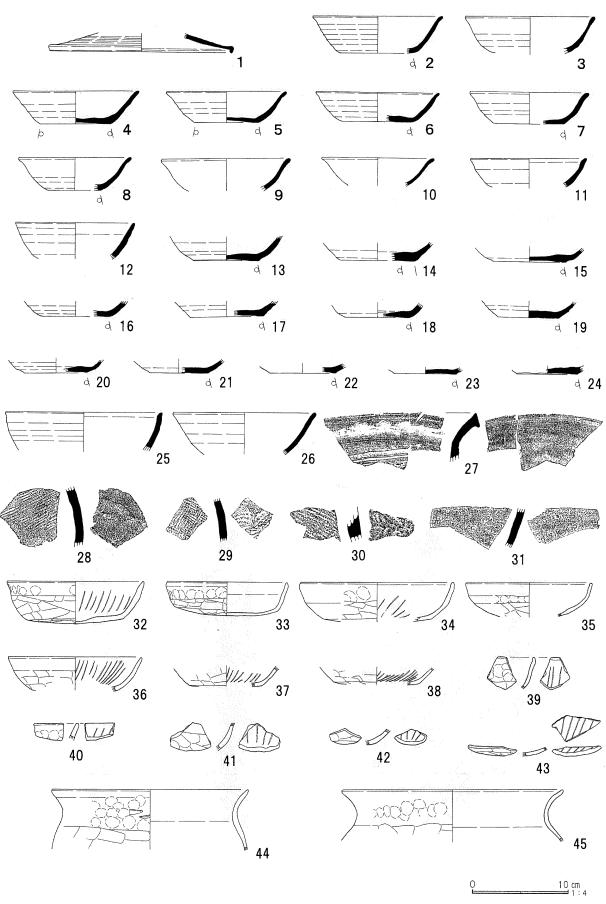
第2区B・C-7・8グリッドに位置する。北東隅及び南西隅は調査区外にある。他の遺構との重複 関係はみられない。

長軸4.59m、短軸2.92mの長方形を呈する。主軸方向は $N-88^\circ-E$ を指す。確認面からの深さは最大0.69mを測る。床面はやや凹凸がみられたが、ほぼ平坦であった。覆土は主に上・中層( $1\cdot 2$ 層)に焼土粒や炭化物、ローム粒・ブロックなどを含む暗褐色土、下層(3層)にローム粒・ブロックを含む黒褐色土がみられた。レンズ状に堆積していたが、中・下層は人為的に埋め戻された可能性が高い。

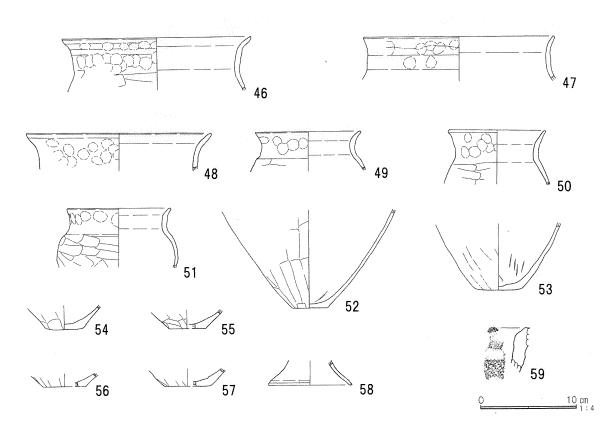
カマドは東壁中央からやや南寄りに位置する。壁外への張り出しは0.87mと短い。袖部は明確でないが、南壁のみやや前にせり出していた。袖石はみられない。幅は焚口部が0.64m、燃焼部と煙道部の境は0.67m、煙道部は0.60m程を測る。焚口部から燃焼部まではほぼ平坦であり、燃焼部と煙道部の境に



第19図 第7号住居跡遺物出土状況



第20図 第7号住居跡出土遺物(1)



第21図 第7号住居跡出土遺物(2)

第9表 第7号住居跡出土遺物観察表

| 1 須恵器 蓋 (19.1) (2.0) - ABL 黄灰色 B 口縁部15% 未野産。   2 須恵器 环 (13.6) 3.95 (7.6) ABHL 灰色 B 20% 未野産。   3 須恵器 环 (13.6) (3.9) - ABDF 浅黄色 B 口~体30% 南比企産。   4 須恵器 环 (13.2) 3.5 7.4 ABHL 灰色 A 50% 未野産。   5 須恵器 环 (12.8) 3.15 (7.0) ABFN 灰色 B 60% 未野産。   6 須恵器 环 (12.8) 3.15 (7.0) ABFN 灰色 B 40% 未野産。   7 須恵器 环 (12.4) 3.4 (7.4) ABL 灰色 B 40% 未野産。   8 須恵器 环 (11.8) 3.5 (5.5) ABL 灰色 B 20% 未野産。   9 須恵器 环 (11.8) 3.5 (5.5) ABL 灰色 B 20% 未野産。   10 須恵器 环 (11.8) (3.0) - ABHL 黄灰色 B 10~体30% 末野産。   11 須恵器 环 (12.2) (3.1) - ABFN 黄灰色 B 10~体30% 南比企産。   12 須恵器 环 (12.2) (3.1) - ABFN 黄灰色 B 10~体30% 南比企産。   13 須恵器 环 (12.5) (3.9) - ABF 灰白色 B 10~体30% 末野産。   14 須恵器 环 - (2.7) (6.6) ABDHL 灰色 B 10~体20% 南比企産。   15 須恵器 环 - (1.6) (7.4) ABEHIM 灰黄色 C 底部20% 産地不明。   16 須恵器 环 - (1.6) (7.4) ABEHIM 灰黄色 C 底部20% 産地不明。   17 須恵器 环 - (1.6) (7.4) ABEHIM 灰黄色 C 底部20% 産地不明。   18 須恵器 环 - (1.6) (7.0) ABGL 灰白色 B 底部25% 末野産。   19 須恵器 环 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部25% 末野産。   19 須恵器 环 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部25% 末野産。   10 須恵器 环 - (1.6) (6.8) ABL 灰白色 B 底部25% 末野産。   11 須恵器 环 - (1.6) (6.8) ABL 灰白色 B 底部25% 末野産。   12 須恵器 环 - (1.6) (6.8) ABL 灰白色 B 底部20% 末野産。   13 須恵器 环 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部20% 末野産。   14 須恵器 环 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部20% 末野産。   15 須恵器 环 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部20% 末野産。   16 須恵器 环 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部20% 末野産。   17 須恵器 环 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部30% 南比企産。   18 須恵器 环 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部30% 南比企産。   19 須恵器 环 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部30% 南比企産。   20 須恵器 环 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部30% 南比企産。   21 須恵器 环 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部30% 南比企産。   22 須恵器 环 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部30% 南比企産。   23 須恵器 环 - (1.6) (6.4) ABF B B K B B B B B B B B B B B B B B B B  |    |       |   | 1-1-1-1 |        |       |        |         | 1  | =0.4.4 | thi -ix |
|---|----|-------|---|---------|--------|-------|--------|---------|----|--------|---------|
| 2 須恵器 坏 (13.6) 3.95 (7.6) ABHL       灰色 B       20% 末野産。         3 須恵器 坏 (13.6) (3.9) - ABDF       浅黄色 B       日 口~体30% 南比企産。         4 須恵器 坏 (13.2) 3.5 7.4 ABHL       灰色 A       50% 末野産。         5 須恵器 坏 (12.8) 3.15 (7.0) ABFN       灰色 A       15% 南比企産。         6 須恵器 坏 (12.8) 3.15 (7.0) ABFN       灰色 A       15% 南比企産。         7 須恵器 坏 (12.4) 3.4 (7.4) ABL       灰色 B       40% 未野産。         8 須恵器 坏 (11.8) 3.5 (5.5) ABL       灰色 B       20% 末野産。         9 須恵器 坏 (11.8) (3.5) - ABCGL       灰黄色 B       10~体30% 末野産。         10 須恵器 坏 (11.8) (3.0) - ABHL       黄灰色 B       10~本30% 南比企産。         11 須恵器 坏 (12.2) (3.1) - ABFN       黄灰色 B       10~体30% 南比企産。         12 須恵器 坏 (12.5) (3.9) - ABF       灰白色 B       10~本620% 南比企産。         13 須恵器 坏 (12.5) (3.9) - ABF       灰白色 B       10~本620% 南比企産。         14 須恵器 坏 (1.6) (7.4) ABEHIM       灰白色 B       4本底30% 非野産。         15 須恵器 坏 (1.6) (7.4) ABGL       灰白色 B       6 底部20% 産地不明。         16 須恵器 坏 (1.6) (7.0) ABGL       灰白色 B       底部25% 末野産。         17 須恵器 坏 (1.6) (6.8) ABL       灰色 B       底部25% 末野産。         19 須恵器 坏 (1.6) (6.8) ABL       灰色 B       底部20% 末野産。         20 須恵器 坏 (1.6) (6.8) ABGL       灰色 B       底部30% 末野産。         19 須恵器 坏 (1.6) (6.8) ABGL       灰色   | 号  | 器 種   |   | 口径      | 器高     | 底径    | 胎土     | 色 調     | 焼成 | 残存率    | 備 考     |
| 3 須恵器   | 1  | 須恵器 🗄 | 蓋 | (19.1)  | (2.0)  | -     | ABL    | 黄灰色     | В  | 口縁部15% | 末野産。    |
| 3 次   | 2  | 須恵器 よ | 不 | (13.6)  | 3.95   | (7.6) | ABHL   | 灰色      | В  |        | 末野産。    |
| 5 須恵器 坪 12.6 3.3 6.8 ABHL 黄灰色 B 60% 末野産。   6 須恵器 坪 (12.8) 3.15 (7.0) ABFN 灰色 A 15% 南比企産。   7 須恵器 坪 (12.4) 3.4 (7.4) ABL 灰色 B 40% 末野産。   8 須恵器 坪 (11.8) 3.5 (5.5) ABL 灰色 B 20% 末野産。   9 須恵器 坪 (13.5) (3.5) - ABCGL 灰黄色 C □~体30% 末野産。   10 須恵器 坪 (11.8) (3.0) - ABHL 黄灰色 B □~体35% 末野産。   11 須恵器 坪 (12.2) (3.1) - ABFN 黄灰色 B □~体30% 南比企産。   12 須恵器 坪 (12.5) (3.9) - ABF 灰白色 B □~体20% 南比企産。   13 須恵器 坪 - (2.7) (6.6) ABDHL 灰色 B □~体20% 南比企産。   14 須恵器 坪 - (2.1) (7.8) ABH 灰白色 B 体~底15% 群馬産?   15 須恵器 坪 - (1.6) (7.4) ABEHIM 灰黄色 C 底部20% 産地不明。   16 須恵器 坪 - (1.6) (7.0) ABGL 灰白色 B 底部25% 末野産。   17 須恵器 坪 - (1.6) (7.0) ABGL 灰白色 B 底部25% 末野産。   18 須恵器 坪 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部25% 末野産。   19 須恵器 坪 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部25% 末野産。   19 須恵器 坪 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部20% 末野産。   19 須恵器 坪 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部20% 末野産。   19 須恵器 坪 - (1.5) (6.3) ABL 灰色 B 底部20% 末野産。   19 須恵器 坪 - (1.5) (6.3) ABL 灰色 B 底部20% 末野産。   20 須恵器 坪 - (1.5) (6.3) ABL 灰色 B 底部30% 末野産。   21 須恵器 坪 - (1.5) (6.3) ABL 灰色 B 底部30% 末野産。   22 須恵器 坪 - (1.5) (6.3) ABL 灰色 B 底部30% 末野産。   23 須恵器 坪 - (1.0) (6.8) ABDF 黄灰色 B 底部30% 南比企産。   24 須恵器 坪 - (0.65) (6.4) ABF 暗灰色 B 底部30% 末野産。   24 須恵器 坪 - (0.65) (6.4) ABF 暗灰色 B 底部30% 末野産。   24 須恵器 坪 - (0.65) (6.4) ABF 暗灰色 B 底部30% 末野産。   24 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 底部30% 末野産。   25 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 底部30% 末野産。   26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 瓦部30% 末野産。   26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 瓦部30% 末野産。   26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 瓦部30% 末野産。   26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 瓦部30% 末野産。   26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 瓦部30% 末野産。   26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 瓦部30% 末野産。   26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 瓦部30% 末野産。   26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 瓦部30% 末野産。   26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 瓦部30% 末野産。   26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 瓦部30% 末野産。   26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 瓦部30% 末野産。   26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 瓦部30% 末野産。   26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 瓦部30% 末野産。   26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 瓦部30% 末野産。   26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰色 B 瓦部30% 末野産。   26 須恵器 校 (15.0) (15 № 10.0 | 3  | 須恵器 均 | 不 | (13.6)  | (3.9)  |       | ABDF   | 浅黄色     | В  | 口~体30% | 南比企産。   |
| 6 須恵器 坏 (12.8) 3.15 (7.0) ABFN   灰色   A   15% 南比企産。   7 須恵器 坏 (12.4) 3.4 (7.4) ABL   灰色   B   40% 未野産。   8 須恵器 坏 (11.8) 3.5 (5.5) ABL   灰色   B   20% 末野産。   9 須恵器 坏 (11.8) (3.5) - ABCGL   灰黄色   C □~体30% 末野産。   10 須恵器 坏 (11.8) (3.0) - ABHL   黄灰色   B □~体35% 末野産。   11 須恵器 坏 (12.2) (3.1) - ABFN   黄灰色   B □~体30% 南比企産。   12 須恵器 坏 (12.5) (3.9) - ABF   灰白色   B □~体20% 南比企産。   13 須恵器 坏 (12.5) (3.9) - ABF   灰白色   B Φ~底30% 末野産。   14 須恵器 坏 (12.5) (7.8) ABH   灰白色   B Φ~底15% 群馬産?   15 須恵器 坏 - (2.1) (7.8) ABH   灰白色   B Φ~底15% 群馬産?   16 須恵器 坏 - (1.6) (7.4) ABEHIM   灰黄色   C 底部20% 産地不明。   16 須恵器 坏 - (1.6) (7.0) ABGL   灰白色   B 底部25% 末野産。   17 須恵器 坏 - (1.6) (6.8) ABL   灰白色   B 底部25% 末野産。   19 須恵器 坏 - (1.6) (6.8) ABL   灰白色   B 底部25% 末野産。   19 須恵器 坏 - (1.8) (6.4) ABGL   灰白色   B 底部20% 末野産。   19 須恵器 坏 - (1.4) (6.6) ABGL   灰色   B 底部20% 末野産。   19 須恵器 坏 - (1.5) (6.3) ABL   灰色   B 底部30% 末野産。   10 須恵器 坏 - (1.5) (6.3) ABL   灰色   B 底部30% 末野産。   12 須恵器 坏 - (1.5) (6.3) ABL   灰色   B 底部30% 末野産。   13 須恵器 坏 - (1.5) (6.3) ABL   灰色   B 底部30% 末野産。   12 須恵器 坏 - (1.5) (6.3) ABL   灰色   B 底部30% 南比企産。   12 須恵器 坏 - (1.5) (6.3) ABL   灰色   B 底部30% 南比企産。   12 須恵器 坏 - (1.6) (6.8) ABDF   黄灰色   B 底部30% 南比企産。   12 須恵器 坏 - (1.6) (6.8) ABDF   黄灰色   B 底部30% 南比企産。   12 須恵器 坏 - (1.6) (6.8) ABDF   黄灰色   B 底部30% 南比企産。   12 須恵器 坏 - (1.6) (6.8) ABDF   黄灰色   B 底部30% 南比企産。   12 須恵器 杯 - (1.6) (6.8) ABDF   日本  | 4  | 須恵器 士 | 坏 | (13.2)  | 3.5    | 7.4   | ABHL   | 灰色      | Α  | 50%    | 末野産。    |
| 7 須恵器 坏 (12.4) 3.4 (7.4) ABL   灰色 B 40% 末野産。   11.8   | 5  | 須恵器 均 | 不 | 12.6    | 3.3    | 6.8   | ABHL   | 黄灰色     | В  |        | 末野産。    |
| 8 須恵器 坏 (11.8) 3.5 (5.5) ABL 灰色 B 20% 末野産。 9 須恵器 坏 (13.5) (3.5) - ABCGL 灰黄色 C 口~体30% 末野産。 10 須恵器 坏 (11.8) (3.0) - ABHL 黄灰色 B 口~体35% 末野産。 11 須恵器 坏 (12.2) (3.1) - ABFN 黄灰色 B 口~体30% 南比企産。 12 須恵器 坏 (12.5) (3.9) - ABF 灰白色 B 口~体20% 南比企産。 13 須恵器 坏 - (2.7) (6.6) ABDHL 灰色 B 体~底30% 末野産。 14 須恵器 坏 - (2.1) (7.8) ABH 灰白色 B 体~底15% 群馬産? 15 須恵器 坏 - (1.6) (7.4) ABEHIM 灰黄色 C 底部20% 産地不明。 16 須恵器 坏 - (1.6) (7.0) ABGL 灰白色 B 底部25% 末野産。 17 須恵器 坏 - (1.6) (7.0) ABGL 灰白色 B 底部25% 末野産。 18 須恵器 坏 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部25% 末野産。 19 須恵器 坏 - (1.8) (6.4) ABGL 灰白色 B 底部25% 末野産。 20 須恵器 坏 - (1.4) (6.6) ABGL 灰色 B 底部20% 末野産。 21 須恵器 坏 - (1.5) (6.3) ABL 灰色 B 底部30% 末野産。 22 須恵器 坏 - (1.5) (6.3) ABL 灰色 B 底部30% 末野産。 23 須恵器 坏 - (1.0) (6.8) ABDF 黄灰色 B 底部30% 南比企産。 24 須恵器 坏 - (0.9) (6.4) ABDHL 灰色 B 底部30% 末野産。 25 須恵器 椀 (16.4) (4.1) - ABFN 灰色 A 口縁部10% 南比企産。 26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰白色 B 口~体15% 末野産。   | 6  | 須恵器 均 | 不 | (12.8)  | 3.15   | (7.0) | ABFN   | 灰色      | A  | 15%    | 南比企産。   |
| 9 須恵器 坏 (13.5) (3.5) - ABCGL   灰黄色   C 口~体30% 末野産。   10 須恵器 坏 (11.8) (3.0) - ABHL   黄灰色   B 口~体35% 末野産。   11 須恵器 坏 (12.2) (3.1) - ABFN   黄灰色   B 口~体30% 南比企産。   12 須恵器 坏 (12.5) (3.9) - ABF   灰白色   B 口~体20% 南比企産。   13 須恵器 坏 - (2.7) (6.6) ABDHL   灰色   B 体~底30% 末野産。   14 須恵器 坏 - (2.1) (7.8) ABH   灰白色   B 体~底30% 末野産。   14 須恵器 坏 - (2.1) (7.8) ABH   灰白色   B 体~底15% 群馬産?   15 須恵器 坏 - (1.6) (7.4) ABEHIM   灰黄色   C 底部20% 産地不明。   16 須恵器 坏 - (1.6) (7.0) ABGL   灰白色   B 底部25% 末野産。   17 須恵器 坏 - (1.6) (7.0) ABGL   灰白色   B 底部25% 末野産。   18 須恵器 坏 - (1.6) (6.8) ABL   灰白色   B 底部25% 末野産。   19 須恵器 坏 - (1.8) (6.4) ABGL   灰色   B 底部20% 末野産。   19 須恵器 坏 - (1.4) (6.6) ABGL   灰色   B 底部40% 末野産。   20 須恵器 坏 - (1.4) (6.6) ABGL   灰色   B 底部30% 末野産。   21 須恵器 坏 - (1.5) (6.3) ABL   灰色   B 底部30% 末野産。   22 須恵器 坏 - (1.0) (6.8) ABDF   黄灰色   B 底部30% 末野産。   23 須恵器 坏 - (0.65) (6.4) ABF   時灰色   B 底部30% 末野産。   24 須恵器 坏 - (0.9) (6.4) ABDHL   灰色   B 底部30% 末野産。   24 須恵器 株 (16.4) (4.1) - ABFN   灰色   B 底部30% 末野産。   26 須恵器 株 (16.4) (4.1) - ABFN   灰色   B 底部30% 末野産。   26 須恵器 株 (15.0) (4.5) - ABGH   灰白色   B 口~体15% 末野産。   26 須恵器 株 (15.0) (4.5) - ABGH   灰白色   B 口~体15% 末野産。   26 須恵器 株 (15.0) (4.5) - ABGH   灰白色   B 口~体15% 末野産。   26 須恵器 株 (15.0) (4.5) - ABGH   灰白色   B 口~体15% 末野産。   27 次白色   28 次日色   27 次日色 | 7  | 須恵器 士 | 坏 | (12.4)  | 3.4    | (7.4) | ABL    | 灰色      | В  |        | 末野産。    |
| 10 須恵器 坏 (11.8) (3.0) - ABHL 黄灰色 B 口~体35% 末野産。   11 須恵器 坏 (12.2) (3.1) - ABFN 黄灰色 B 口~体30% 南比企産。   12 須恵器 坏 (12.5) (3.9) - ABF 灰白色 B 口~体20% 南比企産。   13 須恵器 坏 - (2.7) (6.6) ABDHL 灰色 B 体~底30% 末野産。   14 須恵器 坏 - (2.1) (7.8) ABH 灰白色 B 体~底15% 群馬産?   14 須恵器 坏 - (2.1) (7.8) ABH 灰白色 B 体~底15% 群馬産?   15 須恵器 坏 - (1.6) (7.4) ABEHIM 灰黄色 C 底部20% 産地不明。   16 須恵器 坏 - (1.6) (7.0) ABGL 灰白色 B 底部25% 末野産。   17 須恵器 坏 - (1.6) (7.0) ABGL 灰白色 B 底部25% 末野産。   18 須恵器 坏 - (1.6) (6.8) ABL 灰白色 B 底部25% 末野産。   19 須恵器 坏 - (1.8) (6.4) ABGL 灰白色 B 底部20% 末野産。   19 須恵器 坏 - (1.4) (6.6) ABGL 灰色 B 底部20% 末野産。   20 須恵器 坏 - (1.4) (6.6) ABGL 灰色 B 底部40% 末野産。   21 須恵器 坏 - (1.5) (6.3) ABL 灰色 B 底部30% 末野産。   22 須恵器 坏 - (1.0) (6.8) ABDF 黄灰色 B 底部30% 末野産。   23 須恵器 坏 - (0.65) (6.4) ABF  | 8  | 須恵器 は | 坏 | (11.8)  | 3.5    | (5.5) | ABL    | 灰色      | В  | 20%    | 末野産。    |
| 11 須恵器 坏 (12.2) (3.1) - ABFN   黄灰色   B 口~体30% 南比企産。   | 9  | 須恵器 は | 坏 | (13.5)  | (3.5)  | -     | ABCGL  | 灰黄色     | C  | 口~体30% | 末野産。    |
| 12 須恵器 坏 (12.5) (3.9) - ABF       灰白色 B 口~体20% 南比企産。         13 須恵器 坏 - (2.7) (6.6) ABDHL 灰色 B 体~底30% 未野産。         14 須恵器 坏 - (2.1) (7.8) ABH 灰白色 B 体~底15% 群馬産?         15 須恵器 坏 - (1.6) (7.4) ABEHIM 灰黄色 C 底部20% 産地不明。         16 須恵器 坏 - (1.6) (7.0) ABGL 灰白色 B 底部25% 未野産。         17 須恵器 坏 - (1.6) (6.8) ABL 灰白色 B 底部25% 未野産。         18 須恵器 坏 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部25% 未野産。         19 須恵器 坏 - (1.8) (6.4) ABGL 灰白色 B 底部20% 未野産。         20 須恵器 坏 - (1.4) (6.6) ABGL 灰色 B 底部40% 未野産。         21 須恵器 坏 - (1.4) (6.6) ABGL 灰色 B 底部30% 未野産。         22 須恵器 坏 - (1.5) (6.3) ABL 灰色 B 底部30% 未野産。         23 須恵器 坏 - (0.65) (6.4) ABF   | .0 | 須恵器 均 | 坏 | (11.8)  | (3.0)  | -     | ABHL   | 黄灰色     | В  |        | 末野産。    |
| 13 須恵器 坏       - (2.7) (6.6) ABDHL       灰色       B 体~底30% 未野産。         14 須恵器 坏       - (2.1) (7.8) ABH       灰白色       B 体~底15% 群馬産?         15 須恵器 坏       - (1.6) (7.4) ABEHIM       灰黄色       C 底部20% 産地不明。         16 須恵器 坏       - (1.6) (7.0) ABGL       灰白色       B 底部25% 未野産。         17 須恵器 坏       - (1.7) (7.6) ABEGL       灰白色       B 底部25% 末野産。         18 須恵器 坏       - (1.6) (6.8) ABL       灰色       B 底部25% 末野産。         19 須恵器 坏       - (1.8) (6.4) ABGL       灰色       B 底部20% 末野産。         20 須恵器 坏       - (1.4) (6.6) ABGL       黄灰色       B 底部40% 末野産。         21 須恵器 坏       - (1.5) (6.3) ABL       灰色       B 底部30% 末野産。         22 須恵器 坏       - (1.0) (6.8) ABDF       黄灰色       B 底部30% 南比企産。         23 須恵器 坏       - (0.65) (6.4) ABF       暗灰色       B 底部30% 末野産。         24 須恵器 坏       - (0.9) (6.4) ABDHL       灰色       B 底部30% 末野産。         24 須恵器 椀 (16.4) (4.1)       - ABFN       灰色       A 口縁部10% 南比企産。         26 須恵器 椀 (15.0) (4.5)       - ABGH       灰白色       B 口~体15% 未野産。  | 1  | 須恵器 士 | 坏 | (12.2)  | (3.1)  |       | ABFN   | 黄灰色     | В  | 口~体30% | 南比企産。   |
| 14 須恵器 坏 - (2.1) (7.8) ABH       灰白色 B 体~底15% 群馬産?         15 須恵器 坏 - (1.6) (7.4) ABEHIM       灰黄色 C 底部20% 産地不明。         16 須恵器 坏 - (1.6) (7.0) ABGL 灰白色 B 底部25% 末野産。         17 須恵器 坏 - (1.7) (7.6) ABEGL 灰白色 B 底部25% 末野産。         18 須恵器 坏 - (1.6) (6.8) ABL 灰色 B 底部25% 末野産。         19 須恵器 坏 - (1.8) (6.4) ABGL 灰色 B 底部20% 末野産。         20 須恵器 坏 - (1.4) (6.6) ABGL 黄灰色 B 底部40% 末野産。         21 須恵器 坏 - (1.5) (6.3) ABL 灰色 B 底部30% 末野産。         22 須恵器 坏 - (1.5) (6.3) ABL 灰色 B 底部30% 市比企産。         23 須恵器 坏 - (0.65) (6.4) ABF  | .2 | 須恵器 士 | 坏 | (12.5)  | (3.9)  | -     | ABF    | 灰白色     | В  | 口~体20% | 南比企産。   |
| 15       須恵器       坏       - (1.6) (7.4) ABEHIM       灰黄色       C 底部20% 産地不明。         16       須恵器       坏       - (1.6) (7.0) ABGL       灰白色       B 底部25% 末野産。         17       須恵器       坏       - (1.7) (7.6) ABEGL       灰白色       B 底部25% 末野産。         18       須恵器       坏       - (1.6) (6.8) ABL       灰色       B 底部25% 末野産。         19       須恵器       坏       - (1.8) (6.4) ABGL       灰色       B 底部20% 末野産。         20       須恵器       坏       - (1.4) (6.6) ABGL       黄灰色       B 底部40% 末野産。         21       須恵器       坏       - (1.5) (6.3) ABL       灰色       B 底部30% 末野産。         22       須恵器       坏       - (1.0) (6.8) ABDF       黄灰色       B 底部30% 南比企産。         23       須恵器       坏       - (0.65) (6.4) ABF       暗灰色       B 底部30% 市比企産。         24       須恵器       坏       - (0.9) (6.4) ABDHL       灰色       B 底部30% 末野産。         25       須恵器       椀 (16.4) (4.1)       - ABFN       灰色       A 口縁部10% 南比企産。         26       須恵器       椀 (15.0) (4.5)       - ABGH       灰白       B 口~体15% 未野産。   | .3 | 須恵器 士 | 坏 | -       | (2.7)  | (6.6) | ABDHL  | 灰色      | В  | 体~底30% | 末野産。    |
| 16       須恵器       坏       - (1.6)       (7.0)       ABGL       灰白色       B       底部25%       未野産。         17       須恵器       坏       - (1.7)       (7.6)       ABEGL       灰白色       B       底部25%       未野産。         18       須恵器       坏       - (1.6)       (6.8)       ABL       灰色       B       底部25%       未野産。         19       須恵器       坏       - (1.8)       (6.4)       ABGL       灰色       B       底部20%       未野産。         20       須恵器       坏       - (1.4)       (6.6)       ABGL       黄灰色       B       底部40%       未野産。         21       須恵器       坏       - (1.5)       (6.3)       ABL       灰色       B       底部30%       未野産。         22       須恵器       坏       - (1.0)       (6.8)       ABDF       黄灰色       B       底部30%       南比企産。         23       須恵器       坏       - (0.65)       (6.4)       ABF       暗灰色       B       底部30%       南比企産。         24       須恵器       坏       - (0.65)       (6.4)       ABDHL       灰色       B       底部30%       末野産。         25       須恵器       椀       (1.4)       (4.1)  | .4 | 須恵器 は | 坏 | -       | (2.1)  | (7.8) | ABH    | 灰白色     | В  | 体~底15% | 群馬産?    |
| 17       須恵器       坏       - (1.7) (7.6) ABEGL       灰白色       B 底部25% 未野産。         18       須恵器       坏       - (1.6) (6.8) ABL       灰色       B 底部25% 未野産。         19       須恵器       坏       - (1.8) (6.4) ABGL       灰色       B 底部20% 未野産。         20       須恵器       坏       - (1.4) (6.6) ABGL       黄灰色       B 底部40% 未野産。         21       須恵器       坏       - (1.5) (6.3) ABL       灰色       B 底部30% 末野産。         22       須恵器       坏       - (1.0) (6.8) ABDF       黄灰色       B 底部30% 南比企産。         23       須恵器       坏       - (0.65) (6.4) ABF       暗灰色       B 底部30% 市比企産。         24       須恵器       坏       - (0.9) (6.4) ABDHL       灰色       B 底部30% 末野産。         25       須恵器       椀 (16.4) (4.1)       - ABFN       灰色       A 口縁部10% 南比企産。         26       須恵器       椀 (15.0) (4.5)       - ABGH       灰白色       B 口~体15% 未野産。   | .5 | 須恵器 士 | 坏 | - '     | (1.6)  | (7.4) | ABEHIM | 灰黄色     | С  | 底部20%  | 産地不明。   |
| 18 須恵器 坏 - (1.6) (6.8) ABL       灰色 B 底部25% 未野産。         19 須恵器 坏 - (1.8) (6.4) ABGL       灰色 B 底部20% 末野産。         20 須恵器 坏 - (1.4) (6.6) ABGL       黄灰色 B 底部40% 末野産。         21 須恵器 坏 - (1.5) (6.3) ABL       灰色 B 底部30% 末野産。         22 須恵器 坏 - (1.0) (6.8) ABDF 黄灰色 B 底部30% 南比企産。         23 須恵器 坏 - (0.65) (6.4) ABF 暗灰色 B 底部35% 南比企産。         24 須恵器 坏 - (0.9) (6.4) ABDHL       灰色 B 底部30% 末野産。         25 須恵器 椀 (16.4) (4.1) - ABFN       灰色 B 底部30% 末野産。         26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH       灰白色 B 口~体15% 末野産。   | 6  | 須恵器 士 | 坏 | -       | (1.6)  | (7.0) | ABGL   | 灰白色     | В  | 底部25%  | 末野産。    |
| 19 須恵器 坏       - (1.8) (6.4) ABGL       灰色 B 底部20% 末野産。         20 須恵器 坏       - (1.4) (6.6) ABGL 黄灰色 B 底部40% 末野産。         21 須恵器 坏       - (1.5) (6.3) ABL 灰色 B 底部30% 末野産。         22 須恵器 坏       - (1.0) (6.8) ABDF 黄灰色 B 底部30% 南比企産。         23 須恵器 坏       - (0.65) (6.4) ABF 暗灰色 B 底部25% 南比企産。         24 須恵器 坏       - (0.9) (6.4) ABDHL 灰色 B 底部30% 末野産。         25 須恵器 椀 (16.4) (4.1) - ABFN 灰色 A 口縁部10% 南比企産。         26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰白色 B 口~体15% 末野産。  | .7 | 須恵器 均 | 坏 | -       | (1.7)  | (7.6) | ABEGL  | 灰白色     | В  | 底部25%  | 末野産。    |
| 20 須恵器 坏 - (1.4) (6.6) ABGL 黄灰色 B 底部40% 未野産。         21 須恵器 坏 - (1.5) (6.3) ABL 灰色 B 底部30% 未野産。         22 須恵器 坏 - (1.0) (6.8) ABDF 黄灰色 B 底部30% 南比企産。         23 須恵器 坏 - (0.65) (6.4) ABF 暗灰色 B 底部25% 南比企産。         24 須恵器 坏 - (0.9) (6.4) ABDHL 灰色 B 底部30% 未野産。         25 須恵器 椀 (16.4) (4.1) - ABFN 灰色 A 口縁部10% 南比企産。         26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰白色 B 口~体15% 未野産。  | .8 | 須恵器 1 | 坏 | -       | (1.6)  | (6.8) | ABL    | 灰色      | В  | 底部25%  | 末野産。    |
| 21 須恵器 坏     - (1.5) (6.3) ABL     灰色 B 底部30% 未野産。       22 須恵器 坏     - (1.0) (6.8) ABDF 黄灰色 B 底部30% 南比企産。       23 須恵器 坏     - (0.65) (6.4) ABF 暗灰色 B 底部25% 南比企産。       24 須恵器 坏     - (0.9) (6.4) ABDHL 灰色 B 底部30% 未野産。       25 須恵器 椀 (16.4) (4.1) - ABFN 灰色 A 口縁部10% 南比企産。       26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH 灰白色 B 口~体15% 未野産。   | 9  | 須恵器 士 | 坏 | -       | (1.8)  | (6.4) | ABGL   | 灰色      | В  | 底部20%  | 末野産。    |
| 22     須恵器 坏     - (1.0) (6.8) ABDF     黄灰色     B 底部30% 南比企産。       23     須恵器 坏     - (0.65) (6.4) ABF     暗灰色     B 底部25% 南比企産。       24     須恵器 坏     - (0.9) (6.4) ABDHL     灰色     B 底部30% 末野産。       25     須恵器 椀 (16.4) (4.1) - ABFN     灰色     A 口縁部10% 南比企産。       26     須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH     灰白色     B 口~体15% 未野産。  | 20 | 須恵器 」 | 坏 | -       | (1.4)  | (6.6) | ABGL   | 黄灰色     | В  | 底部40%  | 末野産。    |
| 23     須恵器     坏     - (0.65) (6.4) ABF     暗灰色     B 底部25% 南比企産。       24     須恵器     坏     - (0.9) (6.4) ABDHL     灰色     B 底部30% 末野産。       25     須恵器     椀 (16.4) (4.1) - ABFN     灰色     A 口縁部10% 南比企産。       26     須恵器     椀 (15.0) (4.5) - ABGH     灰白色     B 口~体15% 未野産。  | 21 | 須恵器 」 | 坏 | -       | (1.5)  | (6.3) | ABL    | 灰色      | В  | 底部30%  | 末野産。    |
| 24     須恵器     坏     -     (0.9)     (6.4)     ABDHL     灰色     B     底部30%     末野産。       25     須恵器     椀     (16.4)     (4.1)     -     ABFN     灰色     A     口縁部10%     南比企産。       26     須恵器     椀     (15.0)     (4.5)     -     ABGH     灰白色     B     口~体15%     未野産。  | 22 | 須恵器 」 | 坏 | -       | (1.0)  | (6.8) | ABDF   | 黄灰色     | В  |        |         |
| 25 須恵器 椀 (16.4) (4.1) - ABFN       灰色 A 口縁部10% 南比企産。         26 須恵器 椀 (15.0) (4.5) - ABGH       灰白色 B 口~体15% 未野産。   | 23 | 須恵器 5 | 坏 | -       | (0.65) | (6.4) | ABF    | 暗灰色     | В  | 底部25%  | 南比企産。   |
| 26     須恵器 椀 (15.0) (4.5)     - ABGH 灰白色 B 口~体15% 未野産。  | 24 | 須恵器 : | 坏 | -       | (0.9)  | (6.4) | ABDHL  | 灰色      | В  | 底部30%  | 末野産。    |
|   | 25 | 須恵器 木 | 椀 | (16.4)  | (4.1)  | -     | ABFN   | 灰色      | А  | 口縁部10% | 南比企産。   |
| 一   | 26 | 須恵器 木 | 椀 | (15.0)  | (4.5)  |       | ABGH   | 灰白色     | В  |        |         |
| 2. 866.00   | 27 | 須恵器 : | 獲 | -       | -      | -     | ABFM   | 黄灰色     | В  | 口縁部片   | 南比企産。   |
| 28   須恵器   甕   -   -   ABFN     暗灰色   B   胴上部片   南比企産。  | 28 | 須恵器 * | 甕 | - 1     | -      | - :   | ABFN   | 暗灰色     | В  |        |         |
| 29   須恵器   甕   -   -   ABH     黄灰色   B   胴上部片   末野産。  | 29 | 須恵器   | 甕 | -       | -      |       | ABH    | 黄灰色     | В  |        | 末野産。    |
| 30 須恵器 甕 ABEHL 外:灰 内:橙 B 胴上部片 末野産。  | 30 | 須恵器   | 甕 | -       | -      | -     | ABEHL  | 外:灰 内:橙 | В  | 胴上部片   | 末野産。    |

| 番号 | 器 種   | ĺ  | 口径     | 器高     | 底径           | 胎土       | 色調        | 焼成 | 残存率    | 備考            |
|----|-------|----|--------|--------|--------------|----------|-----------|----|--------|---------------|
| 31 | 須恵器   | 甕  | -      |        | <del>-</del> | ACHL     | 褐灰色       | В  | 胴下部片   | 末野産。          |
| 32 | 土師器   | 坏  | 14.4   | 4.5    | 10.0         | BHIJKM   | 橙色        | В  | 70%    | 内面放射状暗文有。     |
| 33 | 土師器   | 坏  | (12.5) | 3.6    | (10.8)       | ABGHJKM  | にぶい赤褐色    | В  | 40%    |               |
| 34 | 土師器   | 坏  | (16.2) | (4.2)  | (11.4)       | ABGHJM   | 明赤褐色      | В  | 20%    | 内面放射状暗文有。     |
| 35 | 土師器   | 坏  | (13.2) | (3.6)  | 7            | ВНЈМ     | にぶい橙色     | В  | 口~体15% |               |
| 36 | 土師器   | 坏  | (14.0) | (3.6)  | -            | ABCGHJK  | 褐色        | В  | 口~体20% | 内面放射状暗文有。     |
| 37 | 土師器   | 坏  | -      | (2.2)  | (7.6)        | ABGHK    | 橙色        | В  | 体~底25% | 内面放射状暗文有。     |
| 38 | 土師器   | 坏  | -      | (1.9)  | (9.0)        | ABGHJ    | にぶい橙色     | B. | 体~底30% | 内面放射状暗文有。     |
| 39 | 土師器   | 坏  | -      | -      | -            | ВНЈК     | にぶい赤褐色    | В  | 口縁部片   | 内面放射状暗文有。     |
| 40 | 土師器   | 坏  | -      | -      | =            | ВНЈ      | 明赤褐色      | В  | 口縁部片   | 内面放射状暗文有。     |
| 41 | 土師器   | 坏  | -      |        | -            | ABHIJ    | 橙色        | В  | 体部片    | 内面放射状暗文有。     |
| 42 | 土師器   | 坏  | -      | -      | -            | АВНЈМ    | にぶい赤褐色    | В  | 体部片    | 内面放射状暗文有。     |
| 43 | 土師器   | 坏  | -      | -      | -            | BGJM     | 明赤褐色      | В  | 底部片    | 内面放射状暗文有。     |
| 44 | 土師器   | 甕  | (20.6) | (6.4)  | -            | ABDHJKM  | 橙色        | В  | 口~胴15% |               |
| 45 | 土師器   | 甕  | (23.2) | (5.6)  | -            | ABCHIJKM | 赤灰色       | В  | 口縁部15% |               |
| 46 | 土師器   | 甕  | (19.8) | (5.7)  | -            | ABEGIJKM | 明赤褐色      | В  | 口~胴15% |               |
| 47 | 土師器   | 甕  | (20.0) | (4.7)  | -            | ABCHJK   | 明赤褐色      | В  | 口縁部15% |               |
| 48 | 土師器   | 甕  | (19.4) | (4.0)  | -            | ABCHJK   | 明赤褐色      | В  | 口縁部15% |               |
| 49 | 土師器小  |    | (11.0) | (4.2)  | -            | ABCGJKM  | 褐色        | В  | 口~胴30% |               |
| 50 | 土師器小  |    | (10.2) | (5.8)  | -            | ABDHJKM  | 灰褐色       | В  | 口~胴30% |               |
| 51 | 土師器小  |    | (10.8) | (6.4)  | -            | ABCHJKM  | にぶい赤褐色    | В  | 口~胴100 |               |
| 52 | 土師器   | 甕  | -      | (10.5) | 3.8          | ABCHJM   | 明赤褐色      | В  | 胴~底100 |               |
| 53 | 土師器   | 甕  | -      | (7.1)  | 4.8          | ABEGIKM  | にぶい橙色     | В  | 胴~底30% |               |
| 54 | 土師器   | 甕  | -      | (2.6)  | 4.0          | ABEHJKM  | にぶい褐色     | В  | 底部80%  |               |
| 55 | 土師器   | 甕  |        | (2.0)  | (3.8)        | ACGHIJM  | 外:赤褐 内:褐灰 | В  | 底部30%  |               |
| 56 | 土師器   | 甕  | -      | (1.4)  | (4.2)        | ABCHIJK  | 灰褐色       | В  | 底部25%  |               |
| 57 | 土師器   | 甕  | -      | (1.9)  | (5.0)        | ACHIJK   | 褐灰色       | В  | 底部30%  |               |
| 58 | 土師器台位 |    | -      | (2.6)  | (8.8)        | BEHIJK   | にぶい橙色     | В  | 台部20%  |               |
| 59 | 縄文土器  | 深鉢 | -      | -      | -            | ABHIJM   | にぶい褐色     | В  | 口縁部片   | 縄文中期後葉·加曽利E式。 |

は高低差0.15mの緩い段が設けられていた。煙道部は燃焼部の段から先端に向かって鋭角に立ち上がる。 カマドの覆土に天井部崩落土は確認できなかったが、住居跡の覆土同様、焼土粒や炭化物、ローム粒・ ブロックなどを含む層の他に中層で焼土粒・ブロックを多量含む層(10層)が確認されたにとどまる。

貯蔵穴、壁溝は検出されなかったが、床下土坑と思われる掘りこみが南側から三つ並んで検出された。いずれも平面プランはややいびつな楕円形を呈する。床下土坑1は南壁沿いほぼ中央に位置する。長軸1.40m、短軸0.95m、床面からの深さは0.23mを測る。床下土坑2は北西隅に位置する。長軸1.34m、短軸0.91m、床面からの深さは0.20mを測る。床下土坑3は西壁沿いほぼ中央に位置し、床下土坑1と2の中間にある。長軸1.25m、短軸1.20m、床面からの深さは0.10mと浅い。これらは掘り方の可能性も考えられる。また、床下土坑1の北側立ち上がりでは、ピットが一つ重複して確認された。ピット1は住居跡中央からやや南寄りに位置する。径0.25m前後、床面からの深さは0.31mを測る。しっかりとした掘り方ではあるが、その位置から柱穴とは考えづらい。

出土遺物(第20・21図)は、須恵器蓋(1)、坏(2~24)、椀(25・26)、甕(27~31)、土師器坏(32~43)、甕(44~48・52~57)、小型甕(49~51)、台付甕(58)がある。また、流れ込みの遺物として縄文時代中期後葉(59)の土器片も一点検出された。遺物は住居跡ほぼ全面及び全層から検出されたが、破片での検出が多い(第19図)。

須恵器は末野産の他に南比企産もみられ、坏には群馬産の可能性があるものもみられた。蓋(1)は一点のみ検出された。径からみて椀蓋か。坏(2~24)は口径 $13\,\mathrm{cm}$ 、器高 $3.5\,\mathrm{cm}$ 、底径 $7\,\mathrm{cm}$ 前後のものが主体となる。8~10は口縁部の外反が強く、口径に比して底径が小さいことなどから流れ込みの可能

性が高い。底部は群馬産の可能性がある14以外は回転糸切り痕を残す。椀(25・26)はともに高台が付くか不明である。25は南比企産であり、口縁端部が僅かに外反する。甕(27~31)は、口縁部片の27以外は叩き調整のもの(28~30)とナデ調整のもの(31)がある。土師器坏(32~43)は、破片も含めて内面に放射状暗文が施されているものが多い。器形的にはバラエティがあるが、概して身の深いものが多い。口縁部は横ナデ、体部外面から底部にかけてはヘラ削りが施され、口縁部外面に指頭圧痕のあるものもみられた。甕(44~48・52~57)は、口縁部が「く」の字状を呈するもの(44・45)と「コ」の字に近いもの(46~48)の二者がある。いずれも口縁部外面には指頭圧痕がみられ、44にはヘラ刻み、47には輪積痕もみられた。52~57は甕の底部である。49~51は小型であることから台付甕の可能性が高い。口縁部形態及び調整は甕と同じである。58は台部片。流れ込みである59は、縄文時代中期後葉の加曽利E式の口縁部片である。横位の太い沈線で区画された中にRL単節縄文が施文されている。

これらの遺物から本住居跡の帰属する時期は、8世紀末から9世紀初頭にかけての時期と思われる。

### 第8号住居跡(第22図)

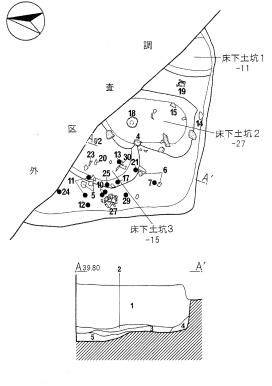
第2区A・B-6・7グリッドに位置する。南西隅付近のみの検出であり、大半が調査区外にある。他の遺構との重複関係はみられない。

正確な規模は不明である。南北軸方向はN-87°-Eを指す。確認面からの深さは最大0.52mを測る。床面はやや凹凸がみられたが、ほぼ平坦であった。覆土は上層(1層)が厚く堆積していた。ほぼ全層に焼土粒を含む傾向にあり、1層にのみ炭化物も含まれていた。レンズ状に堆積していたことから自然堆積と考えられる。

カマド、柱穴、貯蔵穴、ピットは確認されなかったが、 床下土坑と思われる掘り込みが三つ並んで検出された。いずれも調査区外に延びているため、規模及び平面プランは 不明である。床下土坑1は最も東側に位置している。床面からの深さは0.11mと浅い。床下土坑2は1と3の中間に位置し、北西部で床下土坑3と重複している。新旧関係は 不明である。床面からの深さは0.27mを測る。床下土坑3 は西壁寄りに位置する。床面からの深さは0.15mである。 これらは掘り方の可能性も考えられる。

出土遺物(第23図)は、須恵器蓋(1~3)、坏(4~17)、高台付椀(18)、土師器坏(19~25)、甕(26~28)、台付甕(29)、不明鉄製品(30)がある。概して東壁沿いからの検出が多い。

須恵器は末野産がほとんどを占めるが、8・12のみ南比

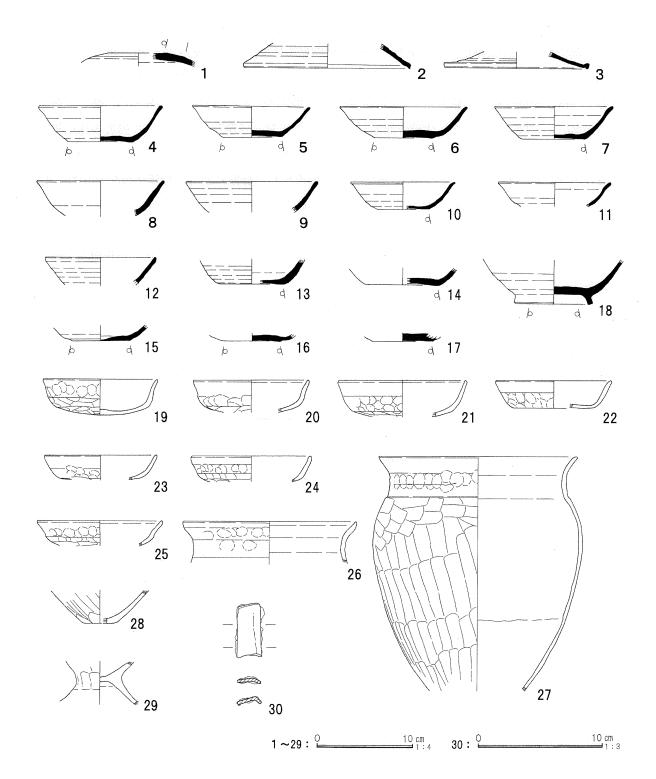


#### 第8号住居跡

- 土蘑説明 (AA')
- 1 暗褐色土:焼土粒、炭化物含む。
- 2 暗褐色土:焼土粒多量含む。
- 3 黒褐色土:焼土粒少量含む。
- 4 黒褐色土:ローム粒・ブロック多量含む。
- 5 黄褐色土:焼土粒含む。



第22図 第8号住居跡



第23図 第8号住居跡出土遺物

企産である。蓋( $1\sim3$ )は、径からみて2は椀蓋、3は坏蓋と思われる。1は天井部のみであるため不明である。坏( $4\sim17$ )は口径13cm、器高3.5cm、底径6.5cm前後のものが主体となるが、一回り径の小さいもの( $10\sim12$ )もみられる。底部はすべて回転糸切り痕を残す。高台付椀(18)は体部から高台部にかけてのみ検出された。底部は回転糸切り痕を残す。土師器坏( $19\sim25$ )は、やや器高の高いもの( $19\sim21$ )と低いもの( $22\sim25$ )がある。口縁部はいずれも横ナデであり、体部は指頭圧痕と横

第10表 第8号住居跡出土遺物観察表

| 番号  | 器 種    | 口径     | 器高       | 底径    | 胎土           | 色 調            | 焼成             | 残存率    | 備考              |
|-----|--------|--------|----------|-------|--------------|----------------|----------------|--------|-----------------|
| 1   | 須恵器 蓋  | -      | (1.4)    | (5.7) | ABHL         | 灰白色            | В              | 天井部30% | 末野産。            |
| 2   | 須恵器 蓋  | (17.4) | (2.6)    | -     | ABCG         | 灰黄色            | В              | 口縁部15% | 末野産。            |
| 3   | 須恵器 蓋  | (15.2) | (1.8)    | -     | ABHL         | 黄灰色            | В              | 口縁部20% | 末野産。            |
| 4   | 須恵器 坏  | (13.0) | 3.8      | 6.8   | ABEHL        | 灰黄色            | В              | 50%    | 末野産。            |
| 5   | 須恵器 坏  | 12.3   | 3.5      | 6.3   | ABCL         | 灰黄色            | A              | 70%    | 末野産。            |
| 6   | 須恵器 坏  | (13.4) | 3.3      | 6.2   | AEGKL        | 灰色             | В              | 40%    | 末野産。            |
| 7   | 須恵器 坏  | (12.4) | 3.5      | (6.6) | ABL          | 灰色             | B <sub>.</sub> | 45%    | 末野産。            |
| 8   | 須恵器 坏  | (13.4) | (3.7)    | -     | ABFN         | 黄灰色            | B              | 口~体30% | 南比企産。           |
| 9   | 須恵器 坏  | (13.8) | (3.3)    | -     | ABDEHL       | 橙色             | В              | 口~体20% | 末野産。            |
| 10  | 須恵器 坏  | (11.0) | 2.9      | (6.4) | ABL          | 灰色             | A              | 30%    | 末野産。            |
| 11  | 須恵器 坏  | (11.8) | (2.7)    | -     | ABEHN        | 灰黄色            | В              | 口~体25% | 末野産。            |
| 12  | 須恵器 坏  | (11.6) | (3.0)    | -     | ABDFH        | 灰白色            | В              | 口~体15% | 南比企産。           |
| 13  | 須恵器 坏  | -      | (2.6)    | (6.7) | ABDHIJM      | にぶい橙色          | C .            | 体~底25% | 末野産。            |
| 14  | 須恵器 坏  | -      | (1.9)    | (7.4) | BHLM         | 灰黄色            | В              | 体~底40% | 末野産。外面アバタ状剥離顕著。 |
| 15. | 須恵器 坏  | -      | (1.6)    | 6.3   | ABEHLM       | にぶい褐色          | В              | 底部100% | 末野産。            |
| 16  | 須恵器 坏  | -      | (0.7)    | 6.0   | ABHL         | 灰色             | A              | 底部100% | 末野産。            |
| 17  | 須恵器 坏  |        | (0.85)   | (6.2) | ABGHL        | 黄灰色            | В              | 底部50%  | 未野産。            |
| 18  | 須恵器高台核 | - 1    | (4.7)    | 8.2   | ABHL         | 灰色             | В              | 体~高100 |                 |
| 19  | 土師器 坏  | 12.0   | 3.8      | -     | ABHJ         | にぶい赤褐色         | B,             | 90%    |                 |
| 20  | 土師器 坏  | (12.2) | (3.4)    | -     | ВНЈМ         | 橙色             | В              | 30%    |                 |
| 21  | 土師器 坏  | (13.5) | (3.9)    | -     | ABGIJM       | 橙色             | В              | 20%    |                 |
| 22  | 土師器 坏  | (12.2) | 2.9      | (8.2) | ABHJK        | 明赤褐色           | В              | 25%    |                 |
| 23  | 土師器 坏  | (11.8) | (2.6)    | (8.2) | ABHI         | 橙色             | A              | 20%    |                 |
| 24  | 土師器 坏  | (12.6) | (2.75)   | -     | ABHIJM       | 橙色             | B              | 口~体40% |                 |
| 25  | 土師器 坏  | (13.2) | (2.65)   |       | BGIJM        | 橙色             | В              | 口~体15% |                 |
| 26  | 土師器 甕  | (18.2) | (4.4)    | 1     | ABDHJM       | にぶい褐色          | В              | 口縁部20% |                 |
| 27  | 土師器 甕  | (20.8) | (25.1)   |       | ABCGIJM      | にぶい橙色          | В              | 口~胴40% | · construction  |
| 28  | 土師器 甕  | -      | (3.6)    | (3.6) | ABDJKM       | 橙色             | В              | 底部20%  |                 |
| 29  | 土師器台付養 |        | (4.6)    | -     | ABGHJ        | 橙色             | В              | 接合部100 |                 |
| 30  | 不明鉄製品  | 最大長    | (4.35)cn | ı、最大  | 幅(1.95)cm、最大 | 、厚(0.25)cm。 重量 | (8.9) g        | 。下部欠。栃 | 汉状、屈曲。          |

位のヘラ削りの二者がみられたが、前者の方が多い。19・25は口縁部にも指頭圧痕が認められた。底部は22が平底、その他は平底に近い。調整はすべてヘラ削りである。甕(26~28)は、口縁部が「コ」の字状を呈する。外面には指頭圧痕や輪積痕がみられた。29は台付甕の接合部片。30は不明鉄製品。下部を欠く。板状を呈するが、中央付近から両側に屈曲している。

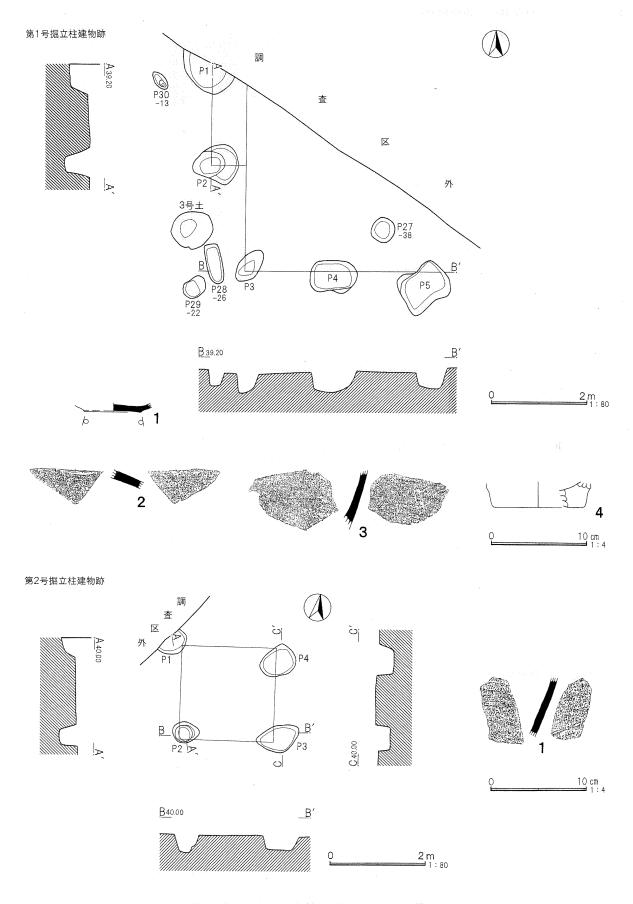
これらの遺物から本住居跡の帰属する時期は、9世紀中頃を中心とした時期と思われる。

# 2 掘立柱建物跡

#### 第1号掘立柱建物跡(第24図)

第2区E・ $F-12\cdot 13$ グリッドに位置する。土坑及びピットが密集する箇所にあり、不揃いな感は否めないが、ほぼ柱筋が通ることから掘立柱建物跡として報告する。周辺にある土坑やピットが本建物跡に関連するかどうかはっきりしないが、中でもピット28は西側及び南側柱列の延長線上にあることから伴う可能性もある。ただ、その形態や南側柱列の柱間が等間隔でなくなることなどから、ここでは伴う可能性があるものとしておきたい。なお、本建物跡内にあるピット27は伴わないと思われるが、新旧関係については不明である。

本建物跡の規模は、北東部大半が調査区外にあるため不明である。検出した状況では2間 $\times 2$ 間以上の側柱建物跡になる可能性があるが、掘り方の配置などからみて南北棟であろうか。主軸方向はN-10-Eを指し、ほぼ東西南北に軸があっている。柱間は、西側がピット1からピット3及び伴う可能



第24図 第1・2号掘立柱建物跡・出土遺物

第11表 第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表

| 番号 | 器 種    | 口径 | 器高    | 底径    | 胎土   | 色 調 | 焼成 | 残存率    | 備           | 考         |
|----|--------|----|-------|-------|------|-----|----|--------|-------------|-----------|
| 1  | 須恵器 坏  |    | (1.0) | 6.0   | ABFN | 灰色  | В  | 底部100% | P1出土。南比企産。  |           |
| 2  | 須恵器 甕  | -  | -     | 1     | AF   | 灰色  | В  | 肩部片    | P4出土。南比企産。为 | 外面自然釉付着。_ |
| 3  | 須恵器 甕  | -  | -     | -     | ABDF | 灰色  | В  | 胴下部片   | P5出土。南比企産。  |           |
| 4  | 縄文土器深鉢 | -  | (2.7) | (9.8) | AIN  | 橙色  | В  | 底部45%  | P3出土。       |           |

#### 第12表 第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表

| 番号 器 | 種 | 口径 | 器高 | 底径 | 胎土      | 色 調 | 焼成 | 残存率  |       | 備    | 考 |  |
|------|---|----|----|----|---------|-----|----|------|-------|------|---|--|
| 1 須恵 |   |    | ** | -  | ABDGHIL | 灰色  | В  | 胴下部片 | P3出土。 | 末野産。 |   |  |

性のあるピット28まで2.10mで等間隔、南側はピット28からピット5まで0.70m、2 m、2 mを測る。西側柱列については、ピット28を含めるか否かによるが、含めれば柱筋が通るし、含めなければピット  $1\cdot 2$  が軸線からずれることになる。柱穴は径 $0.44\sim 1.02$  mとバラツキがみられるが、深さはピット28 以外0.40 m 前後を測る。覆土は図示できなかったが、いずれの柱穴からも柱痕は確認されなかった。

出土遺物は須恵器坏 (1)、甕 (2・3) があり、この他に流れ込みで縄文土器深鉢 (4) がある。 1はピット1、2はピット4、3はピット5、4はピット3からそれぞれ出土した。

須恵器はすべて南比企産である。1は底部のみ完存する。回転糸切り痕を残す。甕は2が肩部片、3は胴下部片である。ともにナデ調整による。2の外面には自然釉が付着していた。4は縄文土器深鉢の底部である。胎土が粗い。文様はみられない。

本建物跡の帰属する時期は、出土遺物や周辺に位置する住居跡と軸がほぼ一致することなどから集落跡とほぼ同時期であると考えて奈良・平安時代としておきたい。

## 第2号掘立柱建物跡(第24図)

第2区A・B-5・6グリッドに位置する。本建物跡も不揃いな感は否めないものの、ほぼ柱筋が通ることから掘立柱建物跡として報告する。他の遺構との重複関係はないが、東側には8号住居跡、南側には4号住居跡が隣接して位置している。

規模等は不明である。現状では1間×1間の建物であるが、調査区外にさらに延びる可能性もある。柱間はすべて2m程を測り、等間隔となっている。主軸方向は $N-10^\circ-E$ を指し、ほぼ東西南北に軸があっている。柱穴はピット $1\cdot 3\cdot 4$ が径0.60m前後であるが、ピット2のみ一回り小さく0.50m前後を測る。深さはすべて0.30m前後であり、大差はない。いずれの柱穴からも柱痕は確認されなかった。

出土遺物は須恵器甕(1)の胴下部片一点のみである。ピット3から出土した。末野産。

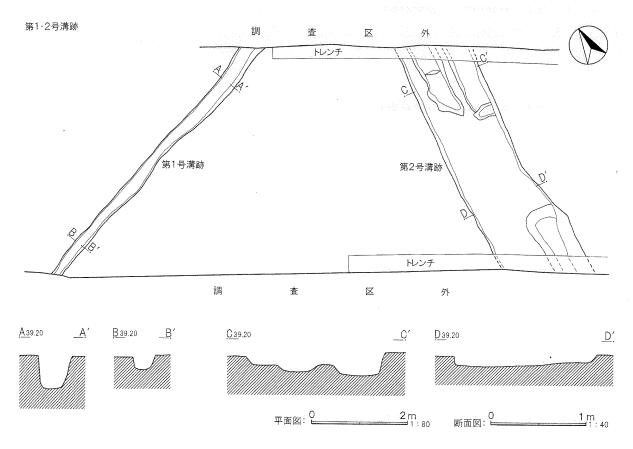
本建物跡の帰属する時期は、1号掘立柱建物跡と同じく出土遺物や周辺に位置する住居跡と軸がほぼ 一致することなどから集落跡とほぼ同時期と考えて奈良・平安時代としておきたい。

## 3 溝 跡

#### 第1号溝跡(第25図)

第3区〇・ $P-13\cdot 14$ グリッドに位置する。調査区外の〇-15グリッド付近でほぼ南北方向に走る 2号溝跡と重複する可能性があるが、両者の関係については不明である。

南西方向から北東方向に走る。両端はともに調査区外に延びているが、北東方向については第2区で



第25図 第1·2号溝跡

延長線上に溝跡が確認されていないことから、調査区外の範囲内で終息するものと思われる。検出された長さは6.30mを測る。幅は $0.20\sim0.42$ m、確認面からの深さは北東側で0.35m、南西側で0.14mを測り、南西側から北東側に向かって深くなる。断面形はほぼ逆台形状を呈する。覆土は図示できなかったが、ローム粒・ブロックを含む黒色土による単一層であり自然堆積と思われる。

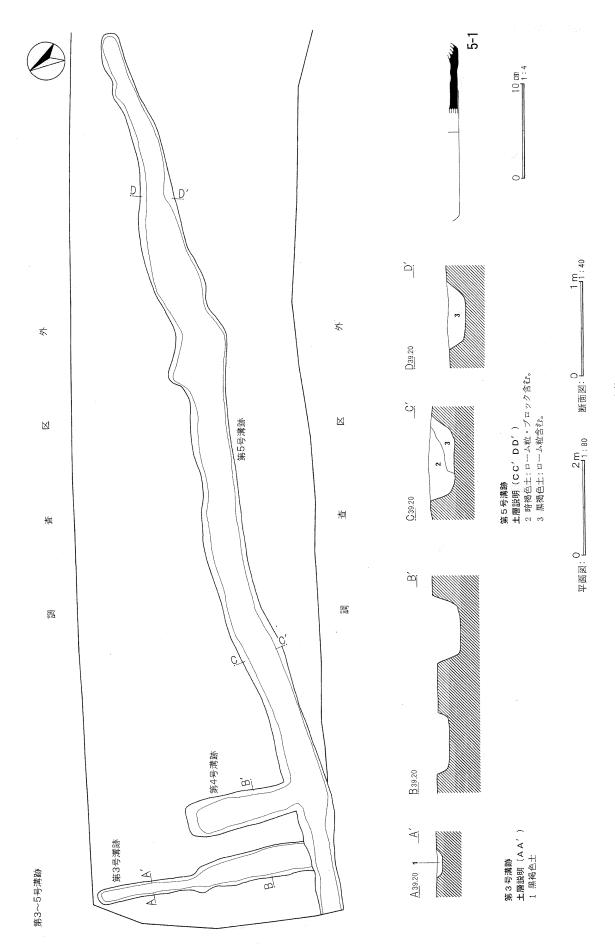
本溝跡からは遺物が検出されなかったため、帰属する時期は不明である。

### 第2号溝跡(第25図)

第 3 区 P ・ Q -15 グリッドに位置する。 1 号溝跡でも述べたが、両者は調査区外で重複する可能性があるが、関係については不明である。

ほぼ南北方向に走る。南北ともに調査区外に延びているが、北側については第2区で延長線上に溝跡が確認されていないことから、調査区外の範囲内で終息するものと思われる。検出された長さは5.36mを測る。幅は1.44~1.78m、深さは断面形が幅広の逆台形状を呈する中央付近では0.12m程であるが、北側の調査区境付近では底面がさらに二条の溝跡となっており、最も深い東側で0.23mを測る。また、南側でも調査区境付近で底面東側が溝状になっており、最も深い箇所で0.15mを測る。覆土は図示できなかったが、ロームブロックを含む暗褐色土や黒褐色土が堆積しており、レンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

本溝跡も遺物が検出されなかったため、帰属する時期は不明である。



第26図 第3~5号溝跡・出土遺物

### 第3号溝跡(第26図)

第4区G・H-1グリッドに位置する。南東部には4号溝跡が隣接して併走しており、ともに南側で5号溝跡に接続している。新旧関係は不明である。

北東方向から南西方向に走る。検出された長さは4.56mである。幅は北東部が0.30m前後を測り、検出された長さのちょうど半分あたりから5号溝跡に接続する箇所までは0.60m前後とやや幅広になる。確認面からの深さは北東部で0.06m、南西部で0.13mを測る。断面形は横長の逆台形状を呈する。覆土は黒褐色土一層(1層)のみである。混入物はみられない。自然堆積と思われる。

本溝跡からも遺物が検出されなかったため、帰属する時期は不明である。

## 第4号溝跡(第26図)

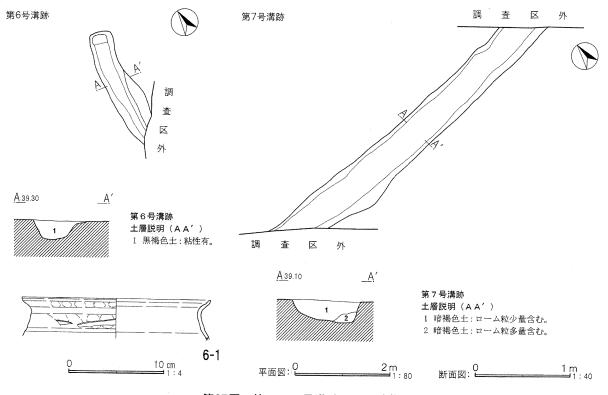
第4区H-1グリッドに位置する。北西部には3号溝跡が隣接して併走しており、ともに南側で5号溝跡に接続している。新旧関係は不明である。

3号溝跡同様、北東方向から南西方向に走る。検出された長さは2.24mと短く、土坑状を呈する。幅は $0.70\sim0.80$ mである。確認面からの深さは0.27mを測る。断面形も 3 号溝跡と同じく横長の逆台形状を呈する。覆土は図示できなかったが、ローム粒・ブロックを含む黒褐色土一層であり、自然堆積と思われる。

本溝跡も遺物が検出されなかったため、帰属する時期は不明である。

### 第5号溝跡(第26図)

第4区H・I-1~4グリッドに位置する。H-1グリッドで3・4号溝跡と接続している。新旧関



第27図 第6・7号溝跡・出土遺物

### 第13表 第5号溝跡出土遺物観察表

| 番号 器 種  | 口径 | 器高    | 底径 胎 土       | 色 調 | 焼成 | 残存率   | 備考             |
|---------|----|-------|--------------|-----|----|-------|----------------|
| 1 須恵器 甕 | -  | (1.1) | (17.2) ABDHL | 灰黄色 | С  | 底部25% | 末野産。底部手持ちヘラ削り。 |

### 第14表 第6号溝跡出土遺物観察表

| 番号 器 種 | 口径       | 器高    | 底径 | 胎土      | 色    | 調    | 焼成 | 残存率    | 備考   |
|--------|----------|-------|----|---------|------|------|----|--------|--|
| 1 上師器  | 題 (20.0) | (4.2) | =  | ABCHJKM | 外:褐灰 | 内:赤褐 | В  | 口縁部20% | A CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR |

係は不明である。西側は調査区外に延びている。

北西方向から南東方向にやや蛇行して走っており、I-4グリッドで途切れる。検出された長さは  $19.4 \mathrm{m}$ である。幅は $0.42 \sim 1.10 \mathrm{m}$ とバラツキがあるが、 $0.70 \mathrm{m}$ 前後が主体となる。確認面からの深さは 北西部で $0.27 \mathrm{m}$ 、南東部で $0.19 \mathrm{m}$ を測る。断面形はほぼ逆台形状を呈する。覆土は西側では暗褐色土及 び黒褐色土の二層( $2\cdot3$  層)が確認されたが、東側では 3 層のみであった。ともにローム粒・ブロックを含んでいた。レンズ状に堆積していたことから、自然堆積と思われる。

図示可能な遺物は須恵器甕の底部(1)のみである。末野産。底面調整は手持ちによるヘラ削りである。この他にも若干土器片が検出されたが、いずれも小破片であり図示不可能であった。

図示不可能な遺物も含めて出土した遺物は奈良・平安時代のものであるが、これらが伴うものかはっきりしない。よって、本溝跡の帰属する時期は不明である。

### 第6号溝跡(第27図)

第2区U・V-25グリッドに位置する。南側は調査区外にある。他の遺構との重複関係はみられない。 ほぼ南北方向に走るが、やや南東方向に屈曲している。検出された長さは2.42mと短い。本溝跡南側 の延長線上となるW-25グリッドでは確認されていないことから、土坑になる可能性もある。幅は北端 で0.46m、調査区境付近の最も幅広となる箇所で0.66mを測る。確認面からの深さは0.20mである。断 面形はほぼ逆台形状を呈する。覆土は黒褐色土一層(1 層)のみである。混入物はみられず、粘性があった。自然堆積と思われる。

図示可能な遺物は土師器甕の口縁部(1)のみである。「コ」の字状を呈し、外面には指頭圧痕やへ ラによる刻みがみられた。この他にも若干土器片が検出されたが、いずれも小破片であり図示不可能で あった。

図示不可能な遺物も含めて出土した遺物は奈良・平安時代のものであるが、これらが伴うものかはっきりしない。よって、本溝跡の帰属する時期は不明である。

### 第7号溝跡(第27図)

第 $2 extbf{K} - 20 \cdot 21$  グリッドに位置する。本溝跡の南側にはピットが多数分布しており、関連する可能性がある。

ほぼ東西方向に走る。東西ともに調査区外に延びているが、西側については第4区で延長線上に溝跡が確認されていないことから、調査区外の範囲内で終息するものと思われる。検出された長さは6.32mである。幅は $0.72\sim1$  mを測るが、0.80m前後が主体となる。確認面からの深さは0.23m程である。断面形は逆台形ないし舟底状を呈する。覆土はローム粒を含む暗褐色土二層( $1\cdot2$  層)からなる。レン

ズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。

本溝跡からは遺物が検出されなかったため、帰属する時期は不明である。

## 4 十 坑

土坑は全区を通して16基(第28~30図)検出された。 1 区からは 2 基( $11\cdot12$ 号土)、 2 区からは 10 基( $1\sim10$ 号土)、 3 区からは 4 基( $13\sim16$ 号土)が検出され、 4 区からは検出されていない。各土坑の規模・平面プラン等については、一覧表(第15表)を参照のこと。

#### 第1号土坑(第28図)

第2区〇・P-26グリッドに位置する。6号住居跡の東側に位置しているが、両者の新旧関係は不明である。北側一部のみの検出であり、大半が調査区外にある。

規模は不明であるが、調査区境で検出できた幅は0.89mを測る。平面プランは円形であろうか。立ち上がりは鋭角であり、底面は西側にやや下っている。確認面からの深さは僅か0.07mしかないが、調査区境での土層断面では最大0.40mの掘り込みであったことが確認された。覆土は全層に焼土粒を含み、最下層(12層)では多量含まれていた。ややランダムな層位であり、自然堆積か人為的な埋め戻しかは不明である。

出土遺物(第31図)は、須恵器甕( $1 \sim 3$ )がある。この他にも若干土器片が検出されたが、図示可能なものは三点のみである。いずれも胴下部片である。末野産。 $1 \ge 2$ は同一個体である。

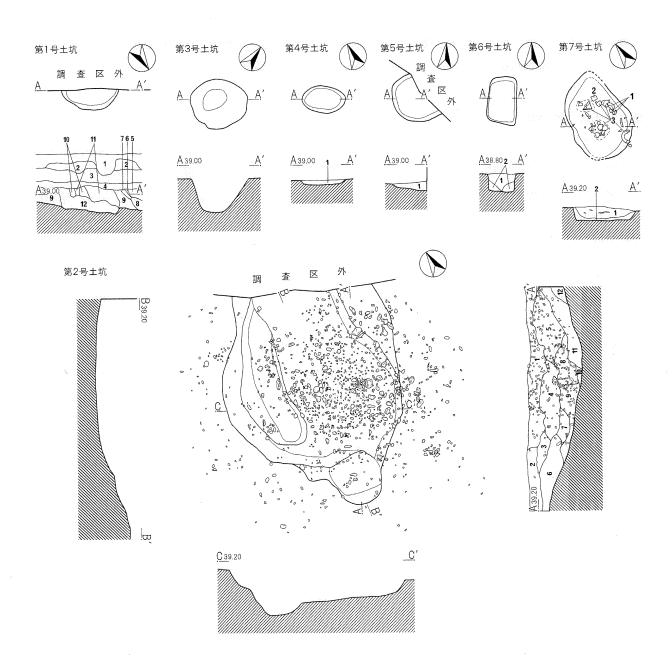
これらの遺物から本土坑の帰属する時期は、奈良・平安時代と思われる。

#### 第2号土坑 (第28図)

第2区G・H-15グリッドに位置する。北側は調査区外にある。他の遺構との重複関係はみられない。 長軸は不明であるが、検出できた南北幅は3.58mを測る。短軸は2.78mである。平面プランはいびつ な楕円形を呈すると思われる。立ち上がりはなだらかであり、底面は舟底状を呈するものの、西側では さらに一段低くなっており、溝状になっていた。確認面からの深さは最も深い西側溝状部分で0.68mを 測る。覆土のほぼ全層に3~18cm大の礫を含み、また砂を含む層もみられた。これらの様相から人為的

#### 第15表 土坑一覧表

| 土坑No. | 挿図No. | 位置            | 平面形   | 長(m)   | 短(m)   | 深(m) | 時期     | 覆土   | 出土遺物         | 備考        |
|-------|-------|---------------|-------|--------|--------|------|--------|------|--------------|-----------|
| 1号土   | 第28図  | 第2区O•P-26G    | 円形?   | (0.    | 89)    | 0.40 | 奈良・平安  | 不明   | 須恵器          |           |
| 2号土   | 第28図  | 第2区G·H-15G    | 楕円形?  | (3.58) | 2.78   | 0.68 | 不明     | 埋め戻し |              | 覆土礫含。     |
| 3号土   | 第28図  | 第2区F-12G      | 円形    | 0.90   | 0.81   | 0.53 | 奈良・平安  | 不明   | 須恵器 (図示不可能)  | 1号掘立と関連有? |
| 4号土   | 第28図  | 第2区E-11·12G   | 楕円形   | 0.68   | 0.43   | 0.06 | 奈良・平安  | 不明   | - 1000       | 1号掘立と関連有? |
| 5号土   | 第28図  | 第2区E-11·12G   | 円形?   | (0.3   | 83)    | 0.13 | 奈良・平安  | 不明   | 須恵器          | 1号掘立と関連有? |
| 6号土   | 第28図  | 第2区E-11G      | 長方形   | 0.77   | 0.47   | 0.30 | 奈良・平安  | 不明   | -            | 1号掘立と関連有? |
| 7号土   | 第28図  | 第2区R-28G      | 不整楕円形 | 1.44   | 0.98   | 0.23 | 8世紀中頃  | 自然堆積 | 須恵器、土師器      |           |
| 8号土   | 第29図  | 第2区S·T-27G    | 楕円形?  | 2.77   | (1.00) | 0.96 | 不明     | 埋め戻し | 須恵器(流れ込み?)   | 覆土礫含。     |
| 9号土   | 第29図  | 第2区S·T-25·26G | 長方形?  | (3.14) | 1.52   | 0.24 | 近世     | 埋め戻し | 陶磁器、鉄·銅製品、石器 | 廃棄遺構      |
| 10号土  | 第29図  | 第2区T-25·26G   | 長方形?  | (2.72) | 2.38   | 0.25 | 近世     | 埋め戻し | 陶磁器、銅製品、古銭   | 廃棄遺構      |
| 11号土  | 第29図  | 第1区Z-29G      | 円形?   | (1.    | 26)    | 0.05 | 不明     | 埋め戻し | -            | 覆土礫含。     |
| 12号土  | 第29図  | 第1区Y-29G      | 長方形?  | (1.52) | (1.24) | 0.42 | 不明     | 埋め戻し | <u>.</u>     | 覆土礫含。     |
| 13号土  | 第30図  | 第3区S-20G      | 円形    | 0.0    | 33     | 0.55 | 10世紀前半 | 不明   | 須恵器、土師器      |           |
| 14号土  | 第30図  | 第3区S-20G      | 三角形   | 1.13   | 0.78   | 0.18 | 10世紀前半 | 不明   | 土師器          |           |
| 15号土  | 第30図  | 第3区R-18G      | 楕円形   | 2.30   | 1.03   | 0.50 | 不明     | 埋め戻し | -            | 覆土礫含。     |
| 16号土  | 第30図  | 第3区R-16·17G   | 楕円形?  | (1.38) | -      | 0.42 | 不明     | 埋め戻し | <u> </u>     | 覆土礫含。     |



#### 第1号土坑

## 土層説明(A A′)

- 1表土
- 2 暗褐色土:砂質。
- 3 暗褐色土
- 4 褐色土
- 5 黒褐色土:ローム粒含む。
- 6褐色土
- 7 黒褐色土:焼土粒含む。
- 8 黒褐色土:ローム粒多量含む。
- 9 暗褐色土:ローム粒含む。
- 10 暗褐色土:焼土粒少量含む。
- 11 黒褐色土:焼土粒、ローム粒少量含む。
- 12 褐 色 土:焼土粒多量含む。

#### 第2号土坑

### 土層説明(AA')

- 1 黒褐色土:砂、礫多量含む。
- 2 暗褐色土:礫少量含む。
- 3 暗褐色土: 礫少量含む。しまり有。
- 4 黄褐色土:礫多量含む。しまり有。
- 5 暗褐色土:砂、礫多量含む。
- 6 暗褐色土:しまり無。
- 7 褐色土:しまり無。
- 8 黒褐色土:砂、礫多量含む。
- 9 暗褐色土:砂、礫多量含む。
- 10 暗褐色土: 礫少量含む。
- 11 黒褐色土: 礫少量含む。
- 12 黄褐色土:黒褐色土含む。

## 第4号土坑

#### 土層説明(AA′)

1 黒褐色土:焼土粒、ロームブロック含む。

#### 第5号土坑

#### 土層説明(AA′)

1 黒褐色土:焼土粒含む。

## 第6号土坑

### 土層説明(AA')

- 1 暗褐色土:焼土粒含む。
- 2 黒褐色土:焼土粒含む。

### 第7号土坑

#### 土層説明(AA′)

- 1 黒褐色土:焼土粒多量含む。
- 2 暗褐色土

0 2 m 1:60

第28図 第1~7号土坑

に埋め戻されたと思われる。なお、礫は土坑外にも広がっていた。本遺構の性格及び用途は不明である。 本土坑からは遺物が検出されなかったため、帰属する時期は不明である。

### 第3号土坑(第28図)

第2区F-12グリッドに位置する。他の遺構との重複関係はみられないが、本土坑東側には1号掘立 柱建物跡、また周辺には他の土坑やピットが位置しており、これらの遺構と関連する可能性がある。

長軸0.90m、短軸0.81mの円形を呈する。立ち上がりは鋭角であり、底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは最大0.53mを測る。覆土は図示できなかったが、上層にローム粒を含む暗褐色土、下層には焼土粒とローム粒を含む黒褐色土が堆積していた。自然堆積か人為的な埋め戻しかは不明である。

遺物は須恵器の破片が少量検出されたが、図示不可能であった。

本土坑の帰属する時期は、出土遺物及び周辺の遺構との関係からみて奈良・平安時代と思われる。

### 第4号土坑 (第28図)

第2区 $E-11\cdot 12$ グリッドに位置する。3 号土坑同様、本土坑東側に1 号掘立柱建物跡、周辺には他の土坑やピットが位置しており、これらの遺構と関連する可能性がある。

長軸0.68m、短軸0.43mの楕円形を呈する。立ち上がりはなだらかであり、底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは0.06mと浅い。覆土は焼土粒とロームブロックを含む黒褐色土一層(1層)のみである。自然堆積か人為的な埋め戻しかは不明である。

本土坑からは遺物が検出されなかったが、周辺の遺構との関係からみて帰属時期は奈良・平安時代と 思われる。

#### 第5号土坑 (第28図)

第2区 $E-11 \cdot 12$ グリッドに位置する。北東部は調査区外にある。本土坑も東側に1 号掘立柱建物跡、周辺には他の土坑やピットが位置しており、これらの遺構と関連する可能性がある。

規模は不明であるが、調査区境で検出できた幅は0.83mを測る。平面プランは円形であろうか。立ち上がりはなだらかであり、底面は土坑底面中央と思われる調査区境付近が窪んでいることから、やや擂鉢状を呈すると思われる。確認面からの深さは最大0.13mを測る。覆土は焼土粒を含む黒褐色土一層(1層)である。自然堆積か人為的な埋め戻しかは不明である。

出土遺物(第31図)は、須恵器甕の胴部片(1)一点のみである。末野産。ナデ調整による。 本土坑の帰属する時期は、出土遺物及び周辺の遺構との関係からみて奈良・平安時代と思われる。

#### 第6号土坑(第28図)

第2区E-11グリッドに位置する。本土坑も東側に1 号掘立柱建物跡、周辺には他の土坑やピットが位置しており、これらの遺構と関連する可能性がある。

長軸0.77m、短軸0.47mの長方形を呈する。立ち上がりはほぼ垂直であり、底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは0.30mを測る。覆土は色調の異なる二層( $1\cdot 2$  層)が確認されたが、ともに焼土

粒を含んでいた。自然堆積か入為的な埋め戻しかは不明である。

本土坑も遺物は検出されなかったが、周辺の遺構との関係からみて帰属時期は奈良・平安時代と思われる。

## 第7号土坑 (第28図)

第2区R-28グリッドに位置する。他の遺構との重複関係はみられない。

長軸1.44m、短軸0.98mの不整楕円形を呈する。立ち上がりはほぼ垂直ないし鋭角であり、底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは0.23mを測る。覆土はレンズ状に堆積していたことから自然堆積と思われる。1層からは多量の焼土粒の他に土器がまとまって検出された。

出土遺物(第31図)は、須恵器坏(1)、甕(2)、土師器甕(3・4)がある。1は南比企産。底部は回転糸切り後外周をヘラで削っている。2は胴上部片。末野産。外面は叩き目、内面には青海波文がみられた。3は底部を欠くが、残存状態は良好である。口縁部は「く」の字状を呈し、外面には指頭圧痕がみられた。4は底部。3とは同一個体でない。

これらの遺物から本土坑の帰属する時期は、8世紀中頃を中心した時期と思われる。

### 第8号土坑 (第29図)

第2区S・T-27グリッドに位置する。東側は調査区外にある。他の遺構との重複関係はみられない。長軸2.77m、短軸は不明であるが、検出できた東西幅は $1\,\mathrm{m}$ を測る。平面プランは楕円形を呈すると思われる。立ち上がりは鋭角であり、底面は北側が南側に比べて若干低くなっている。確認面からの深さは北側の最も深い部分で $0.96\mathrm{m}$ を測る。覆土は上層から中層にかけて $2\sim10\mathrm{cm}$ 大の礫を含んでおり、砂を含む層もみられた。ほぼレンズ状に堆積していたが、礫を含む状況から上 $\sim$ 中層は一部人為的に埋め戻されたと思われる。

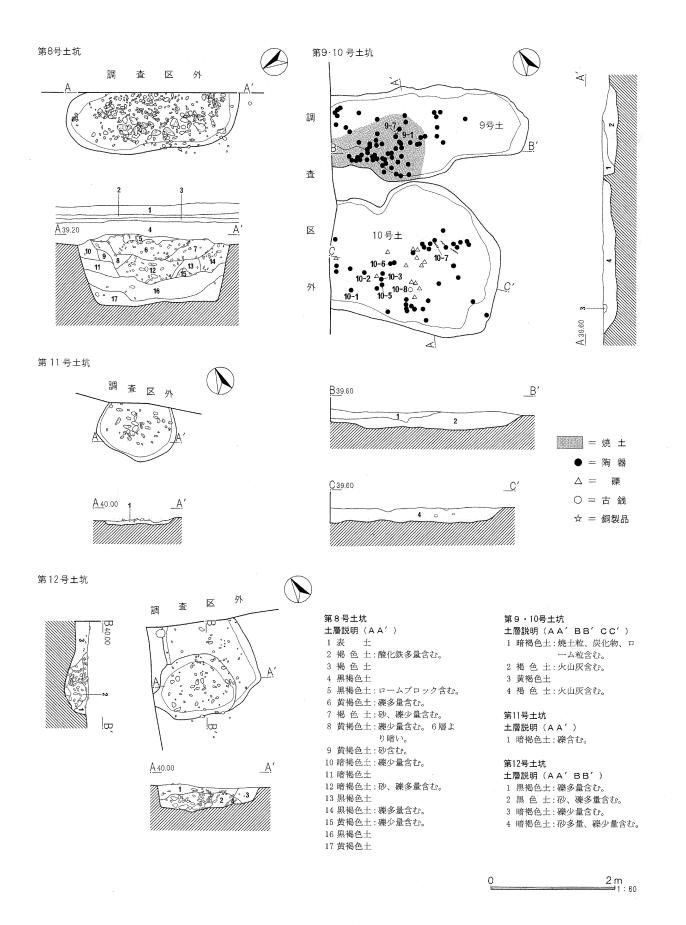
図示可能な遺物(第31図)は須恵器高台付椀(1)のみである。末野産。高台部を欠く。口縁部は外反するがやや弱い。この他にも若干土器片が検出されたが、いずれも小破片であり図示不可能であった。図示不可能な遺物も含めて出土した遺物は奈良・平安時代のものであるが、これらが伴うものかははっきりしない。よって、本土坑の帰属する時期は不明である。

#### 第9号土坑(第29図)

第  $2 \times S \cdot T - 25 \cdot 26$  グリッドに位置する。本土坑の南側には隣接して10号土坑が位置しているが、重複関係はみられない。西端は調査区外にある。

長軸は不明であるが、検出できた東西幅は3.14mを測る。短軸は1.52mである。平面プランはやや丸味を帯びた長方形になろうか。立ち上がりはなだらかであり、底面はやや凹凸がみられたが、ほぼ平坦であった。確認面からの深さは最大0.24mである。覆土は一部レンズ状に堆積していたが、人為的に埋め戻されたと思われる。1層には焼土粒や炭化物、ローム粒、2層には火山灰が含まれていた。また、底面南西部では遺物に混じって焼土がまとまって検出された。

出土遺物 (第31図) は、磁器碗 (1~3)、陶器小皿 (4)、碗 (5)、鉄釘 (6)、不明銅製品 (7)



第29図 第8~12号土坑

があり、この他に流れ込みで縄文時代の打製石斧(8)も検出された。概して遺物は南西部からの検出が多いが、陶磁器は小破片が多く、図示できたのは五点のみである。

磁器碗( $1\sim3$ )はすべて肥前系の染付である。破片であるため文様は定かではないが、1は草文、2は草花文であろうか。3は斜格子文である。陶器小皿(4)・碗(5)は瀬戸・美濃系である。4は鉄釉、5は灰釉がかかっている。6は鉄釘の先端部分である。7は不明銅製品としたが、とぐろを巻いており、針金状を呈している。両先端の断面形は平らである。流れ込みである8は、縄文時代の打製石斧。短冊形を呈する。片面には自然面を残す。完形品。石質は凝灰岩である。

これらの遺物から本土坑の帰属する時期は近世であり、遺物の出土状況から廃棄遺構と思われる。

### 第10号土坑 (第29図)

第2区 $T-25 \cdot 26$ グリッドに位置する。本土坑の北側には隣接して9号土坑が位置しているが、重複関係はみられない。9号土坑同様、西端は調査区外にある。

長軸は不明であるが、検出できた東西幅は2.72mを測る。短軸は2.38mである。平面プランはいびつな長方形であろうか。立ち上がりはなだらかであり、底面はやや凹凸がみられたが、ほぼ平坦であった。確認面からの深さは最大0.25mである。覆土は上層に黄褐色土(3 層)が若干みられた以外は褐色土(4 層)ほぼ一層である。9 号土坑同様、人為的な埋め戻しと思われる。4 層には火山灰が含まれていた。

出土遺物 (第31図) は、磁器碗  $(1 \sim 3)$ 、陶器碗  $(4 \cdot 6)$ 、鉢 (5)、煙管 (7)、古銭 (8) がある。遺物は北側を除くほぼ全面から検出された。 9 号土坑同様、陶磁器は小破片が多く、図示できたのは六点のみである。また、自然石も遺物に混じって数点検出された。

磁器碗( $1\sim3$ )は肥前系の染付である。破片であるため文様は定かではないが、 $1\cdot2$ は草花文であろうか。陶器碗( $4\cdot6$ )・鉢(5)は瀬戸・美濃系である。4は内面に鉄釉、外面に鉄釉及び透明釉、5は灰釉、6は鉄釉が施釉されている。7は銅製の煙管。吸口部がつぶれているが、完形品である。8は古銭。大半を欠くため銭名は不明であるが、厚さからみて寛永通宝であろう。

これらの遺物から本土坑の帰属する時期は近世であり、9号土坑と同じく廃棄遺構と思われる。

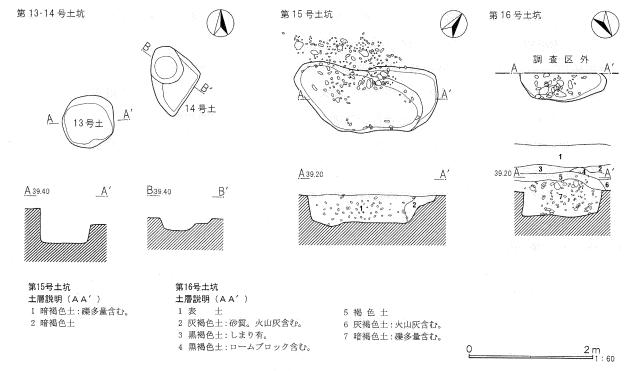
## 第11号土坑(第29図)

第1区Z-29グリッドに位置する。北側は調査区外にある。他の遺構との重複関係はみられない。 正確な規模は不明であるが、東西幅は1.26mを測る。平面プランは円形になろうか。立ち上がりはな だらかである。底面はやや凹凸がみられたが、ほぼ平坦であった。確認面からの深さは0.05mと浅い。 覆土は暗褐色土一層(1層)のみであり、上面に礫を含んでいた。礫の大きさは2~10cm程である。そ の状況から人為的に埋め戻されたと思われる。

本土坑からは遺物が検出されなかったため、帰属する時期は不明である。

## 第12号土坑 (第29図)

第1区Y-29グリッドに位置する。西側立ち上がりのごく一部と北側は調査区外にある。他の遺構と



第30図 第13~16号土坑

#### の重複関係はみられない。

規模は不明であるが、検出できた南北幅は1.52m、東西幅は1.24mである。平面プランはいびつな長方形になろうか。立ち上がりは鋭角であり、底面は南西部が土坑状を呈する以外はほぼ平坦であった。確認面からの深さは土坑状を呈する最も深い所で0.42mを測る。覆土は土坑状を呈する箇所を中心に $1 \sim 14$ cm程の礫が多量含まれており、下層の $2 \cdot 4$ 層では砂もみられた。その状況から人為的に埋め戻されたと思われる。

本土坑からは遺物が検出されなかったため、帰属する時期は不明である。

### 第13号土坑 (第30図)

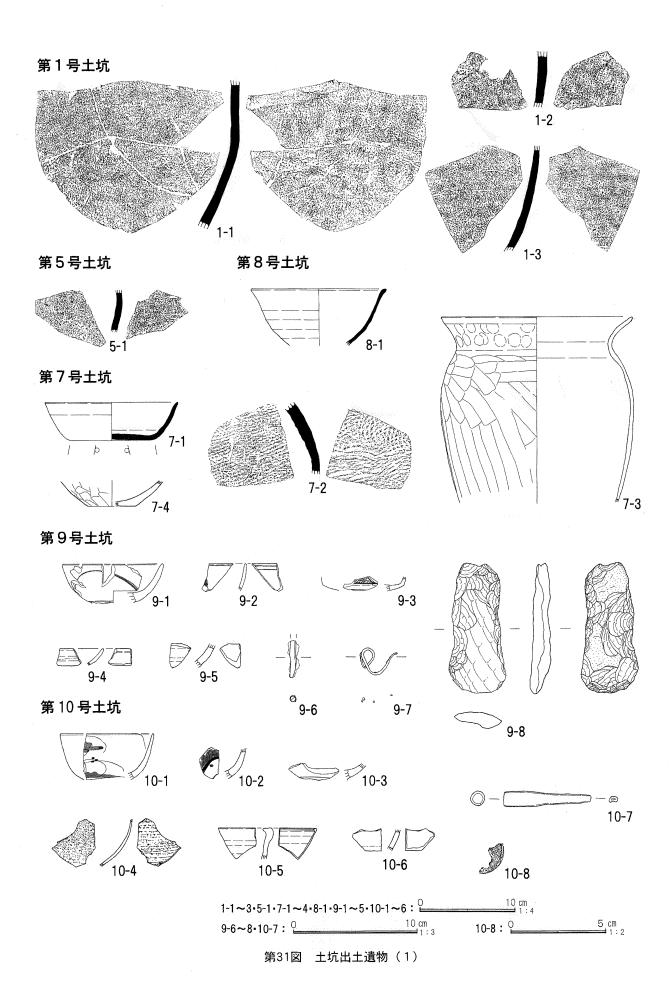
第3区S-20グリッドに位置する。北東部には隣接して14号土坑が位置しているが、関連があるかは不明である。他の遺構との重複関係はみられない。

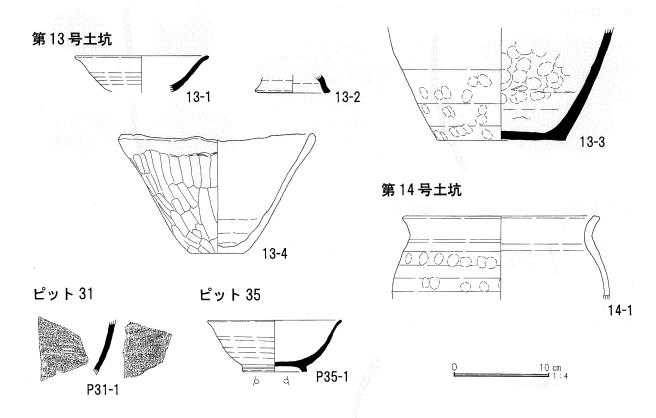
径0.83m、確認面からの深さは0.55mを測る。平面プランは円形を呈する。立ち上がりはほば垂直であり、底面は平坦であった。覆土は図示できなかったが、焼土粒や炭化物を含む黒褐色土一層であった。自然堆積か人為的な埋め戻しかは不明である。

出土遺物(第32図)は、須恵器高台付椀( $1 \cdot 2$ )、甕(3)、土師器鉢(4)がある。これらは底面 近くからまとまって検出された。

須恵器高台付椀(1・2)は酸化焔焼成によるものであり、焼きが甘い。ともに末野産である。胎土 観察から同一個体ではない。甕(3)は胴下部から底部にかけてのみ検出されたが、残存状態は良好で ある。末野産。内外面にナデ調整後の指頭圧痕がみられた。底面の調整は手持ちによるヘラ削りである。 土師器鉢(4)は口縁部が未調整に近く、いびつで波打っている。焼きは良好で、器壁が厚い。

これらの遺物から本土坑の帰属する時期は、10世紀前半頃と思われる。





第32図 土坑 (2)・ピット出土遺物

## 第16表 土坑出土遺物観察表

|      |       |        |        |          |       |            |              | ,           | ,       |                    |
|------|-------|--------|--------|----------|-------|------------|--------------|-------------|---------|--------------------|
| 番号   | 出土遺構  | 器種     | 口径     | 器高       | 底径    | 胎土         | 色 調          | 焼成          | 残存率     | 備考                 |
| 1-1  | 1号土坑  | 須恵器 甕  |        |          | -     | ABHG       | にぶい黄橙色       | В.,         | 胴下部片    | 末野産。1号土No.2と同一個体。  |
| 1-2  | 1号土坑  | 須恵器 甕  | 8.74   | .x = =   | -     | ABGHJL     | 灰黄色          | В           | 胴下部片    | 末野産。1号土No.1と同一個体。  |
| 1-3  | 1号土坑  | 須恵器 甕  | =      | <u>-</u> | -     | ABGL       | 灰白色          | В           | 胴下部片    | 末野産。               |
| 5-1  | 5号土坑  | 須恵器 甕  | =      | -        | - :   | AB         | 青灰色          | В           | 胴部片     | 末野産。               |
| 7-1  | 7号土坑  | 須恵器 坏  | 14.0   | 4.0      | 8.9   | ABFHI      | にぶい黄橙色       | В           | 85%     | 南比企産。              |
| 7-2  | 7号土坑  | 須恵器 甕  |        | -        | -     | ABL        | 灰色           | В           | 胴上部片    | 末野産。               |
| 7-3  | 7号土坑  | 土師器 甕  | 20.0   | (19.8)   | -     | ABEHJK     | 橙色           | В           | 口~胴80%  |                    |
| 7-4  | 7号土坑  | 土師器 甕  | -      | (2,7)    | (5.0) | ABDGJKM    | にぶい褐色        | В           | 底部30%   |                    |
| 8-1  | 8号土坑  | 須恵器高台椀 | (14.4) | (6.0)    |       | AB         | 灰白色          | В           | 口~体15%  | 末野産。               |
| 9-1  | 9号土坑  | 磁器 碗   | (10.6) | (4.2)    | -     | -          | 灰白色          | -           | 口~体25%  | 肥前系。               |
| 9-2  | 9号土坑  | 磁器 碗   | -      | -        | -     | -          | 灰白色          | -           | 口縁部片    | 肥前系。               |
| 9-3  | 9号土坑  | 磁器 碗   | -      | (1.6)    | -     | _          | 灰白色          | -           | 体部10%   | 肥前系。               |
| 9-4  | 9号土坑  | 陶器 小皿  | -      | -        | -     | -          | 灰赤色          | -           | 口縁部片    | 瀬戸·美濃系。内外面鉄釉。      |
| 9-5  | 9号土坑  | 陶器 碗   | -      | -        | -     | -          | 灰オリーブ色       | -           | 体部片     | 瀬戸·美濃系。内外面灰釉。      |
| 9-6  | 9号土坑  | 鉄 釘    | 最大長    | (2.9)cm  | 、最大中  | 幅0.4cm、最大  | :厚0.45cm。重量  | 量(1.6)      | )g。先端のみ | bo                 |
| 9-7  | 9号土坑  | 不明銅製品  | 推定長    | (8.4)cm  | 、最大征  | 径0.25cm。重: | 量0.8g。完形?    | 針金:         | 伏。両先端平  | <sup>2</sup> 6.    |
| 9-8  | 9号土坑  | 打製石斧   | 最大長    | :10.3cm  | 、最大中  | 幅4.4cm、最大  | 厚1.5cm。重量    | 78.4g       | g。凝灰岩。  | <b>完形。</b>         |
| 10-1 | 10号土坑 | 磁器 碗   | (9.8)  | (4.9)    | -     | -          | 灰白色          | -           | 口~体25%  | 肥前系。               |
| 10-2 | 10号土坑 | 磁器 碗   | -      | -        | -     | -          | 灰白色          | -           | 体部片     | 肥前系。               |
| 10-3 | 10号土坑 | 磁器 碗   | -      | -        |       | -          | 灰白色          | -           | 体部片     | 肥前系。               |
| 10-4 | 10号土坑 | 陶器 碗   | -      | -        | -     |            | 淡黄色          | -           | 体部片     | 瀬戸・美濃系。内鉄釉、外鉄・透明釉。 |
| 10-5 | 10号土坑 | 陶器 鉢   | dia.   | -        | -     | -          | 灰オリーブ色       | -           | 口縁部片    | 瀬戸・美濃系。内外面灰釉。      |
| 10-6 | 10号土坑 | 陶器 碗   |        | -        | -     | 4137       | 暗褐色          | -           | 体部片     | 瀬戸·美濃系。内外面鉄釉。      |
| 10-7 | 10号土坑 | 煙管     | 最大長    | 6.9cm    | 最大径   | 1.2cm。重量1  | 1.0g。銅製。5    | <b></b> 完形。 | 吸口部狭窄。  |                    |
| 10-8 | 10号土坑 | 古 銭    | 推定径    | (1.2)cm  | 、最大厚  | 10.05cm。重量 | t(0.4)g。1/3残 | 存。          | 「寛永通宝?  | 1                  |
| 13-1 | 13号土坑 | 須恵器高台椀 | (14.0) | (3.8)    |       | ABDH       | にぶい黄橙色       | , C         | 口~体25%  | 末野産。酸化焔焼成。         |
| 13-2 | 13号土坑 | 須恵器高台椀 | =      | (1.9)    | 7.9   | ABEIJKM    | 浅黄橙色         | С           | 高台部100  | 末野産。酸化焔焼成。         |
| 13-3 | 13号土坑 | 須恵器 甕  | 461    | (12.0)   | 13.4  | ABGHL      | 灰褐色          | В           | 胴~底100  | 末野産。底部手持ちへラ削り。     |
| 13-4 | 13号土坑 | 土師器 鉢  | (20.6) | 12.7     | 5.5   | ABJK       | 明黄褐色         | В           | 45%     |                    |
| 14-1 | 14号土坑 | 土師器 甕  | (20.6) | (8.9)    | -     | ABDJM      | 浅黄橙色         | В           | 口~胴30%  |                    |

### 第14号土坑 (第30図)

第3区S-20グリッドに位置する。南西部には隣接して13号土坑が位置しているが、関連があるかは不明である。他の遺構との重複関係はみられない。

長軸1.13m、短軸0.78mを測り、平面プランは隅丸の三角形状を呈する。立ち上がりは鋭角であり、底面は北西部がピット状を呈している。確認面からの深さは最も深いピット状を呈する所で0.18mを測る。覆土は図示できなかったが、焼土粒や炭化物を含む黒褐色土一層であった。自然堆積か人為的な埋め戻しかは不明である。

出土遺物(第32図)で図示可能なものは、土師器甕(1)一点のみである。覆土上層から検出された。 口縁部から胴上部にかけての破片である。口縁部は短く、「く」の字状を呈する。調整は口縁部が横ナ デ、胴部以下はナデ調整であり、胴部外面には指頭圧痕がみられた。器壁が厚く、焼きが甘い。

上記の遺物から本土坑の帰属する時期は、13号土坑と同じく10世紀前半頃と思われる。

### 第15号土坑(第30図)

第3区R-18グリッドに位置する。他の遺構との重複関係はみられない。

長軸2.30m、短軸1.03mを測る。平面プランはいびつな楕円形を呈する。立ち上がりは鋭角であり、底面はやや凹凸がみられたが、ほぼ平坦であった。確認面からの深さは最大0.50mである。覆土は暗褐色土二層( $1 \cdot 2$  層)からなる。1 層には $1 \sim 17$ cm程の礫が含まれており、礫は土坑外西側にも広がっていた。その状況から人為的に埋め戻されたと思われる。

本土坑からは遺物が検出されなかったため、帰属する時期は不明である。

#### 第16号土坑 (第30図)

第3区 $R-16\cdot 17$ グリッドに位置する。南側は調査区外にある。他の遺構との重複関係はみられない。

正確な規模は不明であるが、東西幅は1.38mを測る。平面プランは楕円形になろうか。立ち上がりはほぼ垂直であり、東側はややオーバーハングしていた。底面はやや凹凸がみられたが、ほぼ平坦であった。確認面からの深さは最大0.42mである。覆土は暗褐色土一層(7層)である。1~18cm程の礫が多量含まれていた。その状況から人為的に埋め戻されたと思われる。

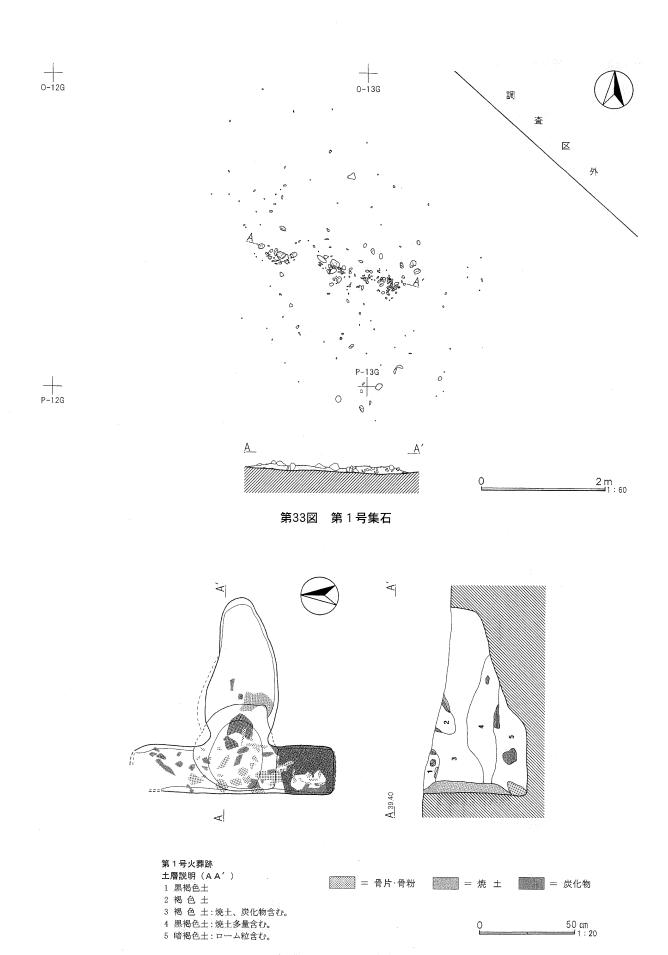
本土坑からは遺物が検出されなかったため、帰属する時期は不明である。

# 5 集 石

#### 第1号集石(第33図)

第3区O・P-12・13グリッドに位置する。他の遺構との重複関係はみられない。

掘り方はなく、確認面上面の暗褐色土内に広がっていた。礫はすべて河原石であり、自然石である。 礫は小さいものも含めると $5.7m \times 3.8m$ の楕円形を呈する範囲に広がる。ただ、この中でもより集中してみられたのは $O \cdot P - 12$ グリッドと $O \cdot P - 13$ グリッド境の中央付近である。北西方向から南東方向に長さ2.4m、幅 $0.2 \sim 0.4m$ 程で列状に広がっていた。集中箇所で確認された礫の大きさは $10 \sim 20$ cm



第34図 第1号火葬跡

のものが多くみられ、周辺のものより大きいものが目立つ。本遺構の性格及び用途は不明である。

遺物は土師器の小破片が若干検出されたが、図示不可能であった。また、これらが伴うものかどうか はっきりしない。よって、本遺構の帰属する時期は不明である。

## 6 火葬跡

## 第1号火葬跡(第34図)

第1区AA・AB-32グリッドに位置する。確認面の都合から北西隅を欠く。他の遺構との重複関係はみられない。

平面プランは凸形を呈する。燃焼部となる西側が南北方向に細長い長方形の土坑状となり、燃焼部の東壁中央から東に向かって煙道状の突出部が付く。燃焼部の規模は長軸が推定1.07m、短軸は0.25mである。突出部の長さは0.79m、幅は燃焼部と突出部の接合部で0.31m、最も幅広となる箇所で0.38m、先端で0.11mを測る。立ち上がりは燃焼部及び突出部ともにほぼ垂直であるが、突出部の北壁一部と接合部付近ではオーバーハングしていた。燃焼部は深さ0.25m程下でいったん平坦となるが、燃焼部と突出部との接合部にはさらに一段低いピット状の掘り込みが設けられていた。燃焼部底面からの深さは0.29mを測ることから確認面からの深さは0.54mとなり、本遺構で最も深い。突出部の深さはピット状掘り込みの上場で0.36m、先端で0.14mを測り、ピット状掘り込みから先端に向かって緩やかに上がる。覆土はほぼ水平な層位を示す。燃焼部内は焼土や炭化物を多く含んでおり、断面観察では西壁が厚さ7cm程で焼土化していたのが確認された。燃焼部南側底面では炭化物がほぼ全面にみられ、ピット状掘り込み上面からは骨片及び骨粉が検出された。棺座となる自然石は検出されなかった。

遺物は検出されなかったが、本火葬跡の帰属する時期は中世と思われる。

## 7 ピット

ピットは第1・2区から検出された。第3・4区からは検出されていない。全区を通して検出された数は54基である。第1区からは13基(P38~50)、第2区からは41基(P1~37、P51~54)が検出されている。第Ⅲ章でも述べたとおり、ピットは集中して分布する傾向にあるが、規則的に並ぶものはみられない。集中してみられるのは、第1区では $AA-31\cdot32$ グリッド(ピット38~50)、第2区では $E\cdot F-11\sim13$ グリッド(ピット27~31)、 $I\cdot J-17\cdot18$ グリッド(ピット17~26)、 $L-20\sim22$ グリッド(ピット8~16)などである。このうち、第2区のピット8~16は7号溝跡の南側に集中して位置することから溝跡に関連するものかもしれない。また、ピット27~31のうち、28~31は1号掘立柱建物跡の西側に位置することから周辺の土坑も含めて建物跡に関連する可能性がある。特にピット28は1号掘立柱建物跡の項でも述べたが、建物跡に付随するものかもしれない。これらのピットも含め各ピットの数値等については第18表を参照のこと。

出土遺物(第32図)で図示可能なものは、ピット31出土の須恵器瓶類(31-1)、ピット35出土の

## 第17表 ピット出土遺物観察表

| 番号   | 出土位置  | 器 種    | 口径     | 器高         | 底径  | 胎土     | 色 調  | 焼成 | 残存率  |      | 備考 |  |
|------|-------|--------|--------|------------|-----|--------|------|----|------|------|----|--|
| 31-1 | ピット31 | 須恵器瓶類  | -      | ga y Zivan | -   | ABHL   | 灰色   | В  | 胴下部片 | 末野産。 |    |  |
| 35-1 | ピット35 | 須恵器高台椀 | (14.0) | 5.5        | 6.7 | ABCGHL | 灰黄褐色 | В  | 80%  | 末野産。 |    |  |

第18表 ピット計測表

| No. | 位 置         | 長(m) | 短(m) | 深(m) | 備考          | No. | 位置           | 長(m) | 短(m) | 深(m) | 備考   |
|-----|-------------|------|------|------|-------------|-----|--------------|------|------|------|--|
| P1  | 第2区Q-28G    | 0.43 | 0.39 | 0.33 |             | P28 |              | 0.83 | 0.33 | 0.26 | 1号掘立に付随する可能性有。   |
| P2  | 第2区O-27G    | 0.30 | 0.21 | 0.12 |             | P29 |              | 0.53 | 0.37 | 0.22 | 1号掘立と関連有?  |
| Р3  | 第2区P-27G    | 0.52 | 0.42 | 0.20 |             | P30 | 第2区E-12G     | 0.45 | 0.24 | 0.13 | 1号掘立と関連有?  |
| P4  | 第2区O-25G    | 0.54 | 0.17 | 0.05 |             | P31 | 第2区E-11G     | -    | -    | 0.17 | 1号掘立と関連有?須恵器瓶類出土。  |
| P5  | 第2区O-25G    | 0.28 | 0.26 | 0.15 |             | P32 | 第2区R-28G     | 0.28 | -    | 0.25 |  |
| Р6  | 第2区N-25G    | 0.26 | 0.21 | 0.09 |             | P33 | 第2区R-27·28G  | 0.27 | 0.25 | 0.33 | A CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR |
| P7  | 第2区M-23G    | 0.52 | 0.30 | 0.20 |             | P34 | 第2区Q-27G     |      |      | 0.18 |  |
| P8  | 第2区L-22G    | 0.34 | 0.27 | 0.18 | 7号溝跡と関連有?   | P35 | 第2区T-26G     | 0.57 | 0.42 | 0.26 | 須恵器高台椀出土。  |
| P9  | 第2区L-22G    | 0.47 | 0.28 | 0.19 | 7号溝跡と関連有?   | P36 | 第2区T-26G     | 0.38 | 0.30 | 0.26 |  |
| P10 | 第2区L-22G    | 0.40 | 0.33 | 0.23 | 7号溝跡と関連有?   | P37 | 第2区T-26G     | 0.34 | 0.24 | 0.16 |  |
| P11 | 第2区L-21·22G | 0.35 | 0.29 | 0.21 | 7号溝跡と関連有?   | P38 | 第1区AA-32G    | 0.70 | 0.43 | 0.16 |  |
| P12 | 第2区L-21G    | 0.25 | 0.24 | 0.08 | 7号溝跡と関連有?   | P39 | 第1区AA-32G    | 0.26 | 0.24 | 0.12 |  |
| P13 | 第2区L-21G    |      |      | 0.25 | 7号溝跡と関連有?   | P40 | 第1区AA-32G    | 0.38 | 0.31 | 0.29 |  |
| P14 | 第2区L-21G    | 0.18 | 0.17 | 0.13 | 7号溝跡と関連有?   | P41 | 第1区AA-32G    | 0.43 | 0.29 | 0.15 |  |
| P15 | 第2区L-21G    | 0.20 | 0.17 | 0.21 | 7号溝跡と関連有?   | P42 | 第1区AA-32G    | 0.26 | 0.26 | 0.09 |  |
| P16 | 第2区L-20G    | 0.25 | 0.19 | 0.26 | 7号溝跡と関連有?   | P43 | 第1区AA-32G    | 0.31 | 0.26 | 0.09 |  |
| P17 | 第2区J-18G    | 0.48 | 0.30 | 0.09 |             | P44 | 第1区AA-32G    | 0.26 | 0.18 | 0.09 |  |
| P18 | 第2区I·J-18G  | 0.31 | 0.24 | 0.07 |             | P45 | 第1区AA-32G    | 0.36 | 0.32 | 0.16 |  |
| P19 | 第2区I·J-18G  | 0.51 | 0.40 | 0.11 |             | P46 | 第1区AA-31·32G | 0.39 | 0.28 | 0.15 |  |
| P20 | 第2区I-18G    | 0.36 | 0.36 | 0.14 |             | P47 | 第1区AA-31G    | 0.32 | 0.31 | 0.13 |  |
| P21 | 第2区I-18G    | 0.31 | 0.29 | 0.17 |             | P48 | 第1区AA-31G    | 0.29 | 0.26 | 0.15 |  |
| P22 | 第2区J-18G    | 0.50 | 0.45 | 0.44 |             | P49 | 第1区Z-30G     | 0.42 | 0.31 | 0.09 |  |
| P23 | 第2区J-17G    | 0.30 | 0.23 | 0.09 |             | P50 | 第1区Z-30G     | 0.57 | 0.41 | 0.11 |  |
| P24 | 第2区I-17G    | 0.42 | 0.31 | 0.44 |             |     | 第2区V-24G     | 0.25 | 0.24 | 0.24 |  |
| P25 | 第2区I-17G    | 0.31 | 0.20 | 0.18 | 2 100       | P52 | 第2区V-23G     | 0.31 | 0.23 | 0.18 | · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·  |
| P26 | 第2区J-17G    | 0.26 | 0.19 | 0.12 |             | P53 | 第2区U-22G     | 0.21 | 0.20 | 0.09 |  |
| P27 | 第2区F-13G    | 0.50 | 0.49 | 0.38 | 1号掘立との新旧不明。 |     | 第2区U-22G     | 0.31 | 0.26 | 0.11 |  |

須恵器高台付椀(35-1)だけである。この他にも遺物が出土したものもみられたが、いずれも小破片であり図示不可能であった。

ピット31出土の須恵器瓶類(31-1)は胴下部片。末野産。器壁が薄く、内外面ともにナデ調整である。

ピット35出土の須恵器高台付椀(35-1)は残存状態が良好であり、完形に近い。末野産。口縁部がやや外反、体部は内湾し、「ハ」の字に開く高台が付く。底部は回転糸切り痕を残す。

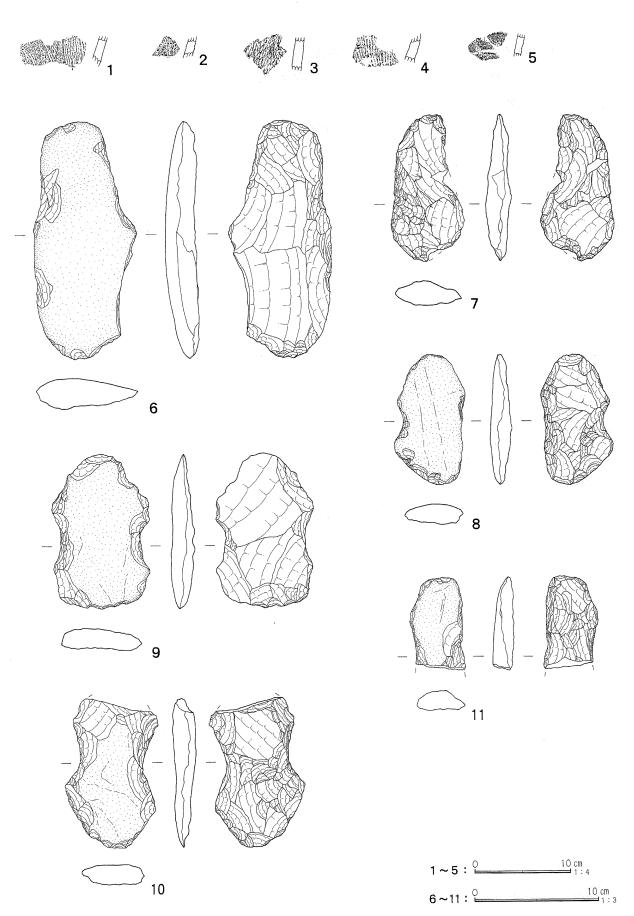
上記の遺物二点だけでは各ピットの時期を特定するのは困難である。ただ第2区で検出されたピットの大半は、奈良・平安時代の遺構周辺に位置していることから同時代のものである可能性が高いが、確証は得られない。よって、ピットの帰属時期は不明と言わざるを得ない。

# 8 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物は、縄文時代、奈良・平安時代、近世のものがある。遺物は縄文土器、石器、須恵器、 土師器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、土製品、鉄製品、石製品、陶磁器、かわらけなどがあり、図示した ものだけでも138点と多い。遺構出土遺物同様、奈良・平安時代の遺物が主体となる。

遺構外出土遺物は、時代及び時期を問わず第 2 区からの検出が圧倒的に多く、中でも $0 \sim S - 26 \sim 28$  グリッドからの検出が目立つ。また、遺構の位置するグリッドからの検出が多いことから大半はこれらの遺構に伴うものと考えられる。なお、第  $1 \cdot 3$  区では土器片が若干検出されたものの、図示可能なものはみられなかった。以下、時代及び遺物ごとに述べていく。

第35図  $1\sim11$  は縄文時代の遺物。今回の調査では縄文時代の遺構は検出されていないが、遺物は第 2 区でも東端の $O\cdot Q\cdot R-26\sim28$  グリッド包含層から出土した。遺物は土器と石器が検出されてい



第35図 遺構外出土遺物(1)

る。

 $1\sim5$  は縄文時代中期の土器。すべて深鉢の胴部ないし胴下部片である。 $1\cdot2\cdot4$  は地文条線文、3 は撚糸文L、5 は摩滅してわかりづらいが、RL単節縄文地に横位の沈線が描かれている。1 & 2 は胎土からみて同一個体と思われる。

 $6\sim11$ は縄文時代の打製石斧。出土土器が縄文時代中期のものであることから、石器も同時期のものと思われる。6のみ他と比べてやや大型である。 $6\cdot11$ は短冊形、7は撥形、 $8\sim10$ は分胴形である。7以外は片面に自然面を残す。石質は $6\cdot9\sim11$ が粘板岩、7が凝灰岩、8が中粒砂岩である。

第36~40図12~127は奈良・平安時代の土器。大半が〇~S-26~28グリッドからの検出である。 遺構出土土器同様、須恵器、土師器、灰釉陶器などがあり、緑釉陶器も一点のみ出土した。 9世紀代でも前半のものが主体となる。以下、器種ごとに述べていく。

第36~39図12~112は須恵器。末野産と南比企産がみられるが、前者が圧倒的に多い。

第36図12は蓋。口径の大きさから坏蓋と思われる。

第36図13~38は坏。全形を知りうるものは少ないが、口径12.5cm、器高3.5cm、底径6.5cm前後を測るものが主体となる。いずれも口縁部の外反が弱く、体部は内湾する。また器壁が厚手のものが多い。底部は回転糸切り痕を残すものが圧倒的に多いが、14・33は全面へう削り、31・38は回転糸切り後外周をへうで削っている。20のみ酸化焔焼成である。

第36図39は椀。高台が付くかは不明である。口縁端部のみ僅かに外反する。南比企産。

第36図40~49は高台付椀。高台部のみの検出が多く、底部はすべて回転糸切り痕を残す。46・47は酸化焔焼成である。

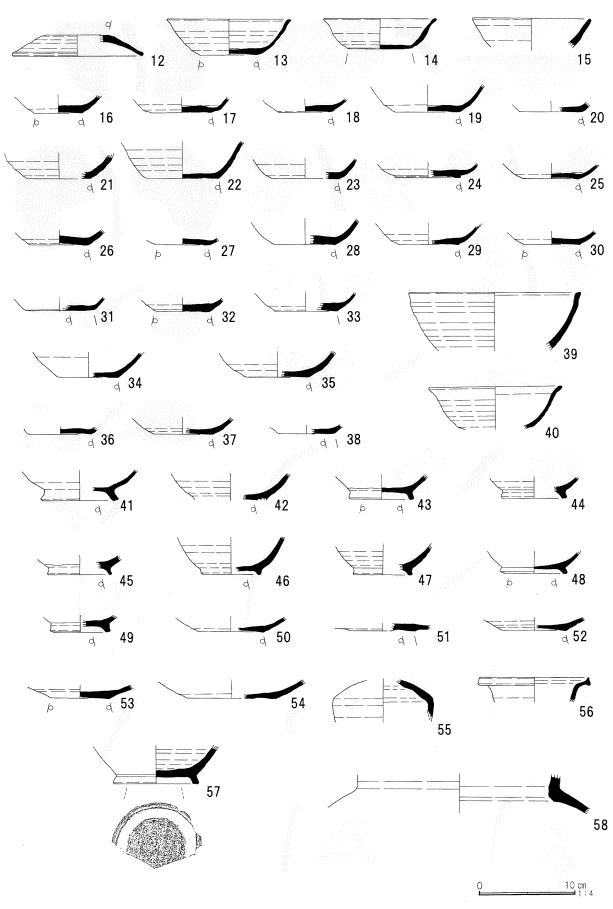
第36図50~54は皿。すべて底部のみの検出である。回転糸切り痕を残すものが多いが、51のみ回転糸切り後外周をヘラで削っている。54は磨耗が著しいため調整は不明である。底径9.4cmと大きい。

第36図55は小型壺。肩部から胴部にかけての破片である。産地は不明である。1号住居跡出土遺物 第6図5と同一個体である。

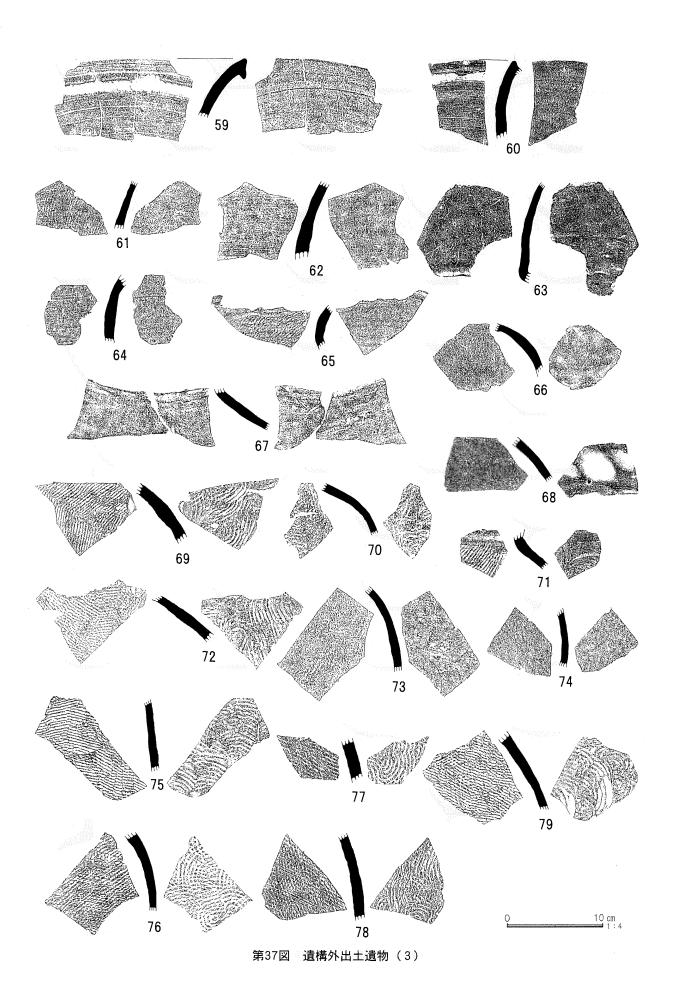
第36図56は長頸瓶の口縁部片。外面には自然釉が付着している。

第36~39図58~103は甕。すべて破片での検出である。直接的な接合関係はみられないものの、同一個体と思われるものが多くみられた。 $59\cdot60$ は口縁部片。内外面ともに横ナデ調整である。 $61\sim65$ は頸部片。 $61\cdot65$ の外面には叩き目がみられたが、その他は横ナデ調整のみである。 $58\cdot66\sim72$ は肩部片。58のみ唯一復元実測が可能であった。ナデ調整のもの( $58\cdot66\sim68$ )と外面に叩き目、内面に青海波文がみられるもの( $69\sim72$ )がある。 $73\sim82$ は胴上部片。外面に自然釉が付着しているものが多い。肩部片同様、ナデ調整のもの( $73\cdot74\cdot81$ )と外面叩き目、内面青海波文のもの( $75\sim79\cdot82$ )があるが、80は外面に叩き目があるものの、内面は指頭圧痕が顕著であった。 $83\sim102$ は胴下部片。ナデ調整のもの( $86\cdot88\sim100$ )が圧倒的に多い。また、外面が叩き目、内面はナデ調整のもの( $84\cdot85\cdot87\cdot101$ )もみられた。103は底部片。内外面ともにナデ調整である。外面には自然釉が付着している。

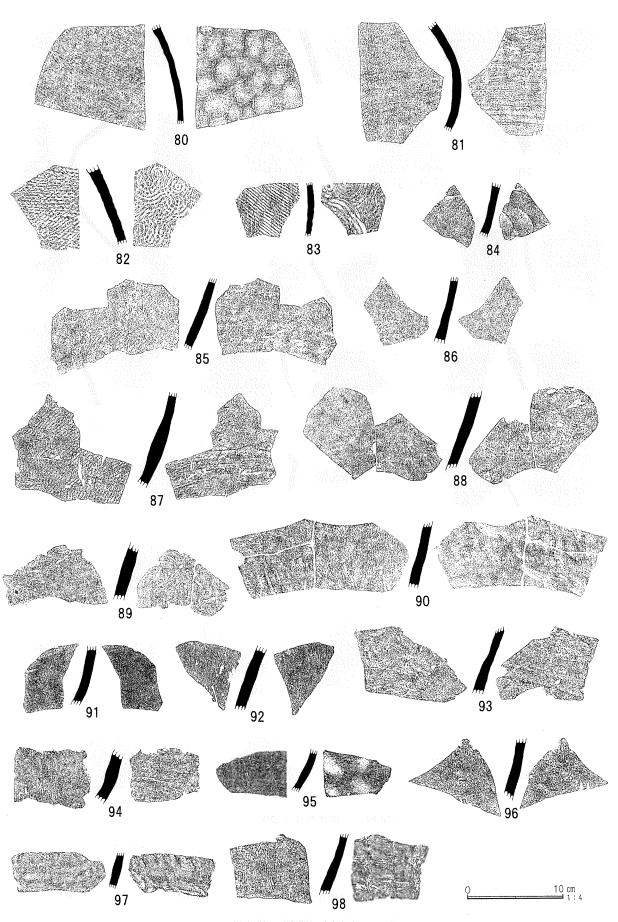
第36図57・第39図104~110は瓶類。57は底部。底部調整は全面ヘラナデであり、さらにその上からヘラで「レ」の字状に浅い刻みが描かれている。104~110は破片。胴下部片が多い。すべて内外面



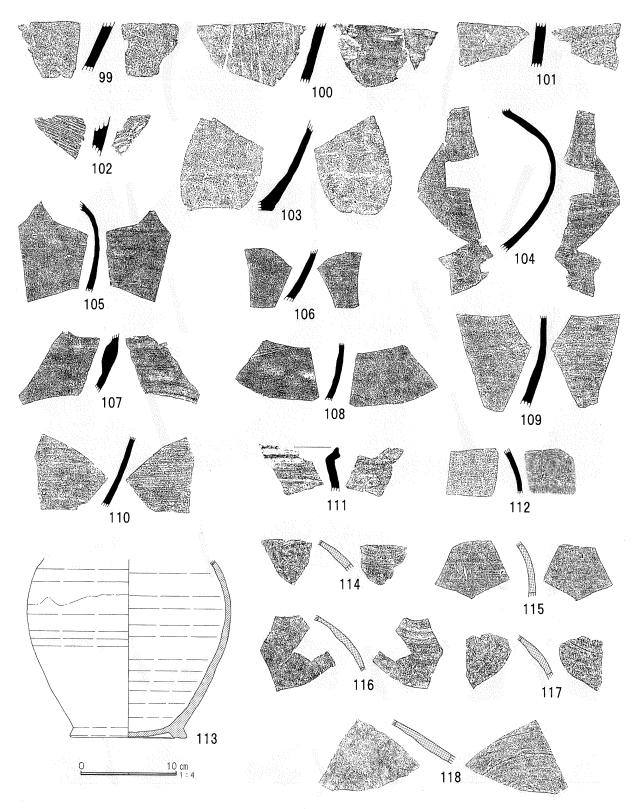
第36図 遺構外出土遺物(2)



- 62 **-**



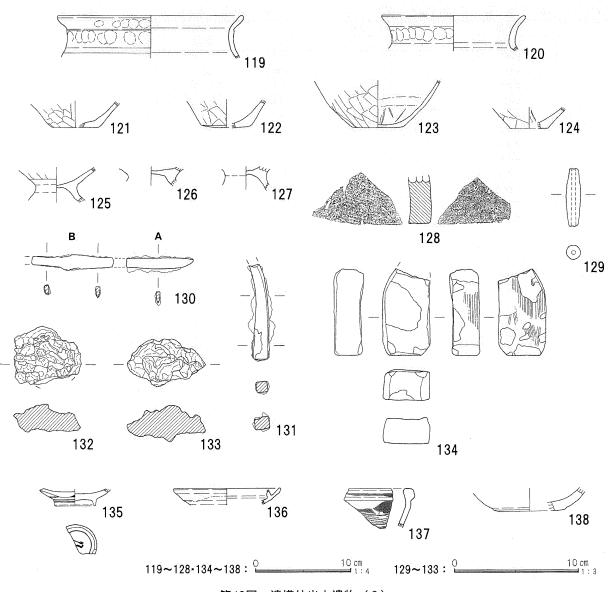
第38図 遺構外出土遺物(4)



第39図 遺構外出土遺物 (5)

ともに回転ナデ調整である。外面上部に自然釉が付着しているものが多い。107は焼き歪みが生じて膨 張している。

第39図111・112は鉢。111は口縁部片、112は胴上部片である。内外面ともに回転ナデ調整である。 第39図113~117は灰釉陶器長頸瓶。すべて同一個体であるが、113と114~117は接合関係にない。



第40図 遺構外出土遺物(6)

#### 第19表 遺構外出土遺物観察表

| 番号         出土位置         器種         口径         器高         底径         胎土         色調         焼成         残存率         備         考           1         O-26G         縄文土器深鉢         -         -         ACIKN         赤褐色         B         胴下部片         縄文中期。No.2と同一個体。           2         O-26G         縄文土器深鉢         -         -         AEGHJN         赤褐色         B         胴下部片         縄文中期。No.1と同一個体。           3         Q-28G         縄文土器深鉢         -         -         ABHJ         明赤褐色         B         胴下部片         縄文中期。No.1と同一個体。           5         R-27G         縄文土器深鉢         -         -         ABHJ         明赤褐色         B         胴下部片         縄文中期。           6         N-25G         打製石斧         最大長18.7cm、最大幅8.2cm、最大幅2.2cm、最大厚2.45cm。重量490g。粘板岩。完形。         北板岩。完形。           7         P-29G         打製石斧         最大長11.5cm、最大幅5.3cm、最大厚1.7cm。重量100g。中心砂岩。完形。         一部欠。           8         R-27G         打製石斧         最大長10.2cm、最大幅5.4cm、最大幅7.7cm、最大厚1.8cm。重量100g。 粘板岩。完形。         完形。           9         S-26G         打製石斧         最大長11.7cm、最大幅6.8cm、最大厚1.8cm。重量100g。 粘板岩。完形。         完形。           10         S-27G         打製石斧         最大長(7.3)cm、最大幅6.8cm、最大厚1.6cm。重量(63.5)g。粘板岩。上端欠。 |     |            |        |   |  | Service of the service of | and the second second |                                   | 200 B 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 |        | <u> </u>        |  |  |
|--|-----|------------|--------|---|--|---------------------------|-----------------------|-----------------------------------|---|--------|-----------------|--|--|
| 2       O-26G       縄文土器深鉢       -       -       AEGHJN       赤褐色       B       胴下部片       縄文中期。No.1と同一個体。         3       Q-28G       縄文土器深鉢       -       -       ABDHIK       橙色       B       胴部片       縄文中期。         4       Q-28G       縄文土器深鉢       -       -       ABHIJ       明赤褐色       B       胴下部片       縄文中期。         5       R-27G       縄文土器深鉢       -       -       ABDGJM       にぶい橙色       C       胴部片       縄文中期。         6       N-25G       打製石斧       最大長18.7cm、最大幅8.2cm、最大厚2.45cm。重量490g。 粘板岩。完形。       銀灰岩。一部欠。         7       P-29G       打製石斧       最大長11.5cm、最大幅5.3cm、最大厚2.0cm。重量(122)g。 凝灰岩。一部欠。         8       R-27G       打製石斧       最大長10.2cm、最大幅5.45cm、最大厚1.7cm。重量100g。中粒砂岩。完形。         9       S-26G       打製石斧       最大長12.2cm、最大幅7.7cm、最大厚1.8cm。重量190g。粘板岩。完形。         10       S-27G       打製石斧       最大長(11.7)cm、最大幅6.8cm、最大厚1.8cm。重量(160)g。粘板岩。上端欠。         11       S-27G       打製石斧       最大長(7.3)cm、最大幅4.1cm、最大厚1.6cm。重量(63.5)g。粘板岩。半分欠。  | 番号  | 出土位置       | 器 種 口径 |   | 器高   | 底径                        | 胎土                    | 色調                                | 焼成  | 残存率    | 備考              |  |  |
| 3 Q-28G       縄文土器深鉢       -       - ABDHIK       橙色       B 胴部片       縄文中期。         4 Q-28G       縄文土器深鉢       -       - ABHIJ       明赤褐色       B 胴下部片       縄文中期。         5 R-27G       縄文土器深鉢       -       - ABDGJM       にぶい橙色       C 胴部片       縄文中期。         6 N-25G       打製石斧       最大長18.7cm、最大幅8.2cm、最大厚2.45cm。重量490g。 粘板岩。完形。         7 P-29G       打製石斧       最大長11.5cm、最大幅5.3cm、最大厚2.0cm。重量(122)g。 凝灰岩。一部欠。         8 R-27G       打製石斧       最大長10.2cm、最大幅5.45cm、最大厚1.7cm。重量100g。中粒砂岩。完形。         9 S-26G       打製石斧       最大長12.2cm、最大幅7.7cm、最大厚1.8cm。重量190g。粘板岩。完形。         10 S-27G       打製石斧       最大長(11.7)cm、最大幅6.8cm、最大厚1.8cm。重量(160)g。粘板岩。上端欠。         11 S-27G       打製石斧       最大長(7.3)cm、最大幅4.1cm、最大厚1.6cm。重量(63.5)g。 粘板岩。半分欠。   | 1   | O-26G      | 縄文土器深鉢 |   | -  |                           | ACIKN                 | 赤褐色                               | B   | 胴下部片   | 縄文中期。No.2と同一個体。 |  |  |
| 4 Q-28G       縄文土器深鉢       -       -       ABHIJ       明赤褐色       B       胴下部片       縄文中期。         5 R-27G       縄文土器深鉢       -       -       ABDGJM       にぶい橙色       C       胴部片       縄文中期。         6 N-25G       打製石斧       最大長18.7cm、最大幅8.2cm、最大厚2.45cm。重量490g。       粘板岩。完形。         7 P-29G       打製石斧       最大長11.5cm、最大幅5.3cm、最大厚2.0cm。重量(122)g。       凝灰岩。一部欠。         8 R-27G       打製石斧       最大長10.2cm、最大幅5.45cm、最大厚1.7cm。重量100g。中粒砂岩。完形。         9 S-26G       打製石斧       最大長12.2cm、最大幅7.7cm、最大厚1.8cm。重量190g。       粘板岩。完形。         10 S-27G       打製石斧       最大長(11.7)cm、最大幅6.8cm、最大厚1.8cm。重量(160)g。       北板岩。上端欠。         11 S-27G       打製石斧       最大長(7.3)cm、最大幅4.1cm、最大厚1.6cm。重量(63.5)g。       粘板岩。半分欠。  | 2   | O-26G      | 縄文土器深鉢 | =   | - 114  | 1                         | AEGHJN                | 赤褐色                               | В   | 胴下部片   | 縄文中期。No.1と同一個体。 |  |  |
| 5       R-27G       縄文土器深鉢       -       -       ABDGJM       にぶい橙色       C       胴部片       縄文中期。         6       N-25G       打製石斧       最大長18.7cm、最大幅8.2cm、最大厚2.45cm。重量490g。粘板岩。完形。         7       P-29G       打製石斧       最大長11.5cm、最大幅5.3cm、最大厚2.0cm。重量(122)g。凝灰岩。一部欠。         8       R-27G       打製石斧       最大長10.2cm、最大幅5.45cm、最大厚1.7cm。重量100g。中粒砂岩。完形。         9       S-26G       打製石斧       最大長12.2cm、最大幅7.7cm、最大厚1.8cm。重量190g。粘板岩。完形。         10       S-27G       打製石斧       最大長(11.7)cm、最大幅6.8cm、最大厚1.8cm。重量(160)g。粘板岩。上端欠。         11       S-27G       打製石斧       最大長(7.3)cm、最大幅4.1cm、最大厚1.6cm。重量(63.5)g。粘板岩。半分欠。  | 3   | Q-28G      | 縄文土器深鉢 | -   | -  |                           | ABDHIK                | 橙色                                | В   | 胴部片    | 縄文中期。           |  |  |
| 6 N-25G 打製石斧 最大長18.7cm、最大幅8.2cm、最大厚2.45cm。重量490g。粘板岩。完形。 7 P-29G 打製石斧 最大長11.5cm、最大幅5.3cm、最大厚2.0cm。重量(122)g。凝灰岩。一部欠。 8 R-27G 打製石斧 最大長10.2cm、最大幅5.45cm、最大厚1.7cm。重量100g。中粒砂岩。完形。 9 S-26G 打製石斧 最大長12.2cm、最大幅7.7cm、最大厚1.8cm。重量190g。粘板岩。完形。 10 S-27G 打製石斧 最大長(11.7)cm、最大幅6.8cm、最大厚1.8cm。重量(160)g。粘板岩。上端欠。 11 S-27G 打製石斧 最大長(7.3)cm、最大幅4.1cm、最大厚1.6cm。重量(63.5)g。粘板岩。半分欠。  | 4   | Q-28G      | 縄文土器深鉢 | 7.7   | -  |                           | ABHIJ                 | 明赤褐色                              | В   | 胴下部片   | 縄文中期。           |  |  |
| 7 P-29G 打製石斧 最大長11.5cm、最大幅5.3cm、最大厚2.0cm。重量(122)g。凝灰岩。一部欠。 8 R-27G 打製石斧 最大長10.2cm、最大幅5.45cm、最大厚1.7cm。重量100g。中粒砂岩。完形。 9 S-26G 打製石斧 最大長12.2cm、最大幅7.7cm、最大厚1.8cm。重量190g。粘板岩。完形。 10 S-27G 打製石斧 最大長(11.7)cm、最大幅6.8cm、最大厚1.8cm。重量(160)g。粘板岩。上端欠。 11 S-27G 打製石斧 最大長(7.3)cm、最大幅4.1cm、最大厚1.6cm。重量(63.5)g。粘板岩。半分欠。   | 5   | R-27G      | 縄文土器深鉢 | 3 A A   | 5.41   |                           | ABDGJM                | にぶい橙色                             | С   | 胴部片    | 縄文中期。           |  |  |
| 8       R-27G       打製石斧       最大長10.2cm、最大幅5.45cm、最大厚1.7cm。重量100g。中粒砂岩。完形。         9       S-26G       打製石斧       最大長12.2cm、最大幅7.7cm、最大厚1.8cm。重量190g。粘板岩。完形。         10       S-27G       打製石斧       最大長(11.7)cm、最大幅6.8cm、最大厚1.8cm。重量(160)g。粘板岩。上端欠。         11       S-27G       打製石斧       最大長(7.3)cm、最大幅4.1cm、最大厚1.6cm。重量(63.5)g。粘板岩。半分欠。  | 6   | N-25G      | 打製石斧   | 最大長   | 18.7cm                                       | 最大                        | 唱8.2cm、最大             | 厚2.45cm。重量                        | 量490                                      | g。粘板岩。 | 完形。             |  |  |
| 9 S-26G 打製石斧 最大長12.2cm、最大幅7.7cm、最大厚1.8cm。重量190g。粘板岩。完形。 10 S-27G 打製石斧 最大長(11.7)cm、最大幅6.8cm、最大厚1.8cm。重量(160)g。粘板岩。上端欠。 11 S-27G 打製石斧 最大長(7.3)cm、最大幅4.1cm、最大厚1.6cm。重量(63.5)g。粘板岩。半分欠。  | 7   | P-29G      | 打製石斧   | 最大長   | 11.5cm                                       | 最大                        | 唱5.3cm、最大             | 厚2.0cm。重量                         | $(122)_{i}$                               | g。凝灰岩。 | 一部欠。            |  |  |
| 10     S-27G     打製石斧     最大長(11.7)cm、最大幅6.8cm、最大厚1.8cm。重量(160)g。粘板岩。上端欠。       11     S-27G     打製石斧     最大長(7.3)cm、最大幅4.1cm、最大厚1.6cm。重量(63.5)g。粘板岩。半分欠。  | 8   | R-27G      | 打製石斧   | 最大長   | 最大長10.2cm、最大幅5.45cm、最大厚1.7cm。重量100g。中粒砂岩。完形。 |                           |                       |                                   |   |        |                 |  |  |
| 11 S-27G 打製石斧 最大長(7.3)cm、最大幅4.1cm、最大厚1.6cm。重量(63.5)g。粘板岩。半分欠。  | 9   | S-26G      | 打製石斧   | 最大長12.2cm、最大幅7.7cm、最大厚1.8cm。重量190g。粘板岩。完形。      |  |                           |                       |                                   |   |        | 7形。             |  |  |
|  | 10  | S-27G      | 打製石斧   | 最大長   | (11.7)cı                                     | m、最大                      | :幅6.8cm、最             | 幅6.8cm、最大厚1.8cm。重量(160)g。粘板岩。上端欠。 |   |        |                 |  |  |
| 12     V-22G     須恵器 蓋     (14.0)     2.2     (6.8)     ABHL     灰色     B     20%     末野産。   | 11  | S-27G      | 打製石斧   | 最大長(7.3)cm、最大幅4.1cm、最大厚1.6cm。重量(63.5)g。粘板岩。半分欠。 |  |                           |                       |                                   |   | 半分欠。   |                 |  |  |
|  | 12  | V-22G      | 須恵器 蓋  | (14.0)  | 2.2  | (6.8)                     | ABHL                  | 灰色                                | В   | 20%    | 末野産。            |  |  |
| 13   E-11G   須恵器   坏   13.2   3.8   6.2   ABGHL     灰黄色   B     80%     末野産。   | 13. | E-11G      | 須恵器 坏  | 13.2  | 3.8  | 6.2                       | ABGHL                 | 灰黄色                               | , B                                       | 80%    | 末野産。            |  |  |
| 14     S-26・27G     須恵器     坏     (12.0)     3.2     6.9     ABHJL     にぶい黄橙色     B     50%     末野産。   | 14  | S-26 · 27G | 須恵器 坏  | (12.0)  | 3.2  | 6.9                       | ABHJL                 | にぶい黄橙色                            | В   | 50%    | 末野産。            |  |  |
| 15 一括 須恵器 坏 (12.6) (3.05) - BCHL 褐灰色 B 口~体35% 南比企産。  | 15  | 一括         | 須恵器 坏  | (12.6)  | (3.05)                                       |                           | BCHL                  | 褐灰色                               | В   | 口~体35% | 南比企産。           |  |  |
| 16   B-6G   須恵器 坏   - (1.8)   5.0   ABDF   灰色   B   底部50%   南比企産。  | 16  | B-6G       | 須恵器 坏  | 7   | (1.8)  | 5.0                       | ABDF                  | 灰色                                | В   | 底部50%  | 南比企産。           |  |  |

| 番号 | 出土位置      | 器種     | 口径                                       | 器高                | 底径                 | 胎土          | 色調      | 焼成  | 残存率    | 備考   |
|----|-----------|--------|--|-------------------|--------------------|-------------|---------|-----|--------|--|
| 17 | C-9G      | 須恵器 坏  | ÷  | (1.6)             | (6.4)              | ABEL        | 灰色      | В   | 底部25%  | 末野産。   |
| 18 | C-8G      | 須恵器 坏  | 11 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 1 | (1.4)             | (5.7)              | AEHL        | 灰色      | В   | 底部45%  | 末野産。   |
| 19 | C-8G      | 須恵器 坏  |  | (2.8)             | (6.8)              | ABL         | 灰色      | В   | 体~底30% | 末野産。   |
| 20 | D-11G     | 須恵器 坏  |  | (1.1)             | (6.6)              | ABCHL       | 暗褐色     | В   | 底部20%  | 末野産。酸化焔焼成。   |
| 21 | E-11G     | 須恵器 坏  | 4.                                       | (2.7)             | (6.8)              | ABF         | 灰色      | В   | 体~底20% |  |
|    |           |        |  | 1 1 1 2 1 1 1 1 1 | - 10 F - 1 115 1 1 | 17 44 454 4 |         |     |        | 110000000000000000000000000000000000000  |
| 22 | E-11G     | 須恵器 坏  | -  | (3.9)             | (7.8)              | ACGHL       | 灰黄褐色    | С   | 体~底25% |  |
| 23 | E-11G     | 須恵器 坏  | -  | (2.1)             | (7.1)              | ABDL        | 灰色      | В   | 体~底20% | Control of the Contro |
| 24 | E-11G     | 須恵器 坏  | -  | (1.6)             | (6.8)              | ABEHN       | にぶい黄橙色  | В   | 底部30%  | 末野産。   |
| 25 | E-11G     | 須恵器 坏  | -  | (1.6)             | (6.0)              | ABGL        | 灰色      | В   | 底部40%  | 末野産。   |
| 26 | E-11G     | 須恵器 坏  | -  | (1.6)             | (6.1)              | ABGJL       | 灰色      | В   | 底部45%  | 末野産。   |
| 27 | E-11G     | 須恵器 坏  |  | (0.7)             | 5.5                | AL          | 灰色      | В   | 底部70%  | <b>未野産。</b>  |
| 28 | E-12G     | 須恵器 坏  | -  | (2.7)             | (6.4)              | ABDHL       | 灰黄色     | C   | 体~底40% | 末野産。   |
| 29 | H-2G      | 須恵器 坏  |  | (2.2)             | (6.4)              | ABGL        | 灰色      | В   | 体~底40% | 末野産。   |
| 30 | I-17G     | 須恵器 坏  | Admir Lance                              | (1.5)             | 5.9                | AEHL        | 褐灰色     | В   | 底部100% | 末野産。   |
| 31 | K-19G     | 須恵器 坏  | - ;                                      | (1.4)             | (7.4)              | AFH         | 灰色      | В   | 底部25%  | 南比企産。  |
| 32 | O-26G     | 須恵器 坏  | -  | (1.5)             | 6.0                | ABF         | 灰黄褐色    | В   | 底部100% | 南比企産。  |
| 33 | P-28G     | 須恵器 坏  | -  | (2.0)             | (6.6)              | ABF         | 黄灰色     | В   | 底部45%  | 南比企産。  |
| 34 | Q-28G     | 須恵器 坏  | -  | (2.7)             | (6.2)              | ABDHL       | 黄灰色     | В   | 体~底30% | The second secon |
| 35 | R-27G     | 須恵器 坏  | - 25                                     | (2.7)             | (6.8)              | ABDHKL      | 明褐色     | С   | 体~底30% |  |
| 36 | R-27G     | 須恵器 坏  | -  | (0.8)             | (6.6)              | ABIL        | 灰色      | В   | 底部45%  | 末野産。   |
|    | T-22G     | 須恵器 坏  |  | (1.8)             | (6.2)              |             | 青灰色     | -   |        |  |
| 37 |           |        | -  |                   |                    | AHL         |         | A   | 底部25%  | 末野産。<br>- 大野茶  |
| 38 | T-22G     | 須恵器 坏  | (10.0)                                   | (1.0)             | (6.1)              | AHL         | 暗灰色     | В   | 底部40%  | 未野産。   |
| 39 | S-27G     | 須恵器 椀  | (18.0)                                   | (6.2)             | <u></u>            | ABF         | 灰色      | В   | 口~体10% |  |
| 40 | P-27G     | 須恵器高台椀 | (13.9)                                   | (4.55)            | -                  | ABEHL       | 灰色      | В   | 口~体20% |  |
| 41 | O-26G     | 須恵器高台椀 | -  | (3.3)             | (8.2)              | ABCHL       | 褐灰色     | В   | 体~高25% | 末野産。   |
| 42 | P-27G     | 須恵器高台椀 | -  | (2.9)             | -                  | ADGHM       | にぶい黄橙色  | С   | 体部30%  | 末野産。   |
| 43 | Q-27G     | 須恵器高台椀 | -  | (2.7)             | 6.8                | ABHL        | にぶい黄橙色  | В   | 高台部60% | 末野産。   |
| 44 | R-27G     | 須恵器高台椀 | -  | (2.3)             | 6.8                | ABCH        | にぶい黄橙色  | С   | 高台部55% | 末野産。   |
| 45 | R-27G     | 須恵器高台椀 | -  | (2.1)             | (6.8)              | ABCHL       | 灰色      | В   | 高台部45% | 末野産。   |
| 46 | S-27G     | 須恵器高台椀 | 2  | (4.0)             | (6.4)              | ABCILM      | 明褐色     | С   |        | 末野産。酸化焔焼成。   |
| 47 | T-21G     | 須恵器高台椀 | -  | (3.4)             | (6.2)              | ABCHL       | 赤褐色     | В   |        | 末野産。酸化焔焼成。   |
| 48 | T-22G     | 須恵器高台椀 | -  | (2.4)             | 7.0                | ADHL        | 青灰色     | В   | 体~高100 | 末野産。   |
| 49 | 一括        | 須恵器高台椀 | -  | (1.8)             | (6.4)              | ABHL        | 青灰色     | В   | 高台部40% | 末野産。   |
| L  | Q-28·R-27 |        | -  | (1.6)             | (7.0)              | ABDHN       | 灰白色     | В   | 底部40%  | 末野産。   |
| 51 | R-28G     | 須恵器 皿  | -  | (0.8)             | (6.8)              | ABCHL       | 灰色      | В   | 底部45%  | 木野産。   |
|    |           |        |  | 4 9654 87         |                    |             |         | ļ   |        |  |
| 52 | S-26G     | 須恵器 皿  | -  | (1.4)             | (6.6)              | ABHL        | 褐灰色     | В   | 底部40%  | 末野産。   |
| 53 | T-22G     | 須恵器 皿  | -  | (1.4)             | 6.4                | AHILN       | 灰色      | Α   | 底部55%  | 末野産。   |
| 54 | T-27G     | 須恵器 皿  | -  | (2.0)             | (9.4)              | ABEH        | 淡黄色     | С   |        | 末野産。磨耗顕著。底部調整不明。   |
| 55 | P-28G     | 須恵器小型壺 | -  | (4.4)             | -                  | ABL         | 灰色      | В   |        | 産地不明。1号住No.5と同一個体。   |
| 56 | O-27G     | 須恵器長頸瓶 | (11.5)                                   |                   | -                  | AB          | 灰色      | Α   |        | 末野産。外面自然釉付着。   |
| 57 | 一括        | 須恵器瓶類  | -  | (4.0)             | 9.1                | AHL         | 灰色      | В   | 底部45%  | 末野産。底部ヘラ刻み有。   |
| 58 | S-27G     | 須恵器 甕  | -  | (4.3)             | -                  | ABHL        | 灰色      | В   | 肩部10%  | 末野産。   |
| 59 | O•P-27G   | 須恵器 甕  | -  | -                 | -                  | ABDHL       | 灰白色     | В   | 口縁部片   | 末野産。   |
| 60 | O-26G     | 須恵器 甕  | -  | -                 | -                  | ABEHL       | 灰色      | В   | 口縁部片   | 末野産。   |
| 61 | E-11G     | 須恵器 甕  | -  | -                 | -                  | ABL         | 灰色      | В   | 頸部片    | 末野産。内面自然釉付着。   |
| 62 | L-22G     | 須恵器 甕  | -  |                   |                    | ABGHL       | 灰色      | В   | 頸部片    | 末野産。   |
| 63 | O-26G     | 須恵器 甕  |  |                   | 2747               | ABEGH       | 灰黄褐色    | C   | 頸部片    | 末野産。   |
| 64 | R-27G     | 須恵器 甕  |  | ::                | -                  | ABEIL       | 黄灰色     | À   | 頸部片    | 末野産。   |
| 65 | R-27G     |        | 7: :                                     | - 7               |                    |             |         |     |        |  |
|    |           | 須恵器 甕  | 1 11 11 11                               |                   |                    | ABDHL       | 灰色      | В   | 頸部片    | 末野産。   |
| 66 | E-11G     | 須恵器 甕  | -  | =:                | -                  | ABFN        | 灰色      | В   | 肩部片    | 南比企産。外面自然和付着。  |
| 67 | O-26G     | 須恵器 甕  |  | - 1.              |                    | ABGHL       | 褐灰色     | C   | 肩部片    | 末野産。No.68・90・95・97・98同一個体。   |
| 68 | O-26G     | 須恵器 甕  |  |                   | 1.5                | ABEHL       | 褐灰色     | В   | 肩部片    | 末野産。No.67・90・95・97・98同一個体。   |
| 69 | Q-27G     | 須恵器 甕  |  | 1.5               | 200                | ADEGL       | 灰色      | В   | 肩部片    | 未野産。   |
| 70 | Q-28G     | 須恵器 甕  | =  | 910               | ÷                  | ABHL        | 灰色      | В   | 肩部片    | 末野産。   |
| 71 | Q-29G     | 須恵器 甕  | 5- 7                                     |                   |                    | ABCH        | 灰色      | А   | 肩部片    | 末野産。   |
| 72 | R-26G     | 須恵器 甕  | -  | 5.5.              | -                  | ABHL        | 褐灰色     | В   | 肩部片    | 末野産。   |
| 73 | I-17G     | 須恵器 甕  |  |                   | 2                  | ABL         | 灰色      | В   | 胴上部片   | 末野産。No.85と同一個体。  |
| 74 | K-20G     | 須恵器 甕  |  |                   |                    | ABL         | 灰色      | В   | 胴上部片   | 末野産。外面自然釉付着。   |
| 75 | P-26G     | 須恵器 甕  | 100 100 100 100 100 100 100 100 100 100  | = 100             | 1211               | ABL         | 灰色      | В   | 胴上部片   | 末野産。2号住No.10と同一個体。   |
| 76 | P-27G     | 須恵器 甕  | - C. 25 1 1 1                            |                   | -                  | ABL         | 黄灰色     | В   | 胴上部片   | 末野産。外面自然釉付着。   |
| 77 | Q-27G     | 須恵器 甕  |  | -                 | +                  | ABD         | 黄灰色     | В   | 胴上部片   | 末野産。外面自然釉付着。   |
|    | W.711.C   | 火心的 贫  | Para Table                               |                   | 1                  | מטט         | 上 與 八 巳 | L D |        | 小灯座。71四日於柚竹有。  |

| 番号  | 出土位置         | 器 種      | 口径                                    | 器高   | 底径                  | 胎土                                    | 色 調         | 焼成   | 残存率           | 備考                            |  |  |
|-----|--------------|----------|---------------------------------------|--|---------------------|---------------------------------------|-------------|------|---------------|-------------------------------|--|--|
| 78  | Q-28G        | 須恵器 甕    |                                       | -  | -                   | ABDH                                  | 黄灰色         | В    | 胴上部片          | 末野産。                          |  |  |
| 79  | S-27G        | 須恵器 甕    | <del>- 20</del>                       | -  | -                   | ABL                                   | 灰色          | В    | 胴上部片          | 末野産。                          |  |  |
| 80  | S-27G        | 須恵器 甕    | -                                     |  | 25.50               | ABHL                                  | 灰色          | Α    | 胴上部片          | 末野産。                          |  |  |
| 81  | V-25G        | 須恵器 甕    | 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | -  | -                   | ABEL                                  | 灰色          | В    | 胴上部片          | 末野産。                          |  |  |
| 82  | V-25G        | 須恵器 甕    |                                       | 764  | 4.47                | ABL                                   | 灰色          | Α    | 胴上部片          | 末野産。外面自然釉付着。                  |  |  |
| 83  | O-26G        | 須恵器 甕    | -                                     | -  | -                   | AH                                    | 青灰色         | Α    | 胴下部片          | 末野産。                          |  |  |
| 84  | E-11G        | 須恵器 甕    |                                       |  |                     | ABHL                                  | 褐灰色         | В    | 胴下部片          | 末野産。外面自然釉付着。                  |  |  |
| 85  | I-17G        | 須恵器 甕    |                                       | -  | -                   | ABHL                                  | 灰色          | В    | 胴下部片          | 末野産。No.73と同一個体。               |  |  |
| 86  | K-20G        | 須恵器 甕    |                                       |  | <del>-1121/11</del> | ABDHL                                 | 灰色          | В    | 胴下部片          | 末野産。                          |  |  |
| 87  | L-21G        | 須恵器 甕    |                                       | _  | -                   | ADF                                   | 暗灰色         | В    | 胴下部片          | 南比企産。                         |  |  |
| 88  | O-26G        | 須恵器 甕    |                                       | _  | -                   | ABGL                                  | 灰黄色         | В    | 胴下部片          | 末野産。                          |  |  |
| 89  | O-26G        | 須恵品 瓷    |                                       | 1 12   | - 1                 | ABDHL                                 | 灰色          | В    | 胴下部片          | 末野産。                          |  |  |
|     | O-26G        | 須恵器 甕    | · <u>-</u>                            | _  | -                   | ABHJM                                 | にぶい黄色       | С    | 胴下部片          | 末野産。No.67・68・95・97・98同一個体。    |  |  |
| 90  |              |          |                                       |  | _                   |                                       | 灰黄色         | C    | 胴下部片          | 末野産。                          |  |  |
| 91  | O-26G        |          | -                                     | -  |                     | ABDHL                                 |             |      | 胴下部片          | 未野産。<br>末野産。                  |  |  |
| 92  | O-26G        | 須恵器 甕    | -                                     |  |                     | ABDGL                                 | 灰黄色         | В    |               |                               |  |  |
| 93  | O-26G        | 須恵器 甕    | -                                     | -  | -                   | ABDHL                                 | 褐灰色         | В    | 胴下部片          | 末野産。2号住No.13と同一個体。            |  |  |
| 94  | O-26G        | 須恵器 甕    |                                       | -  |                     | ABL                                   | 黄灰色         | В    | 胴下部片          | 末野産。                          |  |  |
| 95  | O-26G        | 須恵器 甕    | -                                     | -  | -                   | ABGH                                  | 褐灰色         | С    | 胴下部片          | 未野産。No.67・68・90・97・98同一個体。    |  |  |
| 96  | O-26G        | 須恵器 甕    | -                                     | 1.5  | -                   | ABD                                   | 灰黄色         | В    | 胴下部片          | 末野産。                          |  |  |
| 97  | P-27G        | 須恵器 甕    | -                                     | -  | -                   | ABDGHL                                | 灰黄褐色        | В    | 胴下部片          | 末野産。No.67・68・90・95・98同一個体。    |  |  |
| 98  | P-27G        | 須恵器 甕    | -                                     | -  | -                   | ABGH                                  | 灰黄色         | В    | 胴下部片          | 末野産。No.67・68・90・95・97同一個体。    |  |  |
| 99  | P-28G        | 須恵器 甕    | <u>-</u>                              | -  | -                   | ABEHL                                 | 灰黄色         | В    | 胴下部片          | 末野産。                          |  |  |
| 100 | Q-28G        | 須恵器 甕    | -                                     | in .   | -                   | ABEGHM                                | 灰黄色         | В    | 胴下部片          | 末野産。                          |  |  |
| 101 | Q-28G        | 須恵器 甕    |                                       |  |                     | ABEHL                                 | 灰色          | В    | 胴下部片          | 末野産。                          |  |  |
| 102 | R-26G        | 須恵器 甕    | -                                     | -  | -                   | ABHL                                  | 灰色          | Α    | 胴下部片          | 末野産。                          |  |  |
| 103 | K-19G        | 須恵器 甕    | -                                     | -  | -                   | AEGL                                  | 暗灰色         | В    | 底部片           | 末野産。外面自然釉付着。                  |  |  |
| 104 | O-26G        | 須恵器瓶類    | -                                     | -  | -                   | ABF                                   | 灰色          | В    | 肩~胴部片         | 南比企産。外面上部自然釉付着。               |  |  |
| 105 | R-26G        | 須恵器瓶類    | -                                     |  | -                   | AB                                    | 灰色          | В    | 肩~胴部片         | 南比企産。外面上部自然釉付着。               |  |  |
| 106 | P-27G        | 須恵器瓶類    | -                                     | -  | -                   | ABF                                   | 灰色          | A    | 胴下部片          | 南比企産。外面上部自然釉付着。               |  |  |
| 107 | D-9G         | 須恵器瓶類    | -                                     | -  | -                   | AH                                    | 黒褐色         | В    | 胴下部片          | 末野産。焼き歪み有。                    |  |  |
| 108 | R-27G        | 須恵器瓶類    | -                                     | -  | -                   | ABHL                                  | 灰色          | Α    | 胴下部片          | 末野産。                          |  |  |
| 109 | R-26G        | 須恵器瓶類    |                                       | -  | -                   | ABF                                   | 黄褐色         | Α    | 胴下部片          | 南比企産。外面上部自然釉付着。               |  |  |
| 110 | U-23G        | 須恵器瓶類    | -                                     | -  | -                   | ABHL                                  | 灰色          | Α    | 胴下部片          | 末野産。                          |  |  |
| 111 | Q-28G        | 須恵器 鉢    | -                                     | -  | -                   | ABEGL                                 | 灰白色         | В    | 口縁部片          | 末野産。                          |  |  |
| 112 | K-20G        | 須恵器 鉢    | _                                     | -  | -                   | ABF                                   | 灰色          | В    | 胴上部片          | 南比企産。                         |  |  |
|     | O·P-26·27    | 灰釉長頸瓶    | -                                     | (18.7)   | (12.4)              | AB                                    | 褐灰色         | A    | 肩~底25%        | 1777                          |  |  |
| 114 |              | 灰釉長頸瓶    | _                                     | -  | -                   | AB                                    | 外:灰初-7 内:灰黄 | A    | 肩部片           | 外面釉有。No.113·115~117同一。        |  |  |
| 115 | O-27G        | 灰釉長頸瓶    |                                       | _  | _                   | AB                                    | 外:灰杊-7 内:灰黄 | A    | 肩部片           | 外面釉有。No.113·114·116·117同一。    |  |  |
|     | O-27 · P-26  | 灰釉長頸瓶    | _                                     |  | _                   | AB                                    | 外:灰杉-ブ 内:灰黄 | A    | 肩部片           | 外面釉有。No.113~115·117同一。        |  |  |
|     |              | 灰釉長頸瓶    |                                       | -  | -                   | AB                                    | 外:灰初-7 内:灰黄 |      | 肩部片           | 外面釉有。No.113~116同一。            |  |  |
| 117 |              |          | -                                     | -  | -                   | · · · · · · · · · · · · · · · · · · · |             |      | 肩部片           | 猿投産。外面が一7° 黄色釉薬有。             |  |  |
| 118 |              | 緑釉短頸壺    |                                       | <b>_</b>   |                     | ABCHEM                                | 外:灰杉-ブ 内:灰白 | _    |               |                               |  |  |
| 119 |              | 土師器 甕    | (19.4)                                |  | -                   | ABGHKM                                | 橙色          | В    | 口縁部35% 口縁部30% |                               |  |  |
| 120 |              | 土師器 甕    | (15.3)                                |  | (40)                | ABCGHKM                               |             | В    |               |                               |  |  |
| 121 |              | 上師器 甕    |                                       | (2.8)  | (4.8)               | AGH                                   | 灰褐色         | В    | 底部45%         |                               |  |  |
| 122 |              | 土師器 甕    | -                                     | (3.0)  | (5.4)               | ABDGJM                                | 明赤褐色        | В    | 底部30%         |                               |  |  |
| 123 |              | 上師器 甕    | -                                     | (5.0)  | (5.4)               |                                       | 外:褐 内:赤褐    | В    | 胴~底30%        |                               |  |  |
| 124 |              | 土師器 甕    |                                       | (2.2)  | (4.0)               |                                       | にぶい赤褐色      | В    | 底部30%         |                               |  |  |
| 125 |              | 土師器台付甕   | -                                     | (3.7)  | -                   | АВНЈКМ                                | 暗褐色         | В    | 接合部100        |                               |  |  |
| 126 |              | 土師器台付甕   |                                       | (2.0)  | -                   | ABDGIJKMN                             | 1.1.1       | В    | 接合部100        |                               |  |  |
| 127 |              | 土師器台付甕   |                                       | (2.6)  | L                   | ABCGIJ                                | 橙色          | В    | 接合部100        |                               |  |  |
| 128 |              | 平瓦       |                                       |  |                     |                                       |             |      |               | 色調:灰色。燒成:B。                   |  |  |
| 129 |              | 土 錘      |                                       |  |                     |                                       | ₹0.35cm。重量  |      |               |                               |  |  |
| 130 | R-27G        | 刀 子      |                                       |  |                     |                                       |             |      |               | 6)g、B:(6.3)g。 刃部中段、柄部欠。       |  |  |
| 131 | S-27G        | 不明鉄製品    |                                       |  |                     |                                       |             |      |               | 8欠。角錐状。屈曲。                    |  |  |
| 132 | R-28G        | 鉄 滓      | 最大                                    | ₹(4.6)cm   | 、最大                 | 幅5.35cm、最                             | 大厚2.1cm。重   | 量(62 | .2)g。一部久      |                               |  |  |
| 133 |              | 鉄 涬      |                                       |  |                     |                                       |             |      |               |                               |  |  |
| 134 |              | 砥 石      |                                       | 最大長3.7cm、最大幅6.25cm、最大厚2.85cm。重量56.5g。完形。<br>最大長(6.8)cm、最大幅3.8cm、最大厚2.3cm。重量110g。凝灰岩。上部欠。五面使用。所々剥離。 |                     |                                       |             |      |               |                               |  |  |
| 135 | <del> </del> | 磁器 碗     | -                                     | (1.8)  | (4.4)               |                                       | 灰白色         | -    | 底部45%         | 肥前系。                          |  |  |
| 136 | ļ            | 陶器灯明皿    | (11.2)                                |  | -                   |                                       | 暗赤褐色        | -    |               | 瀬戸·美濃系。内外面鉄釉。                 |  |  |
| 137 | ļ            | 陶器 片口    |                                       |  | -                   |                                       | 灰赤色         | -    |               | 唐津産。外面鉄釉·白泥刷毛目、内面鉄釉。          |  |  |
| 138 |              | かわらけ     | _                                     | (2.5)  | (7.6)               | -                                     | 橙色          | В    |               | 在地産。内外面磨耗顕著。                  |  |  |
| 130 | 1 10         | 14.47.71 |                                       | (2.0)  | L(1.0)              | L                                     | 127 LJ      | 1    | II            | Land   17   M M 4 1 2 2 2 1 0 |  |  |

113は肩部から底部にかけて、114~117は肩部片である。産地は不明であるが、胎土は暗い灰色を呈し、やや粗い。釉は灰オリーブ色を呈する。底部は手持ちによるヘラナデである。黒笹90号窯式併行か。 第39図118は緑釉陶器短頸壺の肩部片。唯一検出された緑釉陶器である。胎土は白色で黒色粒を多量 含んでいる。外面にはオリーブ黄色の釉薬が施釉されている。猿投産。黒笹90号窯式期のものか。

第40図119~127は土師器。図示できたのは甕(119~124)と台付甕(125~127)のみである。 119・120は「コ」の字状を呈する甕の口縁部。ともに外面に指頭圧痕がある。121~124は底部。123のみ器壁が他と比べて薄い。台付甕は接合部のみの検出である。

第40図128は平瓦の一部。凸面は縄叩き、凹面はナデ調整である。厚さは1.1cm程である。胎土に片 岩が含まれている。

第40図129は土錘。今回報告する分では唯一の資料である。中段の膨らみが小さい。完形品。

第40図130・131は鉄製品。130は刀子。刃部中段及び柄部を欠く。131は不明鉄製品。角錐状を呈するが、下部は上部に比べて一回り大きくなっている。上部を欠き、屈曲している。

第40図132・133は鉄滓。132は一部を欠くが、133は欠損箇所がみられない。

第40図134は砥石。欠損する上端以外の面すべてを使用しているが、所々剥離している。凝灰岩製。

第40図135~138は近世の陶磁器・かわらけ。135以外出土位置が不明確である。135は磁器碗。肥前系の染付である。底部のみの検出であるため、文様など詳細は不明である。136は陶器灯明皿の口縁部。瀬戸・美濃系である。内外面に鉄釉が施釉されている。137は陶器片口の口縁部片。唐津産。鉄釉、白泥刷毛目が施されている。138はかわらけの底部。在地産。磨耗が顕著であり、底部調整は不明である。胎土が砂っぽい。

## V 調査のまとめ

今回報告した調査区 (A区) で検出された遺構のうち、主体となるのは奈良・平安時代の集落跡である。本遺跡周辺では近年、古代の役所跡と目される深谷市幡羅遺跡が発見されたことにより、当地域における律令期の動向が俄かにクローズアップされてきている。なかでも律令期の集落跡は、規模や存続期間などに違いがみられるが周辺に多数所在しており、幡羅遺跡を中心とする当地域の様相を明らかにする上でその分析は欠かせないものといえる。そこで、ここでは本遺跡の律令期集落跡についてその変遷を提示し、それを基に周辺の遺跡との関係について簡単に述べてみたい。なお、調査は区画整理に伴う街路築造部分のみであるため未知な部分が多いことは否めないが、本報告の範囲に限り明らかとなった点について述べることとする。

#### 集落跡の変遷について

本遺跡の集落跡は、住居跡、掘立柱建物跡、土坑などで構成される。このうち、出土遺物から具体的に時期を特定できるのは、住居跡( $1 \sim 8$  号住居跡)と土坑のごく一部( $7 \cdot 13 \cdot 14$  号土坑)のみである。よって、変遷を提示するのはこれらの遺構のみとなるが、明らかに奈良・平安時代のものと思われる他の遺構についてもその配置や軸などから可能な限り時期を想定してみたい。

まず、変遷を辿れる住居跡と土坑について述べる。住居跡及び土坑出土遺物で時期決定の指標となるのは、須恵器供膳具(主に坏)と土師器坏・甕である。本稿ではこれらの器種を中心に第Ⅳ章では説明し切れなかったことについて述べるが、なかでもほとんどの住居跡から検出された土師器坏に重点を置き、須恵器供膳具と土師器甕で補完する形をとりながら時期の裏付けを行いたい。なお、時期決定に際しては、北武蔵地域では律令期の土器編年について多くの先行業績があるが、ここでは埼玉県岡部町熊野遺跡の編年を土師器坏の型式変化と組成に基準を置いた富田和夫氏の案(埼埋文2002)を参考にみていくこととし、氏の分類を用いて説明する。

1号住居跡は後述する他の住居跡に比べて出土遺物が少ないが、時期は特定することが可能である。各土器の詳細については、第 $\mathbb{N}$ 章において記述済みであることからここでは触れないが、1号住居跡から検出された土師器坏(第6図9~11)は、富田氏の分類に当てはめると9が坏С7類、10・11が坏С5類に相当する。坏С7類は、平底気味で「口縁部を外反、または直線的に開くタイプ」であり、熊野遺跡(以下、遺跡省略) $\mathbb{N}$ 期(9世期2/4期後半頃~9世紀4/4期に掛かる頃)の新相段階に出現するとされる。一方、坏С5類は「平底風の底部から口縁部は内彎気味または直線的に立ち上がる」タイプで、熊野 $\mathbb{N}$ 期(9世紀前半中心)に出現するとされる。10・11はその口縁部形態からC5類に相当するが、9とは法量に差がなく、かつ器形も体部の開きが大きいなどの点で違いがみられないことからC5類でも新しい様相を呈しており、C7類と共伴関係にあってもおかしくないと思われる。

須恵器坏 (第6図2~4) は検出数が少なく、全形のわかるものはないが、小型化する傾向が窺える。 特徴としては口縁部が肥厚し、外反すること、底部が未調整であることなどが挙げられる。また、土師器甕 (第6図12) は口縁部が完全な「コ」の字を呈している。これらの特徴からみても土師器坏と時期的に矛盾しないことから、1号住居跡は9世紀中頃から後半にかけての時期に位置づけられる。

2号住居跡は土師器坏がないが、須恵器高台付椀(第8図1~6)と土師器甕(第9図17~23)が

まとまって検出されたことから、これらの器種で時期を求めることができる。

須恵器高台付椀は、その器形や調整技法などから須恵器としたが主に酸化焔焼成によるものであり、 ロクロ土師器ともとれる中間的な様相を呈している。小型化が進み、いずれも体部の開きが大きく、短い高台が付く。口縁部は内湾しながら立ち上がるものもあるが、外反するものが多い。土師器甕は、口縁部の「コ」の字が崩れ、退化的な様相を呈する。全体的に器壁が厚く、口縁部は短い。

以上の特徴からみると、2号住居跡は10世紀前半に位置づけられる。富田氏による熊野編年は、10世紀前半以前までのものであることから該当する段階がない。次年度以降に報告する予定のB区では、2号住居跡と同時期の住居跡が6軒検出されており、このうち羽釜を伴う住居跡が2軒、伴わない住居跡が4軒検出されている。2号住居跡を含むこれらの住居跡がすべて同時期のものなのか、あるいは羽釜の有無に伴い時期差が存在するのか現時点では不明であるが、いずれにしても本遺跡で検出された10世紀前半の住居跡は、羽釜出現期段階を前後する時期に位置づけられるものと思われる。詳細については、B区の報告を待ちたい。なお、2号住居跡出土土器には灰釉陶器長頸瓶(第8図15・16)もあるが、破片での検出であることから時期決定の指標とするには難しい。よって、ここでは扱わなかったが、本遺跡集落跡では灰釉陶器はこの段階から出現してくる。

3号住居跡出土の土師器坏(第12図20~23)は、20・22が坏C5類、21が坏F類に相当する。23は底部のみであるが、平底気味であり、内面に放射状暗文が施されていることから熊野Ⅲ期(古相:8世紀1/4期末葉~中頃、新相:8世紀中頃~3/4期)以降にみられる暗文坏B類に相当する。坏F類は口径が大きく深身で平底気味を呈し、体部と底部がヘラ削り調整による。熊野Ⅳ期(8世紀4/4期を中心とした時期)に出現するとされるが、21は口径が他と比べて大差なく、口縁部が外反気味に開く点で新しい様相を呈していることから、20・22と共伴関係にあっても良いと思われる。

須恵器坏(第12図 $1\sim9$ )は、末野産を主体に南比企産も若干含まれるが、底部はすべて未調整である。深身で口縁部が外反し、底径が口径の1/2以下になるものもみられるようになり、土師器甕(第12図24)の口縁部が完全な「コ」の字を呈することと併せて熊野VI期古相的な様相も窺える。

以上のことをまとめると、3号住居跡は土師器坏が9世紀前半に位置づけられるが、やや新相を呈する須恵器坏や土師器甕の存在も考慮して9世紀前半から中頃にかけての時期とする。

4号住居跡では、土師器坏(第14図  $9\sim11$ )は9が坏F類、 $10\cdot11$ は坏С4類に相当する。坏С4類は「腰の位置が更に下がり、底部は平底に近づ」き、「口縁から体部は内彎気味に開く」タイプとされ、熊野皿期新相に出現するがIV期が主体になるとされている。よって、土師器坏は熊野IV期に相当する。

須恵器坏(第14図3~7)は末野産の他に南比企産も若干含まれている。いずれも厚手の作りで口縁部はほぼ直線的であり、底径が口径の1/2以上となる。底部は未調整のものと再調整のもの(回転糸切り後外周へラ削り)が含まれる。また、土師器甕(第14図12~18)は、口縁部が「く」の字を呈するものと「コ」の字に近いものが混在することから、土師器坏同様、熊野IV期に相当する。よって、4号住居跡は8世紀末頃を中心とした時期に位置づけられる。

5号住居跡は、土師器坏(第16図26~31)のうち、 $26 \cdot 27$ が坏F類でも新しい段階、 $28 \cdot 29$ が C 5 類に相当する。 $30 \cdot 31$ は破片であるため定かではないが、暗文坏B類でも深身の 2 類に相当すると思われる。ただし、体部の調整がヘラ削りではなく、指頭圧痕であるのは新しい要素といえる。

須恵器坏(第16図2~11)は末野産の他に南比企産も若干みられる。口縁部はやや外反するものもみられるが、内湾ないしほぼ直線的に立ち上がるものが主体となる。底径は口径より1/2ないしそれ以上となる。底部は未調整が多いが、南比企産で再調整(回転糸切り後外周へラ削り)のものも一点だけみられた。土師器甕は口縁部形態のわかるものは検出されていない。また、灰釉陶器長頸瓶(第16図23~25)が検出されているが、破片であり、他の出土遺物との時期関係からみて流れ込みの可能性が高い。

5号住居跡は土師器坏が熊野V期的な様相を示すが、須恵器坏にはやや古い面も残ることから、両者の存在を考慮して8世紀末頃から9世紀初頭にかけての時期とする。

6号住居跡は土師器甕(第17図1) 一点のみであるため、時期の特定が難しい。口縁部が「く」の字を呈するが、やや「コ」の字に近くなっていることから、8世紀末頃を中心とした時期としか言えない。7号住居跡では、土師器坏(第20図32~43) は暗文の施されたものが多く検出された。器形にバラエティがあるが、破片も含めすべてB2類に相当する。暗文のない坏では、33・35が坏C5類に相当する。

須恵器坏(第20図 2~24)も多数検出された。産地は末野産の他に南比企産が若干含まれており、 群馬産の可能性があるものもみられた。口縁部は外反するもの、内湾気味に立ち上がるもの、ほぼ直線 的なものなど様々である。底径は口径より1/2以上となる。底部は群馬産と思われるもの以外すべて未 調整である。なお、8~10は法量及びその器形から流れ込みと思われる。土師器甕(第20図44・45・ 第21図46~57)は、小型のものも含めて口縁部が「く」の字を呈するものと「コ」の字に近いものの 二者がほぼ定量で検出されている。

7号住居跡は土師器及び須恵器の坏が熊野V期に相当するものが多いが、土師器甕の口縁部形態が二通りあることを考慮して、8世紀末頃から9世紀初頭にかけての時期とする。

8号住居跡では、土師器坏(第23図19~25)が比較的多く検出された。19~21は坏C6類、22・23・25は坏C7類、24は坏C5類にそれぞれ相当すると思われるが、判別が難しい。坏C6類は、「平底風の底部から体部~口縁部にかけてS字状に緩やかに屈曲する」タイプであり、坏C5類とともに態野V期に出現する。そして、熊野VI期新相段階では体部の開きが大きくなり、S字状の屈曲が弱まるとされている。19~21はその特徴に当てはまることから、熊野VI期新相段階のものといえる。

須恵器坏(第23図  $4\sim17$ )は、ほぼ末野産で占められる。口縁部が外反するものとほぼ直線的なものがあり、前者では小型化したものもみられるようになる。底部はすべて未調整であるが、底径は口径より1/2以下となるものや1/2以上となるものなど様々である。土師器甕(第23図 $26\cdot27$ )は、ともに口縁部が完全な「コ」の字を呈している。

8号住居跡は土師器坏が熊野VI期新相段階に相当し、須恵器坏は一部に古い様相を呈するものもみられるが、主体となるものは土師器坏とほぼ同時期とみて良いことから、9世紀中頃を中心とした時期に位置づけられる。

次に土坑について述べる。土坑からは土師器坏が検出されていないが、須恵器坏や土師器甕などが検出されていることから、これらの器種で時期を求めることができる。

7号土坑は、須恵器坏(第31図1)と土師器甕(3)が検出されている。須恵器坏は南比企産であり、 器高が低く、口径が14cmと大きい。口縁部は直線的で、底部は再調整(回転糸切り後外周へラ削り)が 施されている。南比企産須恵器の年代について論じた渡辺 一氏の編年(渡辺1990)に照らし合わせ ると、本土坑出土の坏はHⅢ期前半(8世紀中頃)に相当する。土師器甕は口縁部が「く」の字を呈するが、全体的に間延びした感が見受けられる。「コ」の字直前段階にみられる「く」の字よりも古相を呈していることから、須恵器坏と共伴関係にあってもおかしくない。よって、7号土坑は8世紀中頃を中心とした時期に位置づけることができる。

13号土坑は、須恵器高台付椀(第32図1・2)から時期を求めることができる。須恵器高台付椀は酸化焔焼成によるものであり、口縁部が大きく外反し、体部の開きが大きいことから10世紀前半のものと思われる。また、この他に土師器鉢(第32図4)が検出されているが、厚手の作りで調整技法や胎土からみて2号住居跡出土の土師器甕に酷似している。よって、13号土坑は10世紀前半に位置づけられる。

14号土坑は、土師器甕(第32図1)一点のみであるが、厚手の作りで口縁部が短く、「コ」の字が崩れて退化的な様相を呈することから、2号住居跡及び13号土坑同様、10世紀前半と思われる。

次に奈良・平安時代の遺構で時期の特定できないものについて考察する。該当する遺構は、 $1 \cdot 2$ 号掘立柱建物跡と $1 \cdot 3 \sim 6$ 号土坑である。これらの遺構は、集落跡の存続期間内に存在していたことはほぼ間違いないと思われることから、周辺の遺構との配置関係や軸などから時期を推測してみたい。

1号掘立柱建物跡は、その位置をみると5号住居跡のすぐ北側に隣接している。5号住居跡とは約1 mしか離れていないことから、両者が併存していたとは考えづらい。5号住居跡は8世紀末から9世紀 初頭にかけての時期であることから、まずこの段階を除くことができる。そして、本建物跡はほぼ真北 方向を向くが、1号住居跡とは明らかに軸が異なることから、9世紀中頃から後半にかけての時期も該当しない。これらの時期を除くとなると、ピット1から出土した須恵器坏(第24図1)が活きてくる。底部のみの検出であるため時期が特定できなかったが、未調整で小型化している特徴を加味すると、本建物跡は9世紀前半から中頃にかけての時期と推測される。同時期の住居跡には3・8号住居跡があるが、これらの住居跡とは軸が合うこととなり、矛盾が生じない。

以上のことから、本建物跡は9世紀前半から中頃までの時期に位置づけたい。ただし、下限については1号住居跡とは軸が異なることから、1号住居跡以前の中頃段階までとする。

2号掘立柱建物跡は、第2区北西端に位置し、4・8号住居跡に囲まれた状態となっている。本建物跡のすぐ南側には4号住居跡が位置しているが、その距離は約1mと非常に近いことから両者が併存していたことは考えにくい。4号住居跡は8世紀末頃を中心とした時期であることから、まずこの段階が該当しないこととなる。次に軸をみると、本建物跡はやや北西に軸が傾いている。本建物跡は目安となる遺物がないことから、軸の合う遺構から時期を想定するしかない。本建物跡も1号建物跡同様、1号住居跡とは軸が明らかに異なることから9世紀中頃から後半にかけての時期は該当しない。軸の合う遺構としては、近隣に位置する7・8号住居跡や第2区東端に位置する2号住居跡などがある。よって、本建物跡はこれらの遺構の時期、つまり8世紀末頃~9世紀初頭、9世紀中頃、10世紀前半のいずれかの時期に属するとしか言えない。

土坑は1号土坑以外すべて1号掘立柱建物跡の西側に位置し、建物跡に関連する可能性があることから1号建物跡と同じ時期に位置づけたい。1号土坑は6号住居跡の南東に隣接して位置しているが、重複関係がなく、出土遺物も須恵器甕が検出されているもののすべて破片であることから、時期の特定は困難である。よって、1号土坑に関しては不明と言わざるを得ない。

以上、長々と説明してきたが、上記をまとめるとA区集落跡の変遷は次のとおりとなる。なお、()が付くものはあくまでも推測であるため、複数時期に表示することとなった。

8世紀中頃中心

: 7号土坑

8世紀末頃中心

:4・6 号住居跡

8世紀末頃~9世紀初頭

: 5 · 7 号住居跡、(2 号掘立柱建物跡)

9世紀前半~中頃

:3号住居跡、(1号掘立柱建物跡)、(3~6号土坑)

9世紀中頃中心

:8号住居跡、(1・2号掘立柱建物跡)、(3~6号土坑)

9世紀中頃~後半

: 1 号住居跡

10世紀前半

:2号住居跡、13・14号土坑、(2号掘立柱建物跡)

現時点で集落跡の上限となるのは、8世紀中頃である。ただし、検出された遺構は土坑のみであり、同段階の住居跡が存在するかは不明と言わざるを得ない。次段階の8世紀後半の遺構が検出されていないことを考慮すると、むしろ上限は8世紀末頃とみた方がいいかもしれない。下限は2号住居跡や13・14号土坑の存在から10世紀前半となる。2号住居跡の箇所でも述べたが、B区からも同時期の住居跡が6軒検出されており、A・B区併せて本遺跡の律令期集落跡では同段階の住居跡が最も多く検出されている。これらの住居跡はすべて同時期なのか、あるいは羽釜の有無に伴い時期差があるのかは現時点では不明であるが、いずれにしても下限は10世紀前半でも羽釜出現期段階を前後する時期といえる。

以上のように、集落跡は小規模ながらもほぼ絶えることなく営まれるが、9世紀後半から10世紀初頭にかけての段階のみ空白期間となる。ただ同段階に相当すると思われる遺物は、若干ではあるが検出されている。該当するのは、7号住居跡で流れ込みと判断した須恵器坏(第20図8~10)、8号土坑に伴うか否か不明の須恵器高台付椀(第31図1)、ピット35出土の須恵器高台付椀(第32図1)などである。これらの存在から単に住居跡が確認されていないだけの可能性も考えられるが、同段階に相当する遺物の僅少さは明らかであり、集落跡が営まれていたとは考えづらい。この空白期間については、これを埋める要素として周辺遺跡との関係から興味深い成果を得ることができたので、次節で述べることとする。

#### 周辺遺跡との関係について

律令期の集落跡は冒頭及び第Ⅱ章でも述べたとおり、本遺跡をはじめ周辺に多数所在し、主に古墳時代後期から平安時代まで連綿と続くものが多い。紙数に限りもあるためすべての集落跡について触れられないが、ここでは最も近隣に位置する三遺跡(樋の上遺跡、三ヶ尻遺跡、籠原裏遺跡)の集落跡についてその概要を述べ、前述の空白期間についてある見解を述べたい。

樋の上遺跡は、拾六間後遺跡の南東約0.5kmに位置する。拾六間後遺跡とはかなり近い距離にあるが、 櫛引台地下の自然堤防上に立地していることから立地条件が異なる。また、かつて樋の上遺跡南西の自 然堤防上に「上辻・下辻遺跡」(熊谷市教委1984)(埼埋文1983)と呼称した遺跡があったが、平成8 年度に行った遺跡地図整備の際、その内容について検討した結果、樋の上遺跡と同一の遺跡と判断され たため、現在は樋の上遺跡に包括された形となっている。

樋の上遺跡は、上記の「上辻・下辻遺跡」も含めるとこれまでに計9回の発掘調査が行われている (熊谷市教委1984・1985) (埼埋文1983・1986・1998)。詳細についてはここでは触れないが、検出 された遺構は住居跡や掘立柱建物跡、溝跡などであり、このうち住居数は合計100軒以上にものぼる。 時期は7世紀中頃を出現期として、以後途切れることなく羽釜やロクロ土師器を伴う10世紀中頃段階ま で続いており、非常に長い期間に亘って営まれた集落跡であることが明らかとなっている。

三ヶ尻遺跡は拾六間後遺跡の南西約1.5Kmに位置しており、櫛引台地でも荒川寄りの東端縁辺部に立地している。これまでに計5回の発掘調査が実施されており、検出された遺構には住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、土坑などがある(熊谷市教委2002・2003)(熊谷市三ヶ尻遺調会1999)(埼埋文1983・1984)。時期は6世紀末頃から10世紀初頭段階までと幅広い。調査地点が点々としていることから時代及び時期別に集落跡の具体的な広がりを把握することは難しいが、三ヶ尻遺跡の集落跡は樋の上遺跡よりもさらに古い段階から出現し、以後長期間に亘って営まれていたことが確認されている。

上記の二遺跡は、古墳時代後期から平安時代まで途切れることなく集落跡が続いており、検出された住居数と広大な遺跡範囲から想定すると、大規模集落であったことは間違いない。それに対し、次に述べる籠原裏遺跡は上記の二遺跡とは異なり、周辺遺跡の中では特異な様相を呈している。

籠原裏遺跡は拾六間後遺跡の北東約1 Kmに所在し、櫛引台地東端縁辺部に立地する。籠原裏遺跡では昭和61年度から計5回に亘って発掘調査が実施されており、律令期の遺構として住居跡や掘立柱建物跡、柵列跡、溝跡、土坑などが検出されている(熊谷市教委2004)。籠原裏遺跡が周辺遺跡と比べて特異なのは、その時期についてである。籠原裏遺跡では遺構のみならず遺構外からも大量の土器が検出されているが、律令期に該当する土器はすべて9世紀後半から10世紀初頭段階までのものに限定されており、拾六間後遺跡ではほとんどみられなかった9世紀後半以降に急増する須恵器高台付椀や皿などが大量に検出されているのである。つまり、籠原裏遺跡の律令期集落跡は、9世紀後半から10世紀初頭段階までの一時期に限定される短期集落跡なのである。

以上のことを勘案すると、拾六間後遺跡における空白期間が氷解する。つまり、拾六間後遺跡で空白期間となる9世紀後半から10世紀初頭にかけての段階のみ集落跡を一時的に籠原裏遺跡に移した可能性が考えられるのである。両遺跡はともに櫛引台地東端縁辺部に立地し、距離も約1 Kmと近い。また、集落規模も樋の上遺跡や三ヶ尻遺跡に比べると大規模とは言えず、ともに小規模と言える点で共通性を持つ。移住の理由については、周辺地域一帯が関東造盆地運動に伴う地盤の沈降や河川の氾濫などの影響を受けていることからそれが原因とも考えられるが、隣接する樋の上遺跡では同段階においても集落跡が引き続き営まれていたことを考慮すると、必ずしもそれだけが原因とは思えない。この点に関しては明確な根拠を示すことは難しいが、9世紀後半から10世紀初頭段階にかけて集落跡が一時的に移動したことを想定することで拾六間後遺跡における空白期間が埋まることから、ここではその可能性があることを指摘して本稿の律令期集落跡のまとめとしたい。

最後に本遺跡では律令期だけでなく、他時代の遺構・遺物も検出されていることから若干触れておく。まず、中世について。今回の調査で確実に中世段階といえる遺構は、火葬跡1基のみである。しかし、 B区では中世段階と思われる土坑が多数検出されている。現時点では正確な数は把握できていないが、 おびただしい数の土坑が重複関係を持ちながら分布しているのが確認されている。ただ中世段階については、今回検出された火葬跡も含めて中世の遺構が遺跡範囲内でも東側に集中して分布する傾向にある こと以外に明らかとなったことはなく、実状については不明と言わざるを得ない。 近世の遺構は、土坑2基(9・10号土坑)のみである。近世段階についても、現時点では2基の土坑 が遺物の出土状況から廃棄遺構であること以外に明らかとなったことはない。

なお、本遺跡で検出された土坑で時期が特定できず、覆土に礫を含むもの(2・8・11・12・15・16号土坑)があるが、これらの特徴を有する土坑は周辺遺跡においても類例がみられる。籠原裏遺跡で検出された土坑では、礫に混じって中・近世の遺物が混在して検出されている。土坑の性格及び用途については不明であるが、類例を基にすれば本遺跡の土坑も中世か近世のいずれかに属するものと思われる。

中・近世段階については主に三ヶ尻方面での検出例が多いが、本遺跡がどういった性格を持つのか、 またこれらとどのようなつながりを持つのかについては不明と言わざるを得ない。

最後に縄文時代について。本遺跡では遺構は検出されていないが、遺物は若干検出されている。こうした状況は樋の上遺跡や籠原裏遺跡においても当てはまることから、集落跡の未確認というわけではないようである。周辺には縄文時代の集落跡が確認された三ヶ尻遺跡や深谷市域に所在する遺跡がみられることから、これらの遺跡からの影響と捉えておきたい。

以上、A区の成果から現時点で明らかとなったことについて述べた。しかし、本遺跡についてはまだ B区の成果を基に再考する余地がある。よって、次年度以降に実施予定のB区の報告を待って再度各時 代及び時期の検討を行ってみたい。

#### 引用・参考文献

熊谷市遺跡調査会 2001 『諏訪木遺跡』

熊谷市教育委員会 1979 『中条条里遺跡調査報告書。』

1980 『中条遺跡群・中島遺跡』

1982 『中条遺跡群Ⅲ 権現山古墳・常光院東遺跡』

1982 『中条遺跡群』

1984 『三尻遺跡群 上辻・下辻遺跡』

1985 『三ヶ尻遺跡群 黒沢館・樋ノ上遺跡』

1986 『三ヶ尻遺跡群 若松遺跡・黒沢遺跡・東遺跡』

1988 『寺東・八反田・東耕地・入川・深町遺跡』

1988 『三ヶ尻遺跡群 社裏遺跡・社裏北遺跡・社裏南遺跡』

1900 『西方遺跡』

1992 『西別府廃寺』

1994 『西別府廃寺(第二次)』

1999 『横間栗遺跡』

2000 『一本木前遺跡』

2000 『寺東遺跡・別府氏館跡』

2001 『一本木前遺跡Ⅱ』

2002 『一本木前遺跡Ⅱ』

2002 『前中西遺跡Ⅱ』

2002 『三ヶ尻遺跡Ⅱ』

2003 『一本木前遺跡Ⅳ』

2003 『前中西遺跡Ⅲ』

2003 『三ヶ尻遺跡Ⅲ』

2004 『一本木前遺跡V』

2004 『籠原裏遺跡』

2005 『籠原裏古墳群』

熊谷市籠原裏遺跡調査会 2000 『籠原裏古墳群10号墳』

熊谷市三ヶ尻遺跡調査会 1999 『三ヶ尻遺跡』

江南町教育委員会 1983 『姥ヶ沢遺跡 I』

1988 『本田・東台・上前原』

江南町教育委員会・江南町千代遺跡群発掘調査会 1996 『千代遺跡群―縄文時代編―』

1998 『千代遺跡群―弥生・古墳時代編―』

埼玉県遺跡調査会 1971 『横塚山古墳』

埼玉県教育委員会 1984 『池守・池上』

1988 『埼玉の中世城館跡』

(財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1983 『三ヶ尻天王·三ヶ尻林(1)』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第23集

1984 『三ヶ尻林(2)・台』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第34集

1986 『樋の上遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第59集

1987 『下辻遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第69集

1989 『北島遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第81集

1989 『新田裏・明戸東・原遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第85集

1989 『北島遺跡Ⅱ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第88集

1990 『東川端遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第94集

1991 『北島遺跡Ⅲ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第103集

1991 『小敷田遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集

1993 『上敷免遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第128集

1995 『根絡・横間栗・関下』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第153集

1998 『樋の上/皇山』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第205集

2002 『北島遺跡 V』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第278集

2002 『熊野遺跡 (A・C・D区)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第279集

2003 『北島遺跡 VI』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第286集

深谷市教育委員会 1998 『常磐町東遺跡』

1999 『小台遺跡 (第7次)』

2000 『皿沼西/堀南』

2000 『根岸遺跡 (第3次・第4次)』

渡辺 一 1990 「南比企窯跡群の須恵器の年代~鳩山窯跡の年代を中心に~」『埼玉考古』第27号

# 写 真 図 版





第1号住居跡



第 1 号住居跡 鉄滓出土状況



第1号住居跡カマド



第 1 号住居跡 石製品出土状況



第 1 号住居跡 土器出土状況



第2号住居跡



第1号住居跡 鉄製品(刀子)出土状況



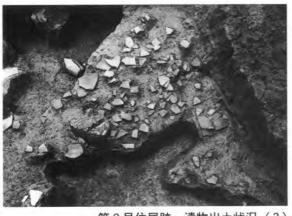
第2号住居跡 遺物出土状況 (1)



第2号住居跡 遺物出土状況 (2)



第3号住居跡カマド



第2号住居跡 遺物出土状況(3)



第4号住居跡



第2号住居跡 土器出土状況



第 4 号住居跡 土器出土状況



第3号住居跡



第5号住居跡カマド



第5号住居跡



第6号住居跡・第1号土坑



第7号住居跡



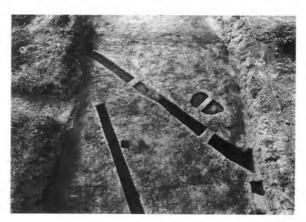
第7号住居跡 土器出土状況



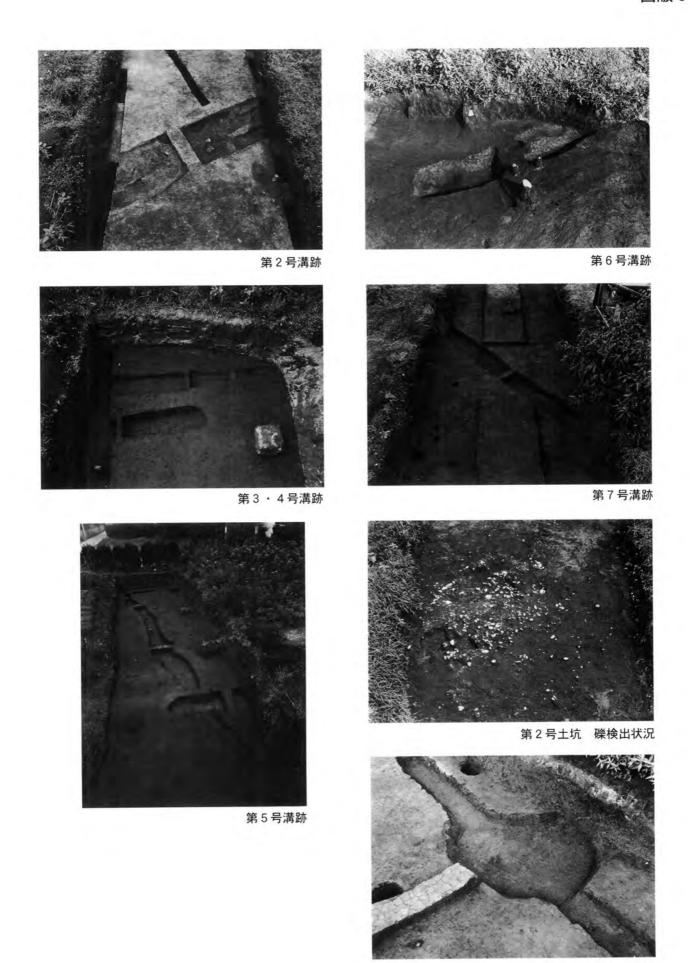
第8号住居跡



第8号住居跡 土器出土状況



第1号溝跡



第7号土坑



第7号土坑 土器出土状況 (1)



第8号土坑 礫検出状況



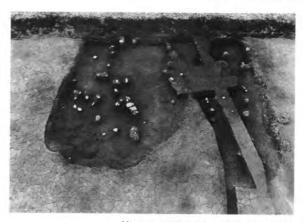
第7号土坑 土器出土状況 (2)



第9·10号土坑



第7号土坑 土器出土状況 (3)



第9·10号土坑 遺物出土状況



第8号土坑



第9号土坑 銅製品出土状況



第10号土坑 磁器出土状況



第12号土坑



第10号土坑 銅製品 (煙管) 出土状況



第12号土坑 礫検出状況



第10号土坑 古銭出土状況



第13号土坑



第11号土坑



第14号土坑 土器出土状況



第15号土坑 礫検出状況



第 1 号火葬跡 炭化物検出状況



第16号土坑 礫検出状況



ピット35 土器出土状況



第1号集石



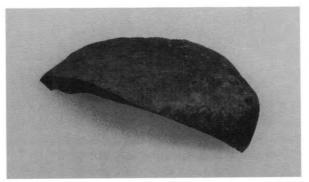
ピット38~48



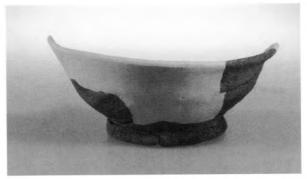
第 1 号火葬跡



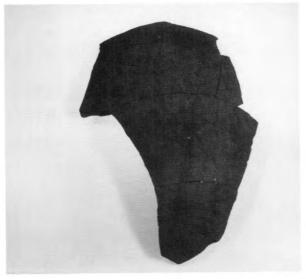
作業風景



第1号住居跡 第6図5



第2号住居跡 第8図1



第1号住居跡 第6図8

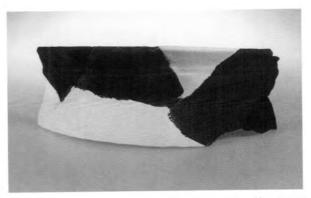


第2号住居跡 第8図2

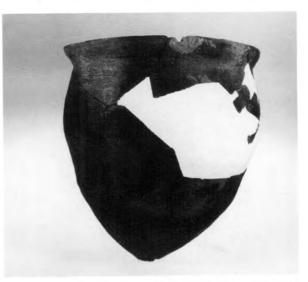


第1号住居跡 第6図9





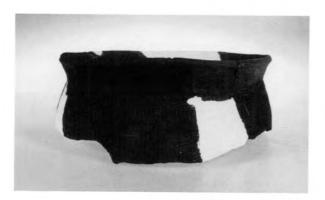
第1号住居跡 第6図12



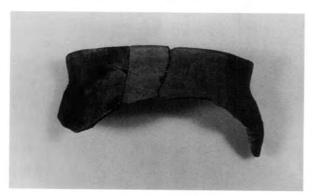
第2号住居跡 第9図17



第2号住居跡 第9図18



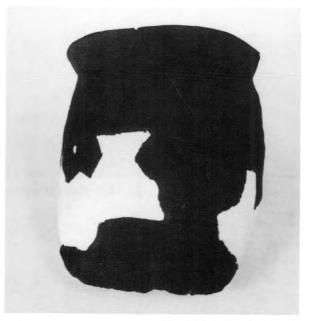
第2号住居跡 第9図19



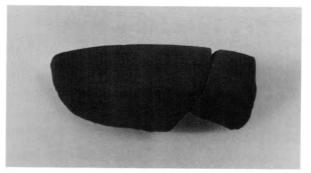
第2号住居跡 第9図20



第2号住居跡 第9図22



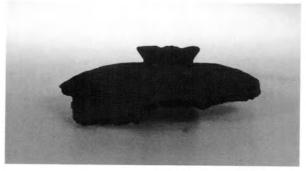
第2号住居跡 第9図21



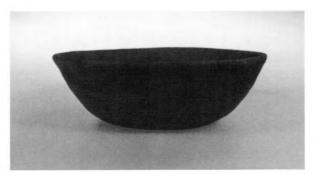
第3号住居跡 第12図21



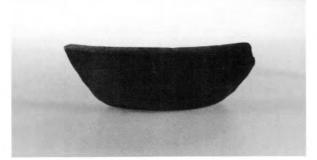
第3号住居跡 第12図23暗文



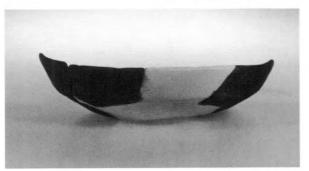
第4号住居跡 第14図1



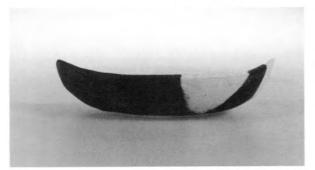
第4号住居跡 第14図3



第4号住居跡 第14図4



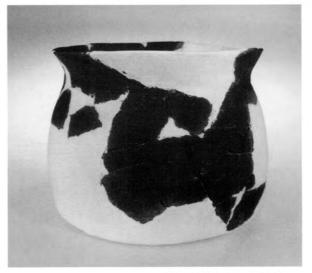
第4号住居跡 第14図9



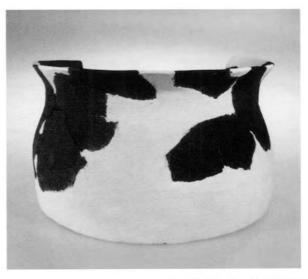
第4号住居跡 第14図10



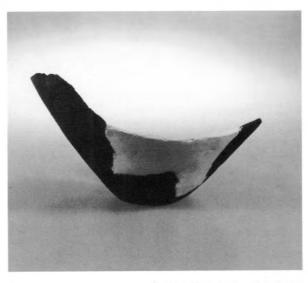
第5号住居跡 第16図2



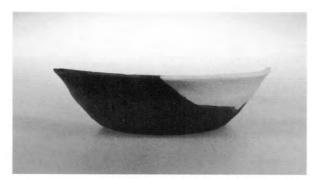
第4号住居跡 第14図12



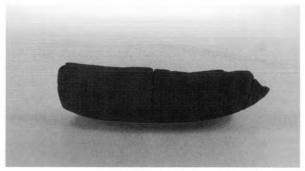
第4号住居跡 第14図13



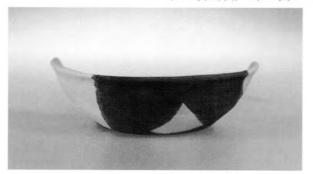
第4号住居跡 第14図15



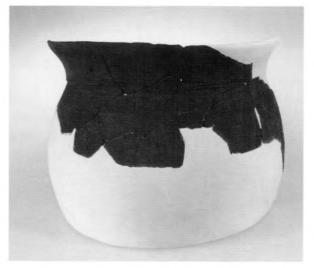
第5号住居跡 第16図3



第5号住居跡 第16図29



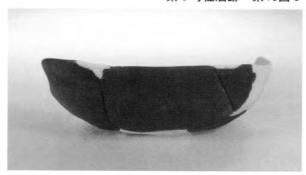
第5号住居跡 第16図4



第6号住居跡 第17図1



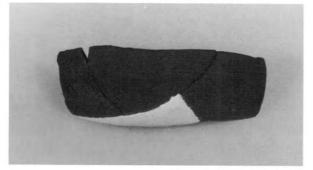
第5号住居跡 第16図6



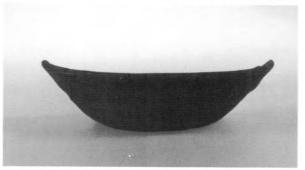
第5号住居跡 第16図26



第7号住居跡 第20図1



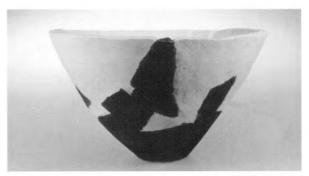
第5号住居跡 第16図28



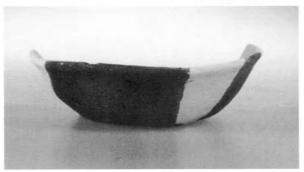
第7号住居跡 第20図4



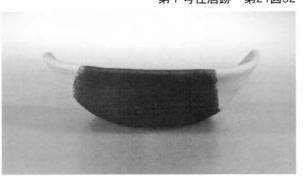
第7号住居跡 第20図5



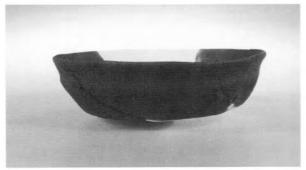
第7号住居跡 第21図52



第7号住居跡 第20図7



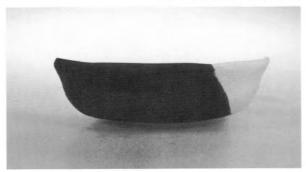
第8号住居跡 第23図4



第7号住居跡 第20図32



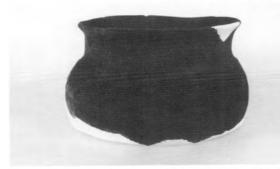
第8号住居跡 第23図5



第7号住居跡 第20図33



第8号住居跡 第23図6



第7号住居跡 第21図51



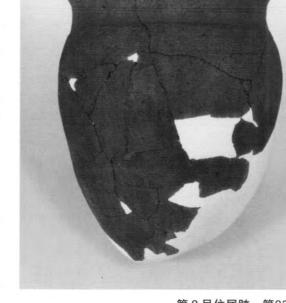
第8号住居跡 第23図7



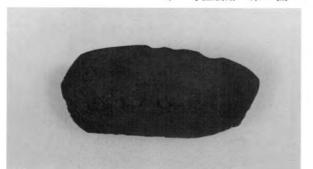
第8号住居跡 第23図18



第8号住居跡 第23図19



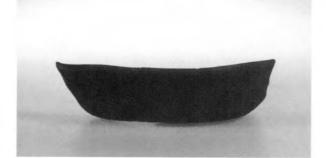
第8号住居跡 第23図27



第8号住居跡 第23図20



第7号土坑 第31図3



第8号住居跡 第23図22



第7号土坑 第31図1



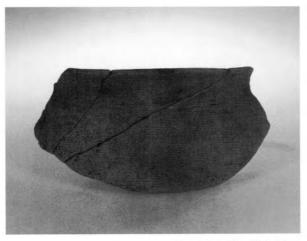
第13号土坑 第32図3



第13号土坑 第32図 4



遺構外 第36図14



第14号土坑 第32図 1



遺構外 第36図57底面



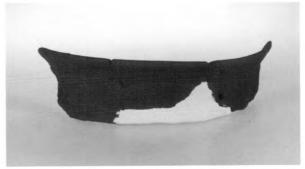
ピット35 第32図1



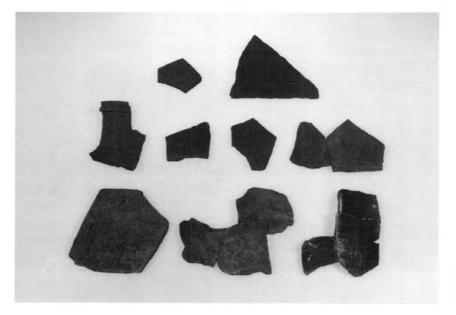
遺構外 第39図113



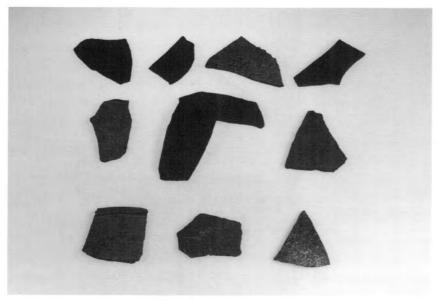
遺構外 第36図13



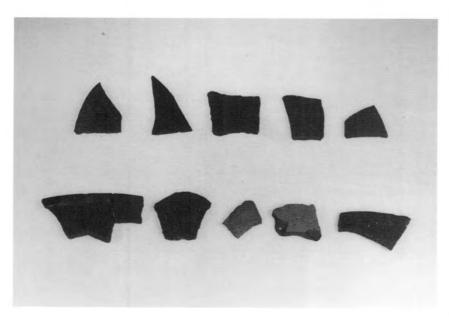
遺構外 第40図119



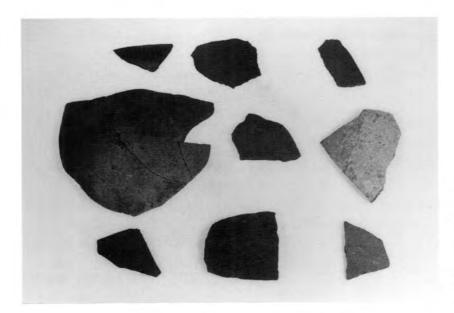
第 1 号住居跡 第 6 図 6 · 7 第 2 号住居跡 第 8 図 8 ~ 14



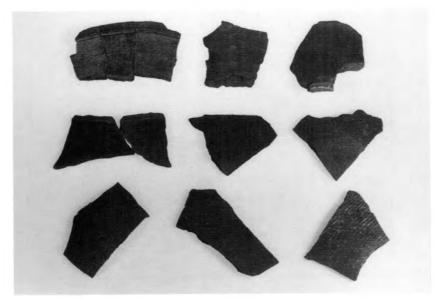
第3号住居跡 第12図13~19 第5号住居跡 第16図15~17



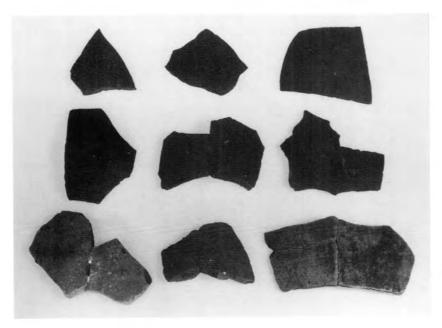
第5号住居跡 第16図18~22 第7号住居跡 第20図27~31



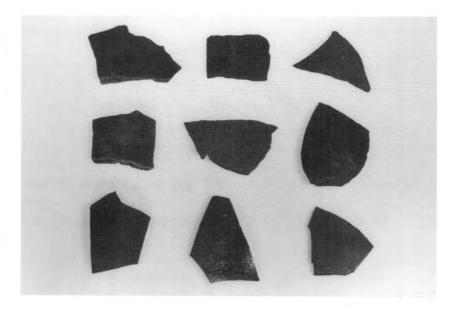
第1号掘立柱建物跡 第24図 2 3 第2号掘立柱建物跡 第24図 1 第1号土坑 第31図 1~3 第5号土坑 第31図 1 第7号土坑 第31図 2 ピット31 第32図 1



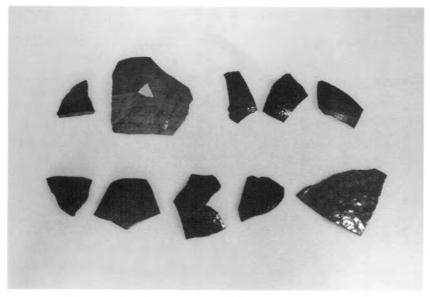
遺構外 第37図59·62·63 67·69·72 73·75·76



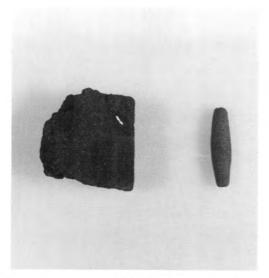
遺構外 第37図78・79 第38図80・81・85 87~90



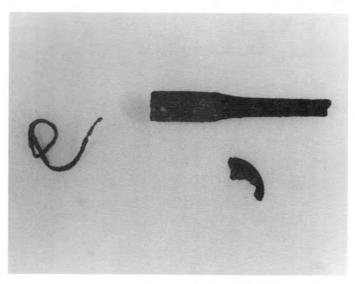
遺構外 第38図93・94・96 98 第39図100・103・105 109・110



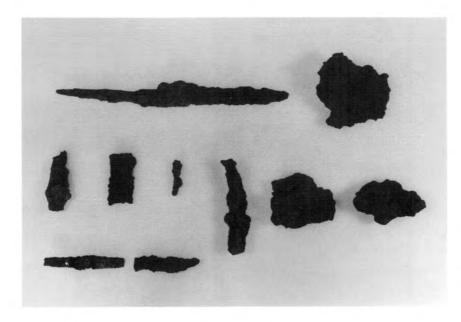
第2号住居跡 第8図15·16 第5号住居跡 第16図23~25 遺構外 第39図114~118



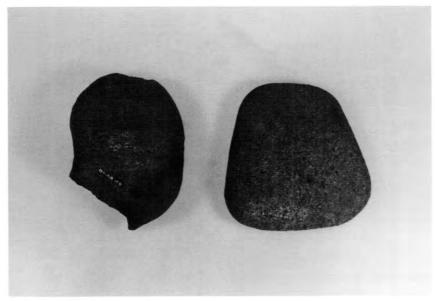
第3号住居跡 第12図27 遺構外 第40図129



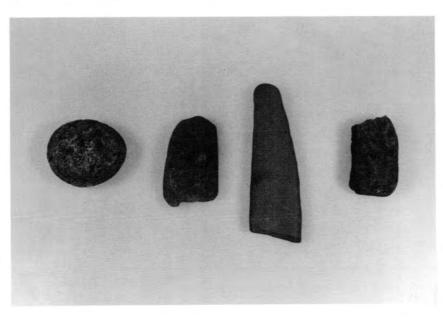
第9号土坑 第31図7 第10号土坑 第31図7・8



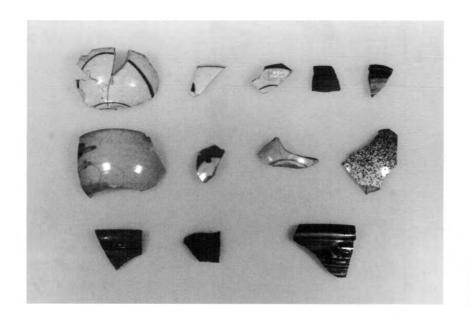
第 1 号住居跡 第 6 図 13・14 第 5 号住居跡 第 16 図 34 第 8 号住居跡 第 23 図 30 第 9 号土坑 第 31 図 6 遺構外 第 40 図 130~133



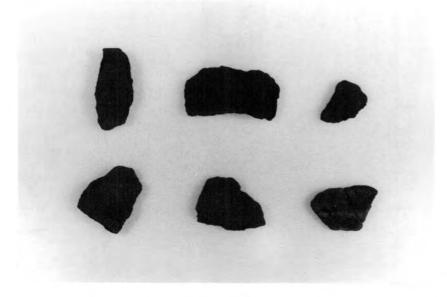
第 1 号住居跡 第 6 図 15 第 4 号住居跡 第 14図 19



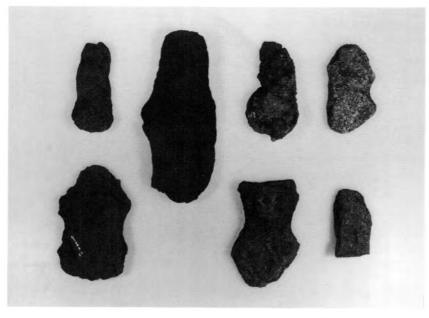
第2号住居跡 第9 図24 第5号住居跡 第16図35・36 遺構外 第40図134



第9号土坑 第31図1~5 第10号土坑 第31図1~6 遺構外 第40図137



第7号住居跡 第21図59 遺構外 第35図1~5



第9号土坑 第31図8 遺構外 第35図6~11

# 報告書抄録

| ふりがな            | じゅうろっけんうしろいせき       |                  |                              |         |                     |       |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
|-----------------|---------------------|------------------|------------------------------|---------|---------------------|-------|---------------|---------|------------|--|--|--|--|--|--|
| 書名              | 拾六間後遺跡              |                  |                              |         |                     |       |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
| 副 書 名           | 平成17年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書 |                  |                              |         |                     |       |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
| 巻 次             |                     |                  |                              |         |                     |       |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
| シリーズ名           | www.noonabete       |                  |                              |         |                     |       |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
| シリーズ番号          |                     |                  |                              |         |                     |       |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
| 編集者名            | 松田                  | 哲                |                              |         |                     |       |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
| 編集機関            | 埼玉県                 | 熊谷市教育            | 委員会                          | <b></b> |                     |       |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
| 所 在 地           | 〒360                | -8601 熊名         | 冷市宮町 2 -47-1 TEL048-524-1111 |         |                     |       |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
| 発行年月日           | 西暦20                | 006(平成18         | 8) 年3月:                      | 31日     |                     |       | <b>J</b>      |         |            |  |  |  |  |  |  |
| ふりがな            | ふり                  | がな               | Ę                            | ード      | 北緯  東緯              |       | 調査期間          | 調査面積    | 調査原因       |  |  |  |  |  |  |
| 所収遺跡名           | 所:                  | 在 地              | 市町村                          | 遺跡番号    | (° ′ ″ )            | (°′″) | M-4-E-7/411-1 | (m²)    | 77.3.2.7.3 |  |  |  |  |  |  |
| じゅうろっけんうしろ い せき |                     | にいほりしんでん<br>新堀新田 |                              |         | 36°                 | 139°  | 19880701      |         | 区画整理       |  |  |  |  |  |  |
| 拾六間後遺跡          | あざじゅうろっけん           |                  | 11202                        | 059     | 9′                  | 19′   | ~             | 2,400   | 街路築造       |  |  |  |  |  |  |
|                 | 1 111 / (16)        | 12 10 1 2 12     |                              |         | 59"                 | 45"   | 19881022      |         | 工事         |  |  |  |  |  |  |
| 所収遺跡名           | 種別                  | 主な時代             | 主な                           | 遺構      | 主な                  | 遺物    | 特記事項          |         |            |  |  |  |  |  |  |
|                 |                     | 縄文時代             |                              |         | 土器・石                | 器     |               | <b></b> |            |  |  |  |  |  |  |
|                 |                     | 奈良·平安時代          | 住居跡 8軒                       |         | 土師器・                | 須恵器   |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
|                 |                     |                  | 掘立柱建                         | 生物跡 2 棟 | 灰釉・緑彩               | 由陶器   |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
|                 |                     |                  | 土坑                           | 8基      | 土製品・                | 鉄製品   |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
|                 |                     |                  |                              |         | 鉄滓・石                | 製品    |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
|                 | 集落跡                 | 中世               | 火葬跡 1基                       |         |                     | -     |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
| 拾六間後遺跡          |                     | 近世               | 土坑                           | 2基      | 陶磁器・かわらけ<br>鉄製品・銅製品 |       |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
|                 |                     |                  |                              |         |                     |       |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
|                 |                     |                  |                              |         | 古銭・石製品              |       |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
|                 |                     | 時期不明             | 溝跡 7条                        |         |                     |       |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
|                 |                     |                  | 土坑 6基                        |         |                     |       |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
|                 |                     |                  | 集石                           | 1基      |                     |       |               |         |            |  |  |  |  |  |  |
|                 |                     |                  | ピット群                         | ¥<br>   |                     |       |               |         |            |  |  |  |  |  |  |

平成17年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

一熊谷都市計画事業籠原中央第二土地区画整理事業地内遺跡発掘調査報告書-

### 拾六間後遺跡

平成18年3月31日発行 発行/埼玉県熊谷市教育委員会 印刷/プロセスWELL株式会社